大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十四年二月二十五日印刷納本・昭和十四年三月一日發行・毎月一回一日發行・

第廿二輯第三號　昭和十四年三月一日

建築と社會

3

日本建築協會

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許四〇個・實用新案登錄六〇個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式融金付自動閉鎖戸

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐・戸車

各種防火扉・鋼製建具類

應用特殊機械類設計製作

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二製作所提携

株式會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)局 三七三七 三七三八 三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

新刊豫告

昭和十四年改訂第九版

三月中旬發行

昭和十四年二月增補　本綴　菊截判

市街地建築物法令

附・防空建築規則

本書は現行の**市街地建築物法を始め最近改正實施された**“**市街地建築物法施行令**”・“**同法施行規則**”・“**同法施行細則**”（大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳【東京府】、神奈川縣、愛知縣、福岡縣）等々**その他**“**同法關係法令**”を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。

建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くべからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價50錢　送料6錢●

日本建築協會發行

大阪北區朝日ビル4階

振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店　柳々堂書店

會　　告

今般理事副會長竹腰健造氏辭任に付昭和14年2月17日開會の評議員會に於て補缺選擧を執行致しました結果下記の通り當選相成り2月23日附變更登記終了いたしました

理事　副會長　坂　靜　雄氏

昭和14年3月

社團法人　日本建築協會

三月例會豫告

日時　3月16日（木）午後六時開會

場所　建築クラブ室

講演

防空關係法規に就て　大阪府防空課長　久下勝次氏

防空建築規則に就て　大阪府建築課長　中澤誠一郎氏

（講演後質疑應答を行ふ）

上記の通り開催可致候間御聽講被下度別に例會通知可仕候も不取敢豫告候也

昭和14年3月

社團法人　日本建築協會

會　　告

謹啓愈御隆盛奉賀候

陳者日本建築協會西谷節君事此度辭職相成候處同君は去る大正十一年我協會が劃期的大事業として櫻丘に開催せる住宅大博覽會事務局に招傭のため大正十年二月大阪府より轉じ本會書記として今日に至り在職實に十八ヶ年の長年月を日夜精勵會務に執掌殆く其半世を協會のために捧げられたるものに有之候

同君は御存知の通圓滿溫厚の誠實家にして眞に二十年一日の如く會務に精勵せられ本會今日の隆盛に寄與せし處尠からず候就ては同君多年の勞に酬ひる爲め吾等相謀り下記要項により慰勞金募集いたし度時局柄誠に乍恐縮何卒御賛同の上多少に不拘御申込み被成下度此段辱知各位に希上候

要　　項

一、金　　額　貳圓以上

一、拂込方法　振替（大阪三九九七五番日本建築協會宛、但通信欄に會費と混同せざる樣西谷書記慰勞金と記入の事）又は爲替直接御屆け等

一、領收書　「建築と社會」四月號誌上に揭載す

一、贈呈方法　發起人に御一任下され度候

昭和十四年二月

西谷書記慰勞金募集發起人

第一回御申込領收濟高　￥　981.00　一月二十五日現在にて二月號揭載濟分

第二回御申込領收濟高　￥　532.00　二月二十八日現在

累計合計　￥　1513.00

第二回受領者芳名（二月末日現在 五十音順）

秋田喜代治殿	2.00	荒川利一殿	2.00	阿部日出夫殿	2.00
伊東忠太殿	3.00	池田谷久吉殿	2.00	岩尾安衛殿	3.00
岩崎甚太郎殿	2.00	飯田賢次殿	2.00	伊藤和夫殿	10.00
猪瀬幸太郎殿	2.00	浦英之助殿	3.00	大阪窯業會社殿	5.00
小笹德藏殿	5.00	大塚錦三殿	2.00	小川安一郎殿	5.00
小山源次郎殿	2.00	大倉三郎殿	3.00	大石忠夫殿	3.00
岡部顯則殿	5.00	置鹽章殿	10.00	籠田定憲殿	2.00
河津喜之助殿	5.00	龜井幸次郎殿	5.00	加納眞一殿	5.00
來山源藏殿	3.00	木村寬一殿	10.00	北垣熊之介殿	5.00
楠瀨澈殿	2.00	熊取谷熊治郎殿	5.00	黑澤研殿	2.00
檜田藤郎殿	3.00	高坂信次郎殿	5.00	作間日出生殿	2.00
酒井彌三郎殿	2.00	阪井米吉殿	2.00	坂本啓一殿	3.00
白杉龜三殿	10.00	城口龜吉殿	10.00	清水釘吉殿	100.00
篠原太郎殿	3.00	鈴木一幸殿	20.00	杉浦巴殿	2.00
錢高久吉殿	20.00	谷民藏殿	10.00	高橋貞太郎殿	2.00
武富英一殿	3.00	棚橋諒殿	10.00	田中綱殿	5.00
高橋榮治殿	5.00	竹中景一殿	3.00	辻正雄殿	5.00
坪井誠一殿	3.00	鳥井信殿	10.00	中村義雄殿	2.00
永澤毅一殿	3.00	中野順次郎殿	3.00	中澤誠一郎殿	10.00
內藤亮一殿	5.00	中西六郎殿	20.00	中島敏雄殿	5.00
中村源太郎殿	3.00	日本ポルトランドセメント同業會殿	10.00	西原修三殿	5.00
西原工業所殿	5.00	花田長一殿	2.00	伴秀雄殿	5.00
橋本勉殿	10.00	日高胖殿	30.00	藤原義一殿	2.00
藤田重太郎殿	3.00	本多正道殿	2.00	堀口甚吉殿	10.00
保園源三殿	5.00	松本禹象殿	10.00	松井貴太郎殿	10.00
松久保敬三殿	5.00	松尾岩雄殿	10.00	前內文二郎殿	2.00
道田泰次郎殿	2.00	宮崎春夫殿	2.00	宮本長次殿	5.00
村野藤吾殿	5.00	村上徹一殿	5.00	村井進殿	2.00
元艮勳殿	2.00	森本藤吉殿	5.00	矢田鐵藏殿	5.00
矢野義夫殿	2.00	山中茂一殿	5.00	山口儀三郎殿	5.00
藪中一艮殿	2.00	吉本政次郎殿	2.00	呼子正殿	2.00
吉田信武殿	10.00	和田貞次郎殿	3.00	渡實幸殿	2.00
和田治郎市殿	5.00				

合計 ￥603.00

以上御申込金正に受領仕り候

此外二月末日現在に於ける未領收中の御申込を受けたる15件￥268.00也は收入濟の上次號に揭載致すべく候

尙締切二月未日の處如上通り未だ集金を了せざる向もあり又遂次御申込を受けつつ有之候條**三月二十日**迄受付の事に延期仕候間御思召の方もあらば此際至急御申込願上度希望仕候

昭和十四年三月

社團法人 日本建築協會內 西谷書記慰勞金募集發起人一同

卷頭言

我國が毎年被る、計算に乘らない程の甚大な損害を惹起せしむる、洪水、火災、雪害、旱魃及土地利用の不適性から來る都市及農山漁村の自然的並人的資源の浪費は見透のきいた將來への企畫によつて避け得たかも知れない。即ち國土に關する綜合的計畫技術の缺除、惡條件下の勞働と生活、敎育並厚生施設の跛行性、福利計畫の缺除から來る社會的不安と憂慮が貴重なる人的資源に與へた慘憺たる損失の大部分をば國土計畫に立脚した地方並都市計畫の緊密なる調和のとれた健全なる應用によつて阻止し得ると云ふ學科的確信の上に現下の非常時局に於ける長期建設への技術的出發がなされねばならない。

政府の聲明にある「帝國は必要なる國內諸般の改新を斷行して愈々國家總力の擴充を圖り萬難を排して斯業の達成に邁進せざるべからず」と云ふ帝國不動の方針と確乎たる決意は、此の綜合技術の綜合性による技術的處理に俟つて初めて具體的に闡明されるものでなければならぬ。而も此の綜合性への計畫技術の確立が〝新秩序の建設〟とか〝共同使命の下に堅き結合〟とか云ふ抽象的用語に具體的生命を與へるところの唯一の道であると思ふ。

然らば技術の綜合性とはなにか？之れが今日の課題として專門に禍されながら、現代に生活してゐる我國建築家1人1人の前に展開された直接的な問題ではなからうか。

今や、興亞院に技術部が創設され、企劃院には技術的調査の重用性が認識されて來た。此の驚くべき時潮を凝視するとき、今日の我が國建築界をして、如斯新事態に對處するの必要から、革新のメスが何處かに下されねばならぬことを痛感する。

革新の前途には多くの茨の道が横はつてゐる。然し乍ら國是の目標は決定的である。而も此の決定的なる目標への進軍に、力强くその步調を揃へるべく、現代我が國建築界の機構は、再檢討されねばならない。

建築と社會

第22輯　第3號　昭和14年3月發行

三月號

目　次

卷頭言

市街地建築物法令改正の要旨……伊東五郎（1）

美觀審査委員會とその運用に就て……平野眞三（9）

木造家屋改修方法試案……宮田秀穗 石川儀有 奈良幸次郎（16）

市街地建築物法改正に關する座談會……（20）

俗說吊天井……大熊喜邦（39）

・建築と色彩・

古典建築の色彩に就て……瀧澤眞弓（42）

建築と色彩……太田喜二郎（49）

建築と色彩……富士岡重一（50）

建築と色彩……モトノ・セイゴ（59）

日本建築の彩色……藤原義一（61）

學界近時……棚橋諒（67）

・紫烟室・

〃池田宏〃さんのことども……龜井孝次郎（68）

時局偶感……加藤善吉（70）

私の放言……岩尾保衛（72）

「二宮翁夜話」摘記……平野彌助（73）

公式的……堀口甚吉（74）

・文獻・

都市空襲の實例……森口清（76）

氣の付かぬ大火災原因……永野眞次（80）

・時報・

防空建築規則……（82）

・新建築欄・

米忠味噌本店　大久保氏邸　神戸海洋氣象臺　北方獨逸 Brounschweig の地方指導者養成所（ドイツ）　ヒツトラー・ユーゲント郊外の家（ドイツ）　ロンドン熱病院の隔離病室（イギリス）　新しい教會建築（イタリー）　Greifswoedの自動車憲兵隊宿舍（ドイツ）　Altdam の自動車憲兵隊宿舍（ドイツ）　Golden Gate を望むレストラン（アメリカ）

會報……（85）

市街地建築物法令改正の要旨

伊東五郎

昨年3月公布になつた市街地建築物法中改正の法律に關聯する施行令並に施行規則の改正及防空建築規則の制定に付ては其の後內務省に於て準備中の處、本年1月9日改正法律の施行期日並に施行令中改正の2勅令及施行規則中改正の內務省令が公布せられ、何れも去る2月1日から施行になつた事は既に本誌上に掲載された通りである。

法令を通じて今回の改正の要點は

1. 用途地域制の強化整備
2. 建築物の密度並に道路幅に關する規定の強化
3. 防空上必要な建築物の構造設備に關する規定の制定（內務省令「防空建築規則」中に取纏め近く公布の見込）

等、即ち都市計畫及都市防空に關する事項を主としたものであつて、特に內容の重要性に鑑み都市計畫中央委員會及中央防空委員會に諮問せられ其の答申を基礎として立案されたのである。

以下防空建築規則關係を除き法令改正の要旨に就き事項別に記述することゝし度い。

用途地域制に關する改正

用途地域の關係は昭和6年及8年に施行令第1條第2條及第3條（各地域に於ける用途制限）及第3條の2（不適格建築物に對する制限）の規定が改正されてゐるが、由來此の制度に付ては、特に各方面の論議が多く、規定の改正は相當久しい間の懸案となつてゐたのである今回の改正に依つて懸案の諸問題に對し一應の解答が與へられたものと考へられるのであるが尙將來の研究に殘された重要な問題も亦尠くないことゝ思ふ。

（1）住居專用地區の制度を設けたこと（**法律第2條第2項、規則第3條の2**）

從來の規定に依れば、店舖、飮食店の類は何れの地域に於ても之を禁じてゐない。之が爲背後に相當數の需要者人口さへ在れば、何處にでも店舖街の出來る可能性がある。一般に店舖の類は其の個々のものに付ては直接住居の安寧を害するものとは云ひ難いのであるが通例集合連擔し本舖街を作ることに依り、人車の往來を輻輳せしめる等の結果住宅地としての環境を阻害する事になる。只店舖類の制限を住居地域の全部に及ぼすことは實情に適しないので、別に住居專用地區の制度が設けられたのである。

住居專用地區の指定は以上の趣旨に依り、住居地域內に於て店舖向の街路に沿ふ部分を除外し、地區內の各部分から地區外即ち店舖の許される地域への最大到達距離200～300米程度を標準とし、人口密度、土地の狀況等に應じて適宜決定される方針である。

地區內に於ける許容途に付ては、規則第3條の2に大體明かであるが、各號に明記以外に

豫想されるものを擧げて見れば

第2號（事務所の類）醫師、齒科醫師、療術師、産婆、辯護士、辯理士、學術遊藝敎授所、測量設計業、代願代書業、派出婦會等の住宅兼用のもの

第5號（學校、圖書館の類）幼稚園、博物館、美術館

第6號（養育院、託兒所の類）養老院、隣保館、感化院

第7號（寺院、敎會所の類）祠、堂、說敎所

第8號（形像、記念塔の類）記念門、記念牌

第9號（診療所の類）齒科診療所

第10號（前各號に附隨するもの）自家用自動車々庫、廐舍、禽畜舍

等が考へられるであらう。又第9號列記の內土地の狀況に依り拒否される場合に關しては次の樣なものが考へられることゝ思ふ。

1. 物品販賣業を營む店舖（床面積10平方米以下のもの）に付ては其の連擔する場合
2. 旅館及倶樂部に付ては環境に添はざるもの
3. 診療所に付ては傳染病院、精神病院等
4. 農業用建築物に付ては禽畜飼養場、搾乳場等

住居專用地區內に於ける既存の不適格建築物に付ては、改正勅令第3條の2と同樣の取扱を受ける。（**施行規則第3條の8**）

近代都市の形態を備へる大都市及其の衞星都市に於ては、職場と住居とは次第に分離され、會社、店舖、工場等に通勤する者の數が增加し行く傾向がある。現に國勢調査の統計に依つて見ても自宅に於て營業せざる者の人口割合は相當の率を示すものと推定される。

此等の都市に於ける住居地域には追々廣範圍に此の地區が指定される事になるであらうから、空地地區の指定及土地區劃整理の施行と相俟つて大いに住宅地の環境を改善するに役立つであらう。

（2）工業專用地區の制度を設けたこと（**法律第4條第3項、施行規則第3條の7**）

工業地域は用途上無制限の地域であり、市街地の大半を占める住宅、店舖の類の建築が放任されてゐる。之が爲、工業地域內に於て位置、施設、地盤等の關係上特に重要な工場適地と認められる土地が屢々此等の建築物に依つて占有建蔽せられ、從つて大面積の工場敷地獲得を困難ならしめ地價の騰貴を促す等の結果、著しく工業地域の機能を減殺し一方工場と住宅學校等特に靜謐を必要とする建築物との近接に因つて生ずる保安、衞生上の障害も亦往々物議の種となる。併し乍ら此等の非工業建築物を工業地域の全般から排除することは住居專用地區の場合と同樣實情に適しないものとして工業地域（特別地區を含む）內の特に必要と認められる部分に對し工業專用地區を指定する事に定められたものである

以上の趣旨に依り、本地區の指定は主として工業適地として最も重要な港灣、運河沿の土地に對し帶狀のものが原則として考へられ、集團的に大面積のものとする場合には適當に住宅、店舖、飮食店等の許容される地域を除外する方針である。

本地區內に於ける禁止用途は施行規則第3條の7の通りであつて、大體非工業建築物中棟

敷敷地面積等の上から此の地區の最も建蔽される危險のあるものが選定されてゐる。尙工場に附隨する同じ敷地內の住宅、寄宿舍等は許容され、又地區指定以前から在る不適格建築物に付ては住居專用地區の場合と同樣の制限を受ける。（施行規則第3條の8）

此の制度は大都市及工業都市に於ける港灣、運河沿、埋立地等に對し廣く運用される方針であつて、將來都市計畫施設の擴充と相俟つて工業能率及土地利用上寄與する所甚大であらうと思ふ。

（3）指定建築物の種類を整理し、概して商業地域及未指定地域內に於ける制限を緩和したこと（施行令第1條、第2條、第3條）

各種の地域は之を住居地域と業務地域とに大別して考へることが出來る。業務地域中工業地域は業務の種類規模共に全く制限を受けぬ自由な地域である關係上、實際の指定は住居地域から離れた部分に配置され勝ちである。之に反し商業及未指定地域は或程度業務上の制限を受け、住居地域との關聯はより密接である。就中商業地域は住居地域の主要街路に普く配置されるのが普通の形式である。今回の改正に於ては、電力使用の普及、精密機器製作、製氷、冷凍の如き、比較的公害の少い大工場の增加、一般に工場公害に對する除害方法の發達等近年に於ける相當顯著な事情の變化に鑑み、此等の業務地域に於ける工場の配分に關し若干の修正が加へられたのである。即ち第2條に於て商業地域には住居地域に近接して必要であり且差支ない程度の小規模工場が許容されることになり、第3條に於て未指定地域には大規模工場の一部が解放されることゝなつたのである。此の改正は條項は僅かであるけれ共何れも該當工場の數は比較的多いので、工場從業員の職場と住所との隔離、工場偏在に因る諸種の不便、大工場集在に因る附近地の密住と地價騰貴等の地域指定に伴ふ諸般の事態は相當に緩和される事になるであらう。業務地域內容の檢討と同時に住居地域の純化に付ても考へられるのであるが、之は前に述べた如く大體住居專用地區指定の方法に依る方針である爲、施行令第1條に付ては此の趣旨の改正はなかつた譯である

遂條には、第1條に於て第2號の（ロ）（ハ）（ヨ）（タ）が改つた。從來より制限の强くなつた點は（ロ）の溶解アセチレンガスに非るアセチレンガスを用ふる金屬修繕、（タ）の瓦、及琺瑯鐵器の製造が禁止用途に加へられた事で、（ハ）は從來但書で許可の方針であつたものを明記したものであり、（ホ）（ヨ）は從來第3條中にあつたものを移すことにより工業地域のみに許容されたものを未指定地域迄擴げられたのである。第2條に於ては第2號に但書が加へられて、三種の工場業態が從來の工業及未指定地域から商業地域に迄擴げられた。之に依つて自轉車、自動車の修繕、金屬品の熔接熔斷、器具、玩具、家具及物類の製造、鍍金、小型鑄物等の工場が多數浮び上る譯である。第3條に於ては第1號但書が改められ、印刷、精密機器製作、製氷、冷凍工場に對する馬力制限が取除かれた結果原動機50馬力以上のものが未指定地域に解放されることになつた。精密機器とは光學用機械器具、度量衡器及計測器、科學的機械器具、醫療機械器具、其の他之に準する精密機

械器具及部分品の類であらう。

（4）不適格建築物の擴張等に關する期限を撤廢すると共に其の制限を適正ならしめたこと（施行令第3條の2）

從來の規定に依れば各地域內に於ける不適格建築物は一定の期日を限り所定の制限內に於て擴張又は用途變更を認められて居つた。此の期限は當初10年とし、後5年を延期されたのであるが6大都市に於ては再び近くその期限に到達することになつた爲、之を强行するか延期するか、若くは撤廢するか、何れかに規定の改正を必要とするに至つたのであつて全國に於ける數千の該當建築物殊に工場にとつて極めて重大な問題であつたのである。

工場等に於ては其の場所に存在し營業することを認むる以上常に或程度業態の擴張と變更を認めない譯に行かないので、此の期限を强行し又は延期すると云ふ事は、何れにもせよ適當な時期に於て自然的に或は强制的に之を立退かせて地域內に於ける不適格建築物を淸掃する見通しがなければならぬ。

然るに、不適格工場の移轉は公費を以てすると自費を以てするとに拘らず莫大な資金を要する極めて困難な事業と考へられる。又期限を附することに依り移轉を促進する效果に付ては過去の實績に於て幾分は認められるけれ共、全般から見て些少のものと謂はねばならず一面其の構造設備を立退き期限の有る假設的な不徹底なものとする事は直接除害の點から見れば却つて反對の結果を生ずる事にもなる。此等の點に關し事情を充分考慮の上今回期限を撤廢する事に決せられたのである。

擴張及用途變更に對する制限に付ては

Ⅰ敷地の擴張を禁じて、不適格用途に使用される土地の範圍を限定したこと

Ⅱ建築面積及床面積(延面積)の擴張は實害のない場合には從來の限度以上に認め得るものとしたこと

Ⅲ建築面積、床面積及馬力數の擴張を限度以上に特許する際に於て地域の種別及除害の設備又は裝置を參酌すべきことを附加へたことに依り、業務地域に於ては比較的に寬大な取扱を爲し、引換條件として可及的除害方法を講ぜしむる方針なる事を明示したこと

の3點が改められたのである。

建築物の密度並に道路幅に關する規定の改正

建築物の密度即ち建築物の建築面積、床面積の敷地面積に對する割合並に高さに關する規定、即ち都市計畫的には容積地域制と稱せられるもの、及之と密接な關係のある道路幅に關する規定は全體的には都市の各部分に於ける人口密度を統制し、局部的には環境の通風、採光、防火等の諸條件を決定する要素となり、都市に於ける保安、衞生、交通上極めて重大な意義がある。然るに從來の法律並に勅令の規定は、之を科學的に立證する事は餘程困難であるけれ共、現在の社會情勢に於て都市計畫上既に不充分不徹底なものとなつた事は、各方面の一致した結論であつた。加ふるに、最近都市防空上木造家屋を主體とする我國の都市に於て、家屋の分散疎開の必要が重視されるに至つたので、今回關係規定が全般的に强化されたのである。

（1）工業地域及未指定地域內に於ける建築面積の敷地面積に對する割合の限度 7/10 を 6/10に改めたこと（施行令第14條）

從來の規定に依れば此の割合は、住居地域6/10、工業及未指定地域7/10、商業地域8/10であつたが、實情に鑑み特に工業及未指定地域に於ける制限が强化された。此の改正に依り此等の地域內に於ける工場の衞生上並に防空上著しい改善が期待される外、多數の工場從業員の住宅等に於て改善される所も亦極めて大きいであらう。

尙住居地域內に於ける制限の强化に付ても、當然考ふ可きであるが、之に關しては專ら空地々區制度の運用に俟つ趣旨で勅令の規定は從來の通り据えをかれたものと考へられる

（2）空地々區の制度を設けたこと（法律第11條第2項、施行規則第6條の2第6條の3施行令第14條の2、第14條の3）

從來殆ど運用を見なかつたのであるが、令第14條の2の規定に依り地方長官の指定する區域內に於ては空地の最少限度に付規定し得ることになつてゐた。今回事柄の重要性に鑑み之を都市計畫の施設とし、內務大臣決定のものに改め、同時に制限內容に付ても、床面積と敷地面積との割合及建物の敷地境界線よりの距離に關し規定することゝし、建築物の分散疎開の目的に適格に添ふものに改められた。

空地々區制限に關する施行規則の規定は、單に制限の範圍除外例及用語の意義を明かにしてゐるに過ぎないので、具體的の制限は指定の都度其の地區に付て定められることになつてゐる。

大體の腹案として下表の標準が先程地方長官宛通牒されて居り、其の土地の地貌、劃地割現在の地代等を主として參酌し決定されるものである。

空地々區種別決定標準

空地々區	床面積の敷地面積に對する割合	建物の外壁面より敷地境界に至る距離	
		一般壁面の場面	第2階以上の階の北向壁面の場合
2割空地々區	2/10	1.5米	3.5米
3割空地々區	3/10	1.5	3.5
4割空地々區	4/10	1.0	2.0
5割空地々區	5/10	1.0	2.0
6割空地々區	6/10	——	——
7割空地々區	7/10	——	——

北向壁面とは東北乃至西北の方位に面する壁面を謂ふ

地區指定の際既に床面積から規定の割合を超過してゐるものに對する除外例に付ては、其の時の割合を超えない程度に於て改築、再築（災害に因り滅失した場合の改築）が認められ敷地境界線よりの後退に關する規定に付ては、道路、公園等を除く隣家の敷地との境界に付いてのみ制限を受け又物置小舍、門塀程度の高さの低いもの及便所、階段室等の

幅2米以下の突出部等にして隣家に對する影響の少いものは制限を除外される事になつてゐる。

用語に付ては、床面積の定義が從來なかつたので之が加へられ、通例の場合に於ては屋階及地階を除く部分の床面積を通算するものとし、雪國に於ける雪除空地の保有等特別の意義を持つ空地々區に於てのみ適用する趣旨で第1階のみに付ても計算し得ることになつてゐる。屋階にして普通階と大差ないものは普通階として取扱ふことは施行規則第1條に規定されて居る通りである。

空地々區の指定は、前述の通り防空に於ても極めて重要であるので、大都市及防空重要都市の周圍に於ける未開發及開發途上の部分に對し普く實施する方針であつて、既に東京市、大阪市等に於ては都市計畫地方委員會の手元で鋭意指定の準備中である。

（3）道路幅の最小限度9尺を4米に改めたこと（法律第26條、施行令第30條）

當初本法に於て認むる道路幅の最小限を9尺と定めたことは、法制定當時の既成市街地の狀況に從つたものと思ふのであるが、其の後自動車の發達に伴ひ一般交通並に防空防火に關する防衞消防上益々幅員の不充分なことが認められ、のみならず保健衞生上の必要も加はつて上記の如く改正されたのである。只既に家屋が連檐し或は崖河等に沿ひ、擴幅困難な場合も尠からずあるので、之に付ては已むを得ざるものとして例外を認め、又局地的な專ら數戸の家屋の出入の爲の道路の如く其の配置に依つて特に必要なしと認められるものに付ては土地區劃整理設計又は指定建築線に基き築造されたものに限り從來の規定の通り取扱ふことゝなつてゐる。

（4）高度地區の制度を設けたこと（法律第11條第2項、施行令第11條、第14條の3）

高度地區とは建物の最高限度又は最低限度に付て制限する地區であつて、從來施行令中に規定されてゐたその儘の內容のものを法律に移し、從來地方長官決定であつたものを空地々區と同樣都市計畫の施設として內務大臣決定のものに改めたに過ぎない。尙最低限地區に付ては現在東京の新宿驛新廣場、大阪驛前廣場及神戸市內に指定されて居り、最高限地區に付ては近く特殊の意味に於て神都の一部に指定される筈であるが、密度統制の目的には空地々區の指定の方がより適切であるので、此の意味の高度地區指定の機會は稀であらう。

其の他の改正

（1）施行令の緩和規定を廢止したこと（施行令第31條）

建築物の高さ及敷地內空地に關する施行令の規定は從來中小都市に對して適用を除外し得ることとなつてゐたのであるが、市民の保健並に防空防火上の必要に依り差別的取扱を爲すことは適當でないものとして施行令の緩和規定が廢止されたのである。但し用途地域の指定がない場合には地域の種別に基いて規定してゐる條項は適用されないと云ふ解釋を採つてゐる爲、此等の都市に於て直ちに制限內容の加はるのは構造種別に依る建物の高さ

に關する規定のみであり、用途地域指定を要せずして密度統制のみを必要とする場合には空地々區指定の方法に依る譯である。

（２）崖崩れに由る災害の防止に關する規定を加へたこと（施行規則第9條の2）

從來此の目的の爲、擁壁を築造する場合に於て强度計算は一般建築物に關する規定を準用し、尙地方に於て適宜構造規定を設け得る事となつてゐたが、過般の神戸及東京に於ける災害に鑑み更に足らぬ點を追加規定せられたのである。此の改正に依り、崖地に建築敷地を造成する場合に於ても認可を要することゝなり、斜面の勾配や建物の崖からの距離に付ては地方細則中に規定を加へるか又は個々の場合に於て相當の制限を爲すことゝなつた

（３）木造建物の防火壁に木骨造のものを認むることに改めたこと（規則第30條、第32條）

從來の規定に依れば防火壁は鐵骨又は鐵筋コンクリート造のものに限られてゐたが、實驗の結果等に徴し木骨防火被覆のものをも適當とし之を認むることになつた。規則に例示してあるものは塗りむらに依る缺陷を防止する爲中央に金屬板を入れ、兩側３糎宛の鐵網モルタルを添え、兩側の柱梁等に適當に取付け、類燒の際には火元と反對の側が殘存する如く工夫されたものであるが、別に木造骨組を建て兩側から同樣の防火被覆を添えたもの等趣旨及防火効力の同樣な他の構法のものも認めることになつてゐる。

（４）防火地區內に於ける建物の開口部及軒裏等の防火度を高めたこと（施行規則第121條、第127條、第128條、第129條）

木造建築物に近接する耐火及準耐火建築物に於て、開口部に防火戸の設けなき厚、其の部分から延燒した事例が尠からずあるので、周圍の狀況に依り防火上特に支障なしと認められる場合に限り防火戸の設置を免除する事に改められたこと、及乙種防火地區內に於ける建物の軒、庇、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔の類は從來木部を鐵板で被覆した程度のもので差支なかつたのを、外壁と同樣準耐火構造に改められたことの二點であつて、後者は防空建築規則の制定に關聯し必要となつたものである。

（５）美觀審査委員會の制度を設けたこと（施行規則第139條）

必要に應じ道府縣に美觀審査委員會を置くことに定められた。差當り美觀地區の指定ある東京、大阪及近く指定される豫定（神都）の三重に設置される事になるであらう。同委員會は重要な認可事項を審査する外、一般に都市美問題を調査審議す可き旨先程地方長官宛通牒されてゐるので、廣告、看板路上工作物の淨化問題等も追々此の機關を通じて解決されるものと期待してゐる次第である。

（６）建築物使用認可の手續は通例之を要せざるものとしたこと（施行規則第145條、第147條）

市街地建築物法は事實上一般市民を相手とする法律である爲手續の繁瑣が最も非難の的になるのである。今回內容の强化に伴ひ一層手續の簡易化の必要を認め、從來建築認可を要する種類のものは使用認可後でなければ使用出來なかつたのを、建築認可の際特に指定された場合の外使用認可を要せざる事に改められた。尙手續の規定は地方の細則に規定さ

れてゐるものが多いので、其の方の簡易化に付ても通牒で指示されて居り、各府縣に於て相當其の趣旨を徹底する細則の改正が行はれつゝある。

以上を以て今回改正の市街地建築物法、施行令、施行規則中内容に關する主なる事項の趣旨を概略説明した積りである。（昭和14.2.7稿）

空地の新しき利用としての駐車場



ロスアンゼルスの商業地區に於ける個人所有の駐車場

市の報道機關たるニウヨーク州局（the New York State Bureau of Municipal Jnformatin）の調査によるとニウヨーク州の53の都市が商業區域に駐車場を設備し、尙97の都市が駐車場の需要に應じ得ると報告されて居る。而も駐車の爲の駐車賃は、Jthaca では1日15セント、1週75セント、1月3弗と云ふことになつて居り、New Rochelle では、暫時の間と云ふものに對し、2½時間位迄は無賃としそれ以上は15セント乃至25セント要求して居るところもあるが、51の都市は一般的に都市駐車場は無料と云ふことにして居る。

駐車能力としては、Hastings-on-Hudson（人口7.097）の25臺、とSherburne（人口1.077）Amityville（4.437）、Albion（4.878）等の各50臺）そして Roslyn（1.630）60臺から Lynbrook（11.903）及 Wellsville（5,674）の500臺、田園都市（10.000）の775臺、そして Valley Slream（人口11.790）の1.000臺までである。

都市の心臟部が漸次人口が稠密して行き、そして晝間人口と夜間人口に著しい差異が生じて來るところは銀行、會社の大ビルヂングが集中する商業中心地となる。此の事から交通機關としての自動車の利用益々甚だしくなつて來た、米國の各都市に於て、自動車の駐車用地を得ると云ふ問題が都市問題として新しい話題を提供した。

そこで米國の各都市では州及縣等と協力して剩餘地を駐車場として利用することの工夫をし始めたのであるが、それでも尙ほ駐車用地の需要に應じかねるので最近更に工夫をこらし、個人所有地のビル敷地の空地を之に利用することを思ひ出したのである。

此處に採錄した寫眞はその例で、道路の交通を阻害せざる樣、いづれもビルの敷地内に、行儀よく自動車が駐車してゐる。

（Parking Lots. A New City Activity. Awerican City; Dec., 1938）

美觀審査委員會とその運用に就て

平野眞三

1

多年の翹望であつた、美觀審査委員會は本年1月9日內務省令に依り、突如として生誕した。此委員會に就ては、都市計畫東京地方委員會及都市美協會あたりでは、數年前からその實現を熱烈に要望し、又全國都市美協議會に於ても、其制度化を必要として決議し、更めて議會に建議をした。或は又、個人としても、諸方面の相當多くの人が筆に、口に、その實現を熱望して來たのであつた。然し一般の空氣から云つて、餘り簡單には實現しさうにもなかつたので、斯うは要望するものゝ、實現は先へ行つての事と思つて居たのであつた。ところが、殆ど何等の陣痛なく、正月匆々安らかに誕生したので、それ丈けに都市の健全なる文化的發展を考へる人達にとつては、驚異的の喜であつた。實に斯界のために慶賀すべきことである。

2

この上は、委員會の健全なる成長を只管祈るばかりであるが、この故に、是が運用に付いて二三氣付を述べてみたい。

最初に此委員會の諮問に與る範圍であるが、現在は美觀地區に限定されて居るが、漸進的に行くものとすれば、第1段階としては、かくゆくのが常識的であると思ふが、然し、是丈けでは不充分であることは云ふ迄もない。少くとも次ぎに揭ぐる諸區域は、美觀地區に指定するなり、或は特に委員會の諮問に附すべき區域として、引續いて近き日に於て適用範圍に加へられねばならぬと思はれる。

1. 宮域、離宮、御所の附近
2. 社寺、佛閣、教會堂の境內及其附近
3. 公園、廣場公館地帶及其附近
4. 史蹟、名所、天然紀念物法により指定せられたる史蹟勝地及其附近
5. 主要鐵道乘入線沿道
6. 風致地區

右の中でも風致地區に就ては特にその必要を痛感するものである。と云ふのは風致地區の現行制度に於ても、工作物の形態、意匠、外壁の材料、主色等に付いて環境、風致の維持の爲に、取締を行つて居るのである。ところが、現行制度に於ては、具體的には何等法文上定めて居るところが無いから、取締に確たる根據が無い。從て總て取扱擔任者の主觀に依つて決定されるのであるから、相當區々たるものであり、又時には其判定に正鵠を得

ないものもあるらしく、爲めにいらざる問題を起し、又一部には風致地區の制度を厭ふものさへ出來せしむる實狀である。かゝる現狀では風致地區制の圓滿なる發達の爲にも憂ふ可きことであるから、可及的近き日に風致地區は委員會の權限適用區域內に入れる必要がある。而して風致地區內に於ける取締の規準を、委員會に諮つて定め、この規準に則つて合理的に取締る可きである。又この規準を公示して、廣く市民に知らしめてをく必要がある。そうすれば、風致地區內に於てはこの規準に反することは、爲し得ないのだと云ふことを豫め知つておくことに依つて、無駄な計畫をなすことから避け得られるし、又不必要なる問題を惹起することが出來るのである。是は單に事務の合理化に過ぎないのであつて複雜な問題ではないのである。大體風致地區は、美觀地區と性質を同ふするものであるから、美觀地區に委員會の權限を發動せしむるならば、風致地區にも發動あつて然るべきである。現實の問題として東京に於ては、美觀地區內に建ち並ぶ建築物は、大建築が多く、從て是等の建築は、多く權威ある建築家に依つて設計され、施工されるのであるから、問題を起すことも少くないのである。ところが、風致地區內に於ける建築は、大小種々雜多でもあり、數に於ては中小建築が、その大部分であるから、自然建築技師の手にかゝることが尠く、大工の頭梁まかせのものが多いのであるから、問題も起しやすいのである。殊に量に於ては美觀地區とは比較ならぬ位數多いのであり、而も取締に於て規準が無いと云ふのだから、見やうに依つては隨分妙なわけである。それ故かゝる委員會が出來た以上は風致地區は美觀地區と同樣に、委員會の權限發動圈內に置く可きである。

3

委員會の諮問に附せられる對象に就ては、發令後間が無いので、まだ地方長官に於て規定した地方がないから、その盛らる可き內容は、勿論詳知することは出來ないが、然し、建築物に關する限り、市街地建築物法施行規則第五章の美觀地區に關する規程（第136條乃至第142條）の中に揭げられて居る事項は、總てその對象となることは想像に難くない。

即ち同規程に於ては、建築物の意匠、高、軒高、外壁の材料、主色、其建築物の排水管排氣管、煖房鐵管、瓦斯管及煙突の類に對して是を取締ることが出來ることになつて居る

然し、都市の美觀の達成には、單に建築物のみの取締のみではこと足るものではない。是以外の工作物造にその適用範圍を擴める必要がある。即ち道路、橋梁、高架道、廣場、記念物、屋外廣告物、社寺境內、風致保存、土地開發、區劃整理等は何れもその對象となる可きものである。地方長官に於て、規定せらるる場合は、以上のものは第一次的にその內容に盛らるゝことを望むものである。

4

取締規程は、その性質上、飽く迄消極的のものであつて、決して積極的な、建設的、指導的のものではない。であるから、取締規程丈けを備へ得たからと云つて、都市の美觀建

設に於て、總て手は打ち盡してある等とは、勿論考へらる可きではない。又取締に於ても即ち審美判定に於ても、都市の將來は斯くある可きだ、而して斯くなるのだと、大體の規準が與へられ、方針が示めされて、その目的達成の爲めに障害になるから取締るのだ、又それでは逆効果を與へることになるから禁止するのだと云ふことになれば、自ら取締の意義が徹底するわけになるのである。

此意味に於て、都市の美觀整備の爲には、爲政者はその都市の將來の赴くところは、斯くある可きだと云ふところを示す可きである。殊に都市美に就ては、藝術的範疇に屬する部面が多いからして、關係當局者に於ても、各の理想とするところは、必すしも一致して居るものでもなく、又市民に就ても同樣であつて、殊に一般大衆は是等の事に對して深い理解を持つて居るわけでもないのであるから市民の間に於て大體の纏つた觀念があり得るわけのものでもない。是は當然爲政者に於て立案して、是を委員會に諮つて審議を重ねて決定すべきである。元來日本の都市に於ては都市美問題に就ては勿論のこと、其他都市計畫に就ても又產業計畫に就ても、人口問題に就ても、其他何れの部內に就ても、凡そ科學的に研討されたる計畫のあることは寡聞にして聞かない。

都市美建設に於て藝術的價値の高いものを、望めば望む程、その根幹に於て、又其發足に於て、基本的綜合計畫が先づ必要である。價値高い交響樂に於ては、先づ曲に於て偉大なる作品たる事を必要とする。而してその表現に於て優れた音樂家が必要であり、又指揮者が必要である。この三者が揃つて、初めて眞に價値高い音樂が生れるものであるは云ふまでもない。都市美建設も全く同樣だ。根幹となるべき優れた基本的綜合計畫があり、個々の建設に立派な技術あり、且つ信賴すべき指導者があつて、初めて優れた都市美が建設さるゝものである。然るに基本案もなく、又理想案もなくして、都市建設、都市美構成を爲さんとしたところで、是では誰もが、お先き眞暗であつて、各自がてんでに好き勝手な事を考へ、各自の望むところを具體化しやうとするのであつて、是では一體將來はどうなるのであるか。

第1に準據すべき基本計畫が無ければ、審査委員會は何を基準に、諸問事項を審査判定するのであるか、單なる常識や、思ひ付き丈けで判定されては、理想の實現等は夢想だに出來ぬことで、建設されたものに體氣もなければ組織もなく、全く思ひ付きで出來た都市以上に、一步も出ることが出來ないのではないか。

基本計畫があり、又理想があつて、是と對照して不可とか、或は是と對照して斯くある可しと云ふならば、大きな誤りはなく、晩かれ早かれ、目的に一步々々近づき、遂には是を達成することが出來るのである。

又現實の問題として、此都市は將來斯くある可きだとか、此都市の此部分は大體斯く建設さる可きだ、と云ふ具體的な計畫が定まつて居れば、此の計畫の遂行に障害になるやうなものは一切許されないわけである。

たとへば、東京に於て丸ノ内の將來は斯くなる可きであるとか、御濠の周圍の工作物は斯く建設せらる可きであるとか、具體案なり、理想案なりが樹てられ、而して一般に示めされて居るならば、市民が個々の建築物なり、或は工作物を建設するに於ても、その案に餘りにかけはなれたものを計畫することは、結局許可されないことになるから、最初から計畫しない事になるであらうから、調子はずれのものは、結局制止されることになるのである。

又市民が個々の建設を計畫する場合、其都市又はその地區全體のことを、考慮して計畫することは到底あり得ない。又事實そのやうな能力もあり得ない。是等に關して、大阪の御堂筋に就いて云ふならば、御堂筋の大阪市に持つ使命、重要さ、或はその廣濶たる路幅等を考慮して、是に適合せしむるにはどの様な建築をしたら相應しいか、又どの様な建築である可きか、御堂筋が重要なれば、重要なる程、愼重に考慮され、計畫されねばならない。ところで此處に建築する個々の建築主が、御堂筋全般に亘つての綜合計畫を頭に畫いての、その一部分としての個々の建築を計畫する者はある筈はないし、又個人に於ては、よしんば、その人がその途の專門家であるとしても、總てを見透して、全體としては、かくある可きだからと云つて、斯る設計をなすのだと、計畫を樹てることは事實不可能である。從て關係當局としては、御堂筋に建つ可き建築は、斯くある可きだと云ふ、基本計畫なり、理想案なりを作成して、先づ以て廣く市民に提示すべき必要がある。ところが現在に於ては、大阪市に於ても、府に於ても亦都市計畫大阪地方委員會に於ても、將又官民有識者に依つて組織されて居る、廣告物審査委員會に於ても、斯る案の持合はない様である。是では御堂筋に建ち並ぶ建築物が、どんなになるか、誰もが豫期出來ないし、又假に理想を畫く人があつたとしても、到底その實現は望みも得ぬことである。

大阪府にても、今回の規則の改正に依つて、美觀審査委員會が出來ることゝ思ふが、たとへ委員會が出來たからと云つて、御堂筋に基本計畫が無かつたならば、次ぎ々々に願出て來る個々の建築物に就て、何等一定の根據なくして、唯漠然と良し、悪しを決定する丈けであつて、極めて良い加減のものであり、意義の少くないもので、是では個々の建築物なり、工作物が建設され、完成する日が來たとしても、そこに何等の諧調もなく、綜合美もなく、眞の都市美も求め得ない。要する空地が塞つたに過ぎない。

斯るが故に、如何にしても事前に關係當局に於て基本的綜合計畫案を樹て、是を委員會に諮つて、各方面の專門的智識に基いて愼重審議して、確たる計畫を樹てることが如何にしても必要である。殊に此際は、大阪市全般としても重要なる問題であるから、計畫案も1案、2案、3案と3つ位案を樹て、パブリツク・ヒヤリングの形に於てなり、何等かの方法に依つて、市民の意見を聽くことも、市民全體の御堂筋と云ふ關心を深め、且つ皆が是を護立てるのだと云ふ觀念を植付けることに於ても必要である。斯くするならば、市民一般が、御堂筋は將來かくなるのだと云ふ概念を持ち、且つ理解を持つことになるから、

此綜合計畫を破るやうな、異端的な、或は利己的な、低調な建築物又は工作物の出現は、自づと抑制されることにもなるのである。

5

次ぎに都市美の構成であるが、是には勿論多くの要素が這入つて來るが、これの一部である地方色、都性及び色彩等に就て考へてみたい。

地方色の構成要素の多くの部面を支配するものは、何と云つても自然的要素並に自然的景觀である。都市、殊に近代的都市に於ては、その受くる影響は少くないとは云ふものゝ然しその根本に於て支配するものは自然的要素である。是を極端に對比するならば、寒帶に於ける都市と、熱帶に於ける都市とは、都市全體の持つ色彩に於て判然たる差異があるし、又山岳都市と、臨海都市とは又相當趣を異にするものがあるのである。

又人爲的要素に於ても、結局自然的要素に支配されることになるのであるが、文化の發達しない國、或は地方に在つてはその影響が大きく、殊に建築用材に於ては、其地方の手近に入手し得る材料を主材とする關係上、その土地に於ける地方色の色彩が、濃厚になる傾向が多分にあるのである。たとへば、石材が豊富にある土地に於ては石材を、木材に乏しい土地に於ては煉瓦を多量に使用することになるのである。然し、交通機關の發達と、コンクリートの使用法の發達に伴つて、漸次この傾向は薄らぎつゝあると思ふ。從て地方色を維持する上に於ては、此點に困難が加算されて來るのである。現に近代的都市は、どこの都市も同じやうな外觀を呈するやうなことになつて來て居る。是には又、後進都市が先進都市の眞似をすることが手輕に出來るやうになつたので、一層この傾向に拍車をかけるやうなことになつて來た。丸の內が米國の都市の複製だと云はれるのも、この現象の一つの顯はれであるであらうし、又中小都市の都心地、或は盛場に、至るところに銀座もどきに、何々銀座を現出して居るのも亦その1つである。

かゝる傾向が增進すればする程、地方色はをのづから影を潛め、何處の都市も單一に塗られ、全く味のないものになつてしまふ危險が多分にあるのである。

そこで、地方色とは、一地方、一地域の有つ種々なる要素を含めての特異性であるが、是を今少し區切つて考へてみると、都市に於ては、個々の都市の特異性と云ふことになると思はれる、而して元來ものに個性がなければ、まるで安物の既製品の樣なもので、味もなければうま味もない。眞につまらぬものになつてしまうのである。都市でもその通りである。どこの都市へ行つても、テキスト・ブツクたる先進都市のまる寫しでは、曲のないもので、餘りにも智惠の足りなさをさらけ出して居る樣なものである。

都市には都市で、正しき個性があるわけだ。地理的に、歷史的に、政治的に、又經濟的に、果又審美的に種々なる角度から考へられた個々に都市の個性、即ち都性と云ふものがあるわけだ。是をじつくり檢討して、正しく認識する必要がある。而して是を可及的に健全に伸展せしめてゆかねばならない。基本的綜合計畫にあたり、此都性を誤りなく、正し

く生かす、これが根本的の大きな仕事の1つである。

御堂筋の計畫に當つても同斷である、現代的幹線道路だと云ふので、此御堂筋に歐米都市の丸寫しは絕對に避けて欲しい。大阪には大阪の地理的要因あり、歷史あり、傳統あり且つ政治的、經濟的要因もある。是等を正しく認識し、理解して、大阪の都性を生かすやうに計畫して欲しいのである。殊に東西御堂もあることであるから、是等との調和も考へて欲しい。近頃の建築によくある樣式だが、地方色を生かし、日本趣味を出さうとすると東京の軍人會館や、名古屋の市廳舍等のやうに、屋根に丈けに之を表現して、採つて付けた樣に破風を戴せて、まるで花見の丁髷髻をかぶつた樣な型式をとるのであるが、これで地方色を採り入れたとか、又新時代の日本式形態を案出し得たりとするのもどうかと思はれるのである。もつと熟れた、而して洗鍊された新浪速型とでも云ふ可き、大阪の都性を生かしたものとこの御堂筋の建設に於て創案して欲しいものである。

次ぎに都市の色調であるが、凡そ我國に於て、今迄に都市全般の色彩の諧調に就て考へられたことがあるであらうか。都市全般は愚か、隣同志の建築物の色彩に就てさへも、殆ど考へられた事等はないと云つて良いのではないか。都市全般の色調を決定するものは、是亦自然的要素が基調をなすであらうが、人爲的要素に於ては先づ建築であらう。この建築物の色彩を體系付けて統制しなければ、都市の大きな都市美等は徹底的には求め得る筈がない。

都市全般の色調を甚だ大膽な、且つ雜駁な分け方をするならば、一應、明快なる都市、灰色の都市、暗色の都市と云ふ分類か、或は又、白色の都市、褐色の都市、綠色の都市、黑色の都市と云ふ分類に分けることが出來やしないか。又具體的に云つて、世界の多くの都市を右の分類に分けることは、正確には勿論困難であるが、大膽なる主觀的の觀方を許されるならば一應は分類し得る樣にも考へられる。

ところで、都市の往方として右の分類に於て、どの種類の色彩の都市を擇ぶ可きかと云へば、暗色の都市よりも、亦灰色の都市よりも、明快なる都市を企圖すべきだと云ふことが一應云へると思はれる。然らば明快なる都市は如何にして建設するかと云ふに、決定的な自然的條件は如何ともなし得ずとしても、然らざる部分の自然的環境は、人爲的に相當變化せしめ得るのであるから、都市の理事者に於て明快なる都市を建設せんとするならばその指導原理を確立して、計畫を樹てこれを斷行することに依つて目的を達成し得るのである。然し我國の現狀に於ては、爲政者は自己の擔當する都市が自然的環境に於て暗いとか明るいとか、又人爲的色調に於ては如何であるとか、或は又都市の明暗、或建築物の色調とか、諧調とかが市民の心理上に、如何なる影響を及ぼすか等と云ふことを科學的に考へた事があるであらうか。ブルノー・タウト博士が伯林のツェーレンドルフに建てたジードルングは、是等の諸點に關して大いな示唆を與へるものであると思ふ。停々と樹ち並ぶ松林の中に、聯軒式の住宅群が道路を挾んで對稱的に建設されて居る。その外壁の色彩が

一軒々々全部異つて居るのであるが、全體として見るときは、薄紫を基調とする極めて淡調のぼかしになつて見へるやうになつて居つて、眞に氣持の良い諧調を提し、是が背景の松の綠と調和して、實に美しい住宅群の交響樂の感がある。

これを見るまでは、住宅等は個々區々の色彩であるのが常道であつて、隣接同志の建築物の色彩の諧調、群としての統制ある色調等は理論上は考へ得るとしても、現實には容易に行はれ得るものではないとのみ思つて居たのである。ところが、實現に是を見せられ、然も其効果の豫想外に偉大なるを眼のあたり見せられたのでは、建築群、住宅群には斯くすべきであると信念を持たざるを得なくなつたのである。從て御堂筋の建設に當つても、建築物の色彩の諧調、統制の要を熱烈に提唱して歇まないのである。殊に御堂筋の場合の如く、既設の大都市に於て、而もその主要街路の建築物が、一時を同ふして建設せられる等と云ふ機會は、そうざらにはあるまゐと思はれるし、實に絶好の機會であるから、何とか是を實現して、天下に範を垂れて貰いたいものである。かゝる例が現實に示めされるときは、全國的に影響を與へるものであつて、その効果は計り知れぬものであると思はれる大阪に美觀審査委員會の創設の曉には初回の諮問事項として大御堂筋建設計畫の中にこの觀念も是非とも入れてほしいものである。

6

上に述べた如く美觀審査委員會が出來ても、理事者に於て、都市美構成上に、基本的の綜合計畫案を樹てゝ居らなければ、茲に具現さるゝ都市美は、區々たるもので綜合美を缺くもので、大觀するときは大して効果は發揮し得ない結果になるものであつて、此點に特に留意されねばならぬものと考へられるのである。

紐育の美觀審査委員會の構成を見ても市長、メトロポリタン美術館長、公立圖書長、及畫家、彫刻家、建築家各1名と、市民代表者3名であるが、我國の委員會に於ても、大體此様な各方面の權威者から選ばれることになると思ふから、個々の人々は、その各々の分野に於ては權威者には相異無いとしても、是等の人々に綜合せる計畫は考て貰へぬし、又是を望む可き性質のものでもないから、この計畫は理事者に於て作成し、是に基づいて、委員は各自の專門的分野に於て、夫々の諮問に預ることが最も合理的である。美觀審査委員會が出來たからと云つて、理事者に於て如上の理解がなければ、都市美の徹底せる建設に効果を期待することは不可能であり、理事者としての仕事は是からである。今日の儘にて晏如たることは許されないのである。

木造家屋改修方法試案

宮田秀穗
石川儀有
奈良幸次郎

愈々、懸案であつた木造家屋改修案も世の明るみに出るやうになつた。今日迄、學會は木造家屋改修案を公募し、又最近各地を巡回した建築講演會には、この改修試案模型を携へて、防空都市建設には防火對策の急務なることの覺醒を促すと共に、この技術的な指導迄與へてゐつた。建築協會にても、この木造家屋改修に關する研究部門を近く開かれると云ふ。本邦大都市には必然課せられる目睫の問題である。

本稿は今日迄研究されつゝある實施方法の諸案を分類し、吾々が今研究しつゝある試案の1.2を披瀝して、大方の批判を乞ひたい。

改修方法の技術的分類

Ⅰ　家屋の一部改造

家屋の外部よりの初期延燒部分の耐火構造（一般に外壁より何米と帶狀巾として計量される）

Ⅱ　家屋周壁改修

道路面 } 外壁　a　左官仕上
背　面 }　　b　乾式不燃材料貼付
　　c　其の他の方法

隣屋面外壁　a　一般左官仕上
　　b　乾式不燃材料貼付
　　c　特種コンクリート充填式
　　d　長屋の各戸の仕切壁

Ⅲ　開口部處置

不要開口部廢設

防火扉新設　a　戸袋付式戸
　　b　開き戸
　　c　其　他

以上は、今日迄研究されつゝある、又今後研究されるであらう方法と思はれるものゝ技術的相互關係を表はす概略の分類である。

建築學會は道路面、背面外壁の a 左官仕上の場合、隣屋面外壁 a 一般左官仕上の場合

の內、隣屋との接近さが、10～30糎位の工作上施工者の這入る餘地のない場合を特に留意し、その施行方法に就いて數種を擧げてゐる。之等の方法は、屋內より、壁面材料を全面にわたつて離脫して、殘つた主體構造の柱、梁に耐火材料を貼付、左官仕上を施す方法である。この場合この方法が最も適切と思はれるが、この缺點は一に壁面材料を全部剝脫する相當大袈裟な工事となることである。

茲に未完成であるが、試案として我々が目下研究中のもの1種を擧げて、該方面を研究されてゐられる方の資料に資したいと思ふ。

茲に例示するのは、隣屋面外壁b、乾式不燃材料貼付の場合である。この方法は火災に伴ふ強い氣流によつて剝脫し、めくれて了ふこともあるから、今日迄割合に疎んじられてきたやうに思はれる。茲に陳述しようとするのは、施行者の這入る間隙ない場合で、且つ左官仕上の如く、壁全面を取毀つ手間と修復の經費を省き、施行期間短縮を主なる目的とした。

下記仕樣書に例示したやうに、適當な個所に（既設柱に接して）孔明けして（壁面の約11分の1）施工壁面の兩側より挿入する取付横材をこの孔明部に裝置した取付金物に取付ける。次にこの横材の溝に、コンクリート板を雨戸の建込みの如く、兩側より挿入し、施工を終る。この横材は金物を最上とするも、入手し難きときは鐵板と耐火木材とを組合はしたるH型材を用ゆる。（本構造に用ひるアスベスト、スレートの耐火に關する資料は前號に揭載した。御參照あれ）その仕樣下記の通りである。

A　主要材料

1　横材

2　3′×6′ 石綿スレート或ひは 3′×6′ ラス入モルタル板

3　取付用金物

4　上部三角形妻部の如きは異形ものを作る

B　既存部分取毀範圍

1　取付金物當りの壁

2　取付金物當り部分床板

C　施行順序

1　最下部横材は床板を上げて兩捻子ボールト締めとす

2　最下部横材の溝に石綿スレート板、（又はラス入モルタル板）を篏込み其の上に第2の横材の溝を載せ掛け順次に一方より送り込む

3　所定の位置まで送り込みたる時、其の高さを屋內の柱に目盛を付し其の部分に穴を明ける

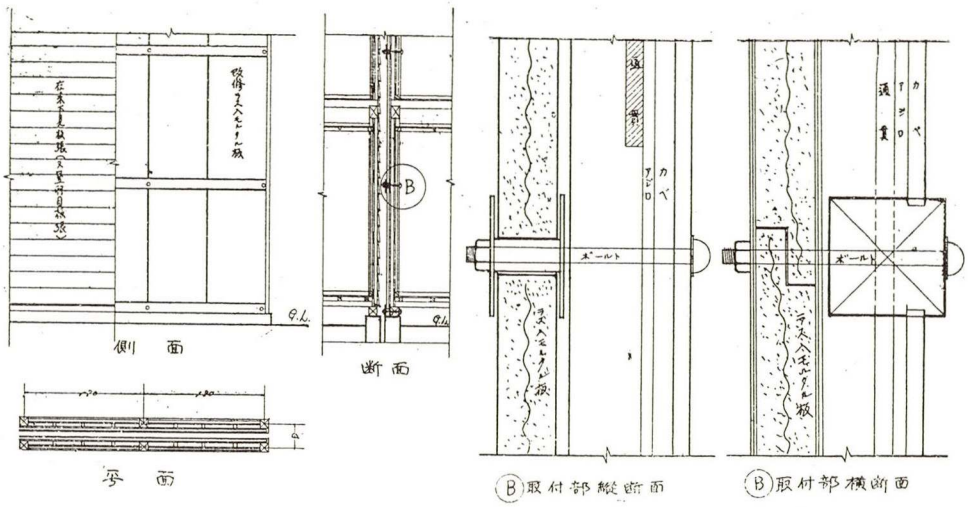
4　締付金物を横材に木捻子止めとし、更に引き付けて柱に木捻子にて締め付け、順次上部に進む。又圖示の如く横材を直接柱にボールト締めとする方法もある。

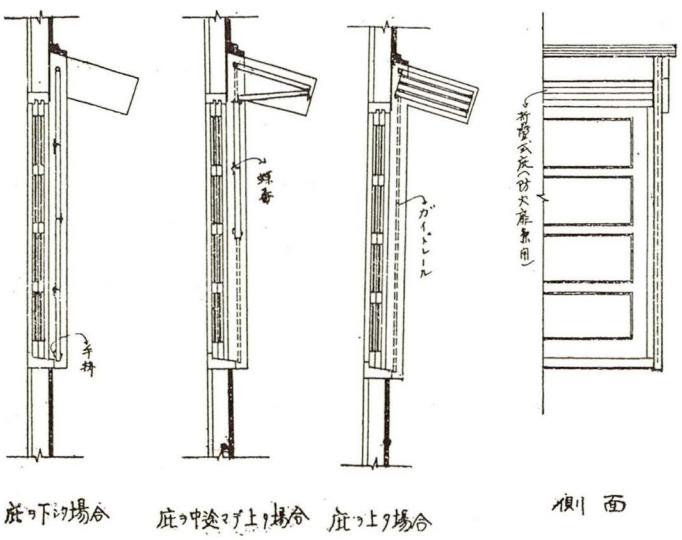
5　妻の部分は外部より差込むものなれど、場所の關係上外部より施工の困難なる場合には小屋内より妻の壁を一部取外して取付ける

D　修　　覆

1　壁は極く一部分を孔明するだけであるから、其の修理は簡單に濟む。尙上塗を一回なすならば在來に變りなくなる

E　工　　費





内 譯 明 細（ラス入モルタルの場合）

砂	24.00圓	モルタル一建坪	117.40圓
セメント	68.40圓		
練手間	25.00圓		
故にモルタル一面坪分	1.17圓		
エキバンデツトラスNo.26	1.35圓	3.17圓	
モルタル	1.17圓		
假枠損料	.40		
モルタル打込手間	.25		
運搬費	.40	2.90圓	
取付手間	.50		
横材	2.00		
取毀其他雜費	.60圓		
壁修理	2.00圓		
一面坪工費 計	8.67圓		

尙施工者の施工し得る隣屋との間隔ある場合に、本方法を利用するときは、屋内よりの取付材料不要にして、單に横材を外面に露出したる主要材木に捻子にして取付け、簡單に進めることが出來る。

次に、開口部の處置の一案を揭示したい。學會案にては、防火扉は1戸袋付引戸の新設か、2開き戸を例示されてゐるが、就れも施工の繁易、日常の取扱、體裁等に付き、それぞれこの2種は特徵と缺點とを併有してゐる。圖示した試案は上記分類では、其の他に屬するものである。これも諸賢の御研究に俟つ處多いものである。

本案は、折疊上げ下げ窓とも稱すべき構造のものにて、使用金物は一般の横引折疊戸に類するものであるが、自由停止器金物にて隨所停止しうる。そして最上部のストツプで停止さし、開放の狀態になつた場合はその戸は庇となる。事實運用上では、常は庇であるが火災時には防火扉に轉用し得ると云つた方が適當である。

ガイドレール、兩側妻板、雨切用見切緣等は圖示の如くである。(2599.2.9)



市街地建築物法改正に關する座談會

伊藤甫氏（大阪都市計畫地方委員會）
岩尾保衞氏（岩尾建築事務所主）
岡田孝男氏（大阪三越住宅設計部技師）
岡本松太郎氏（清水組設計係長）
楠瀨澈氏（大阪府營繕課技師）
小林俊三氏（大倉組設計部）
鈴木一幸氏（清水組大阪支店長）
玉置豐次郎氏（大阪府建築課技師）
竹內政治氏（大阪市營繕課設計係長）
津田敏雄氏（津田建築事務所主）
內藤亮一氏（兵庫縣防空課技師）
本多正道氏（大阪市建設課設計係長）
松井清之助氏（大阪府建築課技師）
宮田秀穗氏（大阪市防護課技師）
村野藤吾氏（村野建築事務所主）
森忠一氏（村野建築事務所技師）
森口清氏（大阪府警察部建築課）
安井武雄氏（安井建築事務所主）
山口儀三郎氏（大阪府立今宮職工學校教諭）
吉田信武氏（大阪府防空課技師）

龜井幸次郎（編輯常務）
棚橋諒（編輯常務）

（以上五十音順）

昭和14年2月13日
於・本協會倶樂部室

亀井——では只今より市街地建築物法並に關係法規の改正に關する座談會を開會致すことにします。お急がしい處を本會の爲にお集り下さいました出席の各位に深く感謝致します。先づ松井さんから今度の市街地建築物法の改正について極く簡單に逐條的御解說をお願ひ致し、次に玉置さんに改正の要旨と云つた樣なものをお話願ひ、それに基いて此の座談會を進めたいと存じます。

松井——それでは市街地建築物法の改正について一應御說明を申上げたいと思ひます。

皆樣御存じのやうに建築物法の改正は、昨年3月26日に公布になりまして、本年1月7日の勅令によりまして、2月1日から施行されたことになつたのでありまして、その改正の內容は旣に皆樣御承知のことゝ思ふのであります。併し乍ら勅令施行規則を說明申上げます關係上一應法律の改正の內容についても略ま說明を致したいと思ふのであります。法律改正の要點は住居地域內に住居專用地區の制度が出來たこと、工業地域內に工業專用地區の制度が設けられたこと、高度地區及空地地區の制度が新たに出來たことゝ、防空上必要な規定を設けることが出來るといふことが法律の第12條に加へられたることゝ、最後にも一つ法律の道路が從來9尺でありましたものを原則として4米以上でなければならないといふことに變りました。この5つの點でございます。この改正になりました理由と致しましては、議會で大臣が說明されて居りますし、內務省からも改正要旨を送つて來て居るのでありますが、今まで建築物法を施行致して居りましたけれども、尙土地の利用を整正したり、或は建築物の用途を統制するのには從來の法律では不充分、それに加へて防火或は保健衞生の見地からどうしても改正しなければならぬかういふ考へで改正になつたのであります。之等の法律の改正によりまして、勅令、施行規則の改正が行はれました、本年1月に公布になり、2月1日から法律と共に施行されるといふことになつたのであります。而して施行令について、改正になつた點を少しく詳しく說明さして頂きます。

先づ施行令の改正要點と申しますか、重要なる處は、先づ用途地域制の制限が多少緩和され、或は修正されたことであります。只今手許にあります改正條文を御覽願ひますといふと、第1條の第2號を改められて居りますが、ロの「アセチレンガス」を用ふる金屬の工作といふ處に、新たに危險性のない溶解「アセチレンガス」といふものは地域の制限を受けないといふことに追加されましたし、引火性溶劑を用ふるドライクリーニング或はドライダイングといふものは從來は總て住居地域で禁止をして居つたのでありますが、これは引火性のない例へば「トリクロール、エチレン」といふやうなものを用ゐたドライクリーニングは自由に出來る、かういふやうに改正になつたのであります、その他從來工業地域內でなければ建てることの出來なかつた業態の工場で、今度未指定地に自由に建ち得るものがホの印刷用インキ又は繪具の製造或はヨの活字又は金屬工藝品の鑄造といふやうなものが新たにこの1條の2號に加つたのであります。更らに1條の2號にタの瓦、琺瑯鐵器の製造、この2つが追加されたのでありましてその他は從前通りであります。第2條の2號の中では但書が加はつて特に商業地域內で認めても差支のないもの、容量30リツトル以下の「アセチレンガス」發生器を用ふる金屬の工作、馬力數4分ノ1以下の原動機を用ふる塗料の吹付、も1つ原動機を使用する2臺以下の研磨機に依る金屬の乾燥研磨、かういふものが商業地域內では將來自由に建築し得るやうになつたのであります。

第3條の第1號、つまり馬力數による制限が、從來50馬力を超過する工場は全部工業地域內でなければならなかつたのでありますが、その內で、印刷工場、精密機器製作工場、製氷工場及冷凍工場又は無制限に馬力數が大きくても未指定地では建ち得るといふやうな具合に改正になつたのであります。その他3條の2號にトといふ處で括弧の中で漆又は水性塗料の製造を除く、又ヲの中に括弧をして製氷又は冷凍を目的とするものを除く、ムに活字又は金屬工藝品の製造を目的とするものを除くといふやうな具合に勅令第1條の方に揭げられました、つまり未指定地では自由に出來るやうな種類のものを3條の2號の規定から省いた、かういふ改正がございます。

第2に變りました點は不適格建築物に對する規定の內容が可なり變化したのでありまして、從來不適格建築物は建築することが出來なくなつてから15年間を限つて增築、改築、再築又は用途の變更を爲すことが出來たのでありますが、その15年間を限るといふ年限の制限が今度撤廢されたので

あります。それと從來不適格建築物は建築敷地の擴張が從來の建築敷地と1團の土地でありますれば、認められて居つたのでありまするが、この度の改正によりまして建築物の敷地を擴張することを認められないことになつたのでありまして、特に注意を要する點と思ふのであります。更らにこの不適格工場に對しては行政官廳地域の種別、土地の狀況、事業の種類、作業の方法、建築物の構造設備、除害の設備又は裝置といふやうなものを參酌致しまして特に支障なしと認むるものに付ては建築面積の2分ノ1の增加、床面積の倍の擴張、馬力數の倍の增加といふものを更らに超へて許し得る道が出來たのであります。

第3の點は工業地域、未指定地内の空地制限が非常に嚴になつたことであります、それは14條に從來住居地域及商業地域外に於ては10分ノ7といふ規程になつて居りましたのが、商業地域外に於ては10分ノ6といふことに改正されたのでありまして、工業地域未指定地ではこれから4割の空地をとらなければならぬといふことになつたのであります。今申上げた地域では相當重大なる改正だと思ふのであります。それから從來勅令にありました空地の最少限度に關する規程とか或は建築物の高さの最低限度又は最高限度を定めるといふ規程といふものが、これが削られたのであります。その他法律の改正に伴ひまして、第16條ノ2或は17條、29條ノ2といふやうなものが改正になつたのでありますが、最後に第30條の道路に關する規程が改正になつて居ります。法律の道路幅員の原則が4米以上といふことになりましたので、勅令では幅員4米未滿2·7米以上の道路であつて、土地區劃整理設計又は行政官廳の指定した建築線に基いて築造せられた道と、行政官廳市街地の狀況に依りまして、特に指定したるものは4米でなくてもいゝといふことに30條で規定されたのであります。而してもう1つの大きな改正は第31條が削られたことでありまして、これは從來市街地建築物法適用區域内で、内務大臣がこの第31條によつて指定致しますといふと、高さ及空地に關する規程を適用しない區域が出來たのであります。その條文が今度削除になりました、大體勅令の變りました點はこの程度でありまして、施行規則の改正條文について御說明致しますと、施行規則に新たに專用地區及特別地區に關する規定が第1章の2と致しまして新たに設けられたのであります。それから、空地々區に關する規定と致しまして、第2章の2といふものが新たに加へられたのであります。何れもこの條文は專用地區、特別地區及空地々區が指定されませんと直接働かないのでありまして、この規程の說明をすることは今日は省いて置きたいと思ふのであります。

次に第9條の2といふ條項が新たに設けられたのでありますが、これは高さ4米以上の崖に近接して建物を建てる或は建築敷地を造成せんとする時には、地方長官の認可が必要だ、かういふことになつたのであります。これは今までの災害の事例なんかに徵して特にかういふ危險區域内の建築物を要認可建築物にされたのでありますが、さういふ場合には地方長官は斜面の勾配、擁壁の設置建築物の位置等に關して必要なる命令を發し得る又は處分することが出來るやうになつて居りますが、大阪では特に高い崖は割合少いのでありますけれども、隣の兵庫縣の如きは相當かういふ事例があると思ふのであります。かういふ崖の附近では大體擁壁の設置といふことが主なるものではなからうかと考へるのであります。

それから第30條の改正、これは今度の改正中建築主の側から見て最も結構な改正になつたといふことになるんですが、それは從來木造建築物に用ひられる防火壁は鐵筋混凝土構造又は鐵骨造でなければならなかつたのでありますが、この度は第30條の2項と致しまして木造又は木骨造建築物の防火壁に於いては前項第1號の規定に拘らず中央に金屬板を有する厚6糎以上の鐵網モルタル造の類にして倒壞の虞なき構造と爲すことを得といふことが規定されたのでありまして、木造の骨組でその周圍を鐵網「モルタル」で被覆したものゝ如きが可能になつたのであります。鐵材使用を極度に制限して居ります現在では非常に都合のいゝ改正だと申さなければならぬかと思ひます。第121條127條、128條或は又129條の規定の改正は防火上必要なる窓、出入口の施設なり或は庇、軒などに關する防火上必要なる構造を命じたり或は防火上必要と認めるやうな特別な場合を考慮しまして、幾分强化されたと申上げていゝと思ふのであります。

その次に改正になりました點は 139條の改正でありまして、美觀地區内に建ちます建築物で、相當重要なる事項を命じやうとする場合には從來内

務大臣の認可を必要と致して居つたのでありますが、此度の改正によりまして美觀審査委員會の意見を徴すればいゝことに改正されたのであります此の美觀審査委員會に關する規定は地方長官が之を定めることになつて居りまして、その地方々々にこの委員會が出來、この委員會の意見によつて美觀地區規定の運用がなされる、かういふ具合に改正になつたのであります。

それから最後に145條及第147條の改正でありますが、從來建築認可を必要とする建築物は總て工事が竣工して後使用認可書を貰はなければ建築物の使用が出來なかつたのであります。それを此度の改正によりまして建築認可書を必要とする建築物に對して、その建築認可書を交付する際に建築物の使用認可證を受くるにあらざれば、使用し得ない建築物を地方長官が指定するといふことが出來るといふやうな具合に變更されたのであります此の點は手續に關する規定としては大きな變更と申上げることが出來るのであります。その他は1部使用認可の關係などは從前の通りであります。尙附則の中に市街地建築物法第4條第2項の規定に依る工業地域內特別地區規則は之を廢止するといふやうな具合に出て居りますが、先程說明を洩らしたのでありますが、施行規則の第1章の2の特別地區に關する規定は從來單獨の內務省令の出て居りました工業地域內特別地區規則の內容をそのまゝ新らしい施行規則の第3條の3から第3條の5までの間に入れられたのであります。

誠に簡單でありましたけれども改正條文の說明はこれ位で御免を蒙ります。

亀井——只今極めて要領よく全般的の御說明がありましたが、尙玉置さんから今度の改正條文についての御感想並に細則の改正についての御意見を承りたいと思ひます。その前に皆樣に一應お傳へ申上げます、速記の都合上說明又は御質問をなされる方は一應名前を擧げて頂きたいと思ひますさうしますと速記の人が非常に都合がいゝですからどうぞ左樣に、では玉置さんどうぞ。

玉置——只今松井君から今度改正になりました市街地建築物法令の逐條御說明がありましたので大體御諒承を願へたことゝ存じます。私が更らにその上お話をするといふことは如何にも蛇足の感があるのでありますが、司會者の御指名もありますので私の勝手な改正に對する意見とでもいふものを述べさして頂きたいと思ひます。尤もこれは文字通り私の勝手な意見でありまして、府廳の意見でもなければ內務省の意見でもない、ひよつとしたらそれに反するかも分らない、若し反する處があつたら御容赦を願ひたいのでありますが、多少でも皆樣方の御參考になれば幸と存じます。

それで、今松井君からは法令の條項順にお話がありましたが、この內特に重要であると思はれるものをピツクアツプして見ますと、順序が顚倒致しますが、先づ第1に道路の幅員が今まで9尺であつたのが、4米になつたといふこと、その次に木造建築物の防火壁が、今まで鐵筋混凝土又は鐵造でなければならなかつたのが、うんと簡單にすることが出來るやうになつたこと、それから空地制限が工業地域と、未指定地域では3割であつたのが、4割に强化されたこと、それから新たに空地々區といふ制度が出來たこと、その次に住居專用地區と工業專用地區といふものが出來たこと、それから美觀審査委員會といふ制度が新たに設へられたこと等が主なものではないかと思ひます。

それで之等の主なるものを考へて見ますと、一番初めに申しました道路幅員が9尺から4米に改正された問題、これが今度の改正の內では最も重大なる影響のあるものであります。恐らく日本全國的にはこの改正が一番こたへるのではなからうかと思ふのであります。尤も大阪では早うから道路を新らしく造られる場合には建築線の指定申請手續をして頂いて居つたものでありますが、この時にはとつくに4米を最小限度にして進んで來たのでございます。それから昭和10年大阪の施行細則の改正の場合に行政官廳の管理に屬する道路は建築線を4米に指定しました。だからして大阪では大部分の家が前面には4米以上の道路があるといふことになつて居たのであります。それですから大阪としてはこの改正は殆んど苦痛にならないのでありますし、內務省の統計によりますと、大阪を除きました他の府縣の大部分は新たに建つ家でも先づ7割以上8割と申してもいゝのでありますが、それが9尺の道路に向つて建つて居たのであります。そして大阪だけが8割以上の建築物が4米以上の道路に向つて居つたのであります。大阪のこの狀態が非常に內務省を力强く思はせて、よし大阪でやつてゐるんだつたら全國的にやれるんではないかといふ確信を與へたやうであります。

それでさういふ意味合で大きな改正が出來たといふことになつてゐます。

その次に防火壁の工事が非常に簡單になつたのでありますが、私共今まで火事場の跡を見に行きますと、建物がすつかり燒けてしまつてゐるのに燒跡に獨り防火壁丈が依然として立つてゐるといふ光景をよく見るのであります。何と申しますか皮肉といふか非常に複雜な感に打たれるのであります。建物が燒けて防火壁丈殘つて一體何になる防火壁を殘す爲に防火壁を鐵筋にしたのではないのでありまして、その防火壁を境にして反對側の建物が殘つてくれるのを望んで居るのであります然るに火の出た側は勿論のこと反對側までも燒けて、防火壁丈が殘る。かういふのが今までの防火壁であつたのであります。私共監督の位置にありますものは皮肉といふよりも寧ろさういふものに對して自責の念すら感ぜられるのでありました。畢竟するに木造の建物に鐵筋混凝土の防火壁をやらすといふことは如何にも必要なことのやうでありますが、見方によると鷄の首をはねるのに牛の刀を使つたといふやうな感がしないでもありません。それでこれは何とか考へ直さなければならんといふことが考へられて居つたのであります。偶々東京及大阪の火災實驗の結果を見ますと案外簡單な防火壁でも効果があるといふことが判りました。それに内務省が確信を得て、今度の改正になつたのであります。處が私は今度改正になつたのをよく讀んで見ますと、まア樂にしたのは大變結構ですけれども餘り樂にし過ぎてこれで愈々火事の時に間に合ふのだらうかといつたやうなことを非常に心細く感ずるのであります。お讀み願ひましたら分ります通りに、木造の建物には眞中に鐵板をぶら下げて、その兩方にラスをやつて、モルタルを3糎宛塗る。合計6糎のラスモルタルの壁をやつて、その眞中に鐵板を置きさへしたらよいといふやうになつてゐます。構造上それでは一寸無理がありますので、何れ眞中に木の枠をこしらへて、その兩側から鐵板を張る、それにラスを打付けて而してモルタルを塗るといふ風に、太鼓張りにするのが一番やり易いのではないかと思ふのであります。然しそれで果して充分に火に耐へ得られるかどうかといふことについては、恐らく不完全なやうにも思ふんですが、それが實際施工されます場合に建築設計をされる方或は工事をされる方の眞心にお訴へ願つてこれぢや不完全だからもう少し完全なものにしやうといつたやうな氣分になつて頂けば非常に仕合だと思つて居ります。

その次に空地制限が變つたこと、即工業地域及び未指定地域では今まで3割の空地が要求されて居つたのが、今度4割の空地が要るといふことになつて、1割丈け餘計庭をとらなければならぬといふことになつたのであります。今までいろいろの方から話を聞いて見ますと、この工業地域及び未指定地域に於て1割の空地を餘計とらなければならなくなつたといふことはどうやら大阪では一番手痛いらしいです。うちの工場はもう7割ぎりぎり一杯に建つてゐるんですが、1割空地が餘計要るといふことになると、何處か潰さなければならん、それでは普請が出來ぬといふことになりますが、こいつは困りましたなといふことを私の顔を見る度に私にいはれるのでありますが、私は又聞かされたといふやうな感じがするのであります こんな日本の現在の工場建築の情勢からいふたならば、1割餘計に地所をとらなければならなくなつたといふことは確かに手痛いことであらうと想像します。併し乍ら今日私は工場地帶といふものは根本的に考へ方を變へる必要があるんぢやないかと思つてゐるのであります。例へばどこそこは工場地だといふと、そこはスラムだといふことの同意語になつてゐて、工場地帶といへばその土地は悪いといふことになつてゐるんであります。現に工場だといへばもうバラックで澤山なんだ、工場といへばゆとりのないものだといふやうになつて居ります。これが果してよいものであるかどうかといふことは相當反省の必要があるんぢやないかと思ふんであります。一體全體工場であつたならばバラックでよい、それから工場の建物は平屋で建てなければならないのだといつたやうなことを、誰が決めたかといふことになります。誰も決めて居りませぬ。今までの日本の習慣になつて居りますが、その習慣が私は間違つてゐるんぢやないかとかういふ風に思ひます。もつと工場に空地を澤山とつて、さうして植木をどんどん植えてやる、自分の働く工場をもつと愉快なものにするといふことが、必要なんではないかと思ひます。それで大體私共が、今まで見て居ります處では、工場は殆んど全部平家なんです。工場が平家でなければならないといつたやうなことはないと思ひま

す。特に重量物を取扱ひます工場はこれは格別でありますが、工場といつても全部が重量物を取扱ふに決つてゐるものではありません。だからして今の平家を2階建にし或は3階建にして、アメリカのロフトビルデイングのやうにしてもいゝぢやないか、さうすると平家でぎりぎり7割まで建つてゐるものでも、總2階になりますと3割5分ですみます。さうすると6割半の空地が出來るといふことになります。實際建築をやります場合に平家 100坪の建築費と總2階建50坪の建築費を比較しますと、餘り大した差がない樣に思ひます。だから此の際1割の空地が强化されたといふことは決して苦痛ぢやない。寧ろ廣くなつた空地を利用して綠化をやつて愉快に職工を働かすといつたやうなことの方が賢明なる策ぢやないかとかういふ風に考へるのであります。

それからその次に住居の專用地區が出來たといふこと、これは久しい間の懸案でありました。今日までの日本の用途地域制が非常にルーズで、外國の何處の制度と比較しても日本よりルーズな用途地域制をもつてゐる處はないのであります。現在の樣な用途地域制では果して本來の目的が達せられるのかどうかといふことについて皆一樣に疑惑をもつて居つたのであります。そこは住居地域だといふものだから安心してその土地を買ふて家を建てると隣にもつて來て工場が出來るんです。そしてひどい音や惡臭を放つんです。それでは今日日本の住居地域に安心して自分の住宅地を求めるといふことは出來ません。それで今まで大阪邊りではよい住宅を建てやうといふことになれば、どうしても工場の追かけて來さうにない阪神沿線の山の手等を撰ばねばならんと云ふことになるのです。それで大阪では良い住宅は全部他處に逃げてしまふといつた狀態であります。これは非常に遺憾なことであります。三百萬も人口を擁してゐる大阪に適確なる住居地區がないといふことは、これは何といつても不合理千萬な話だと思ふのであります。それで今までの意味のない住居地域の制度を改正して、純粹な住宅地が出來る制度として、それに後にお話申し上げる空地々區制度と合せて理想的の住宅地を得やうといふのが今日の改正の趣意であります。

現在大阪の富豪が阪神沿線に年々移つて行くことによつて大阪市の財政がどれ丈け蝕ばまれてゐるかといふ問題ですが、如何にも大阪の財政は潤澤でありますからして富豪の100人や200人が阪神沿線に逃げて行つても大阪としては問題ではないかも知れません。併乍ら實際算盤を置いて見るといふと隨分の額に上ります。畢竟するに大阪の今までの爲政者が住宅といふものに對して適確なる認識を持つてゐなかつた爲にそれ丈け損失をして居つたのであります。だから住居專用地區、空地々區を完全に併用致しまして、理想的の住宅地を大阪市内に作り出さうといふことが今度の制度によつて可能だといふことになつた譯であります。それで今空地々區といふことを申しましたが、この空地々區は今まで住居地域に必要な空地は4割と云ふことであつたのが、特に必要な場所では 4割に限定せずに、或は6割7割8割までも空地をとつて、あとの僅かな部分にしか家を建てさせないやうにしやうといふ制度です。これは建物の密度が現在の大都市では益々高密度になりますので自然人口密度も段々大になります。それで密度をうんと疎開させやうと云ふ意味でかういふやうな制度が出來た譯であります。

それからその次に工業專用地區制度が出來たことでありますが、現在の用途地域制は結局工場を虐める制度であります。何處そこは住居地域だから工場を建てゝはいかん、どこそこは商業地域だから矢張工場を建ててはいかん、特殊の工場及大きい工場は結局工業地域以外の處には建てゝはいかんといふ風に出來て居るのが今の用途地域制です。處が工業地域でなければ建てられないといふ風に規定されて居るのでありますが、さてその中だつたら自由自在に建てられるかといふと、決してさうではないのであります。現に私等が實情を見ますと、そこは工業地域になつてはゐるんだけれども、近所に學校があるから、學校の側にさういふ建物を建てたならば授業の邪魔になるからそこは罷りならぬと工場課から止められます。それは困つたことだ。それだつたらこつちにしやうかといふので、又土地を選び變へますと、今度はその土地は公園の側ぢやからしてそんな處で臭い煙を出して貰つたら困るからそれも罷りならぬ、といつたやうな譯でありまして、工業地域だからと云つて自由自在には建てられぬ譯であります。又學校や公園でなくても何處そこで臭い煙を出すからといつて前から住んでゐる住民が大擧して工場

設立の反對運動を初めることもあります。さういつたやうなことの爲に工場を建てる人は今迄どれ丈けいぢめられてゐるか分らないのであります。私等机に座つて居つてさういふやうな話を聞くと身を切られるやうな感じがするのであります。畢竟するに今の用途地域制といふものが非常に不完全なのであります。それで今度工業專用地區といふものをこしらへますと、今度こそはその中では公園も文句をいはぬ、その中には文句をいふ學校の方を建てさせぬ、又一番文句をいふ住宅もその中には建てさせぬ、だからして工業專用の地區内であれば、これからは愈々安心して工場を建てることが出來るといふことになつた譯であります。この住居專用地區と工業專用地區とは市街地建築物法が出來たとつばしから何とか改正しなければならないと長い間思煩はれて居つた問題であります。それが今度法律が施行になりましてから10何年目にやつと解決の兆が見えたといふことになつたのであります。尤もこの空地々區に致しましても、住居專用地區に致しましても、工業專用地區に致しましても、これからその位置を都市計畫で御決定願はなければなりませぬ。制度は出來ましたけれども、地區が指定されますまでは依然として昔の狀態を續けることになります。併乍ら目下都市計畫課に於きましては、鋭意これが調査中であります。早晩大阪の地圖に何等かの形になつてかういつた3つの地區が新たに生れて來ると信じて居ります。

それから次に美觀審査會といふものが、新たに出來るやうになりました。これは相當問題になつて良いのではないかと思ひます。一體日本の都市計畫法なり市街地建物法の出來ました時期が非常に悪かつたんぢやないかと思ひます。當時イギリスにしましても、アメリカにしましても、都市計畫の本を見ますと、都市計畫をやるのに都市の美觀の爲に莫大な費用を使ふといふことはいかぬ。都市計畫は經濟的に保安的に衞生的に交通的にやらなければならぬのだといつたやうなことが喧しくいはれて居つた折柄であります。といふのはその前の時代の都市計畫では都市を美しくすることの爲に澤山の金が費されましたので、恰度その反動の時期であつたかと思ふんです。その反動時期に日本に都市計畫法が布かれて、市街地建築法が布かれました。それで日本はそれを眞に受けて都市の美觀といふことに對しては一向頓着しなかつたのではないかと思ふのです。事實都市計畫法が布かれて、その後の大阪の街の發展の狀況を見ますと、一體全體これでもよいのかと思ふやうな感が非常に深いのであります。日本は實に景色がいゝといふことで外國人などは非常に憧れてゐるやうです。汽車が田舍を走つてゐる間はどうも日本の國といふものゝ景色のよいことに感心するさうであります。所が一見汽車が都會の近くに來ると今度は打つて變つて汚いのですつかりそれで帳消しになるといふことです。私は詳しいことは知りませぬが、日本の都市程汚い都市は世界に珍らしいんぢやないかと思ひます。殊に今日1等國になつて居る日本の國の都市が、依然としてかういふ風に汚い情態を續けてゐるといふことは、我々相當反省しなければならないと思ひます。今度美觀審査會が出來ましたならば規定の上からいひますと、美觀地區の中に建つ建築物の意匠設計さういつたものについて決めるといふのが規定の建前になつて居りますが、内務省からの趣旨によりますと、それ丈のものに限定せずに都市全體の美觀といふやうなことについてもこの審査會に諮るといふことになつて居ますので、私の考へてゐることゝぴつたりと合ふやうに思ひます。この美觀審査會を充分活用されて、大阪は錢金丈けの土地ではない、大阪も大分綺麗になつたなアといつたやうな時期の1日も早く來ることを皆樣と共に期待したいと思ふのであります。

以上が大體今度改正になりました法律勅令、内務省令に對する私の感想でありますが、間違つて居たら初めにお斷りしましたやうにお許しを得たいのであります。

それから細則の方でありますが、内務省令等が變更になりましたから、細則を當然變へなければならぬことになりました。それでそれ等の當然の改正の外にこの際これも改正して置かうと云ふのが出來て來ました。それで一番大きい改正になるかと思はれる點は、今度街をどしどしと全部切つて頂くことに致しました。今まで建築線を指定します場合には隅を必ず切つて居りました。新たに市なり府が道路をつけられます場合にも大體お切りになつてゐたやうであります。併しその他の街角は現在の處切れる見込がない譯です。併乍ら實際交通上から見ましても、又角の切れてない家を

お持ちになつてゐる方及びそれらの家をお使ひになつてゐる方も皆矢張り角の切れてゐる方がいゝのであります。それで角を切つて貰ふことにしたのでありますが、その寸法は大體2米宛で、角から計つて2米の2點を結んだ線が建築線といふことになります。大體角から2米2米とりますから半坪强程の土地が建築敷地から減る譯です。いろいろ調査しますと地主、家主が角で半坪損をする譯でありますが、土地の値上りや商賣が利く樣になること及び今まで車を家の角に當てられたことなどを考へますと、切つても損にならぬといふ確信を得た譯であります。一見地主家主の御負擔のやうになりますけれども、その損得は立派にバランスがとれるものと信じて居ります。それが、大きい改正であります。それから法律の12條に今度防空上といふことが入つたのでありますが、防空に關する規定は別に防空建築規則といふものを內務省で立案中であります。內務省からの通知によりますと、この防空建築規則の發布は極く最近に愈々迫つてゐるやうであります。その方に大分厄介だと思ふやうな規定がありますが、それは何れ出來ました時に更めて又お話さして頂きたいと思ひます。甚だつまらぬ感想でありましたが、間違つてゐる處はお聞き捨て願ふといふやうに願ひます。松井君からもお話がありましたんですが、尙お分り難い處も勿論澤山殘つてゐるだらうと思ひますので、お尋ね下さいましたら私の方で說明の出來るだけは充分に說明さして頂きたいと存じます。

龜井——只今玉置さんから例によりまして、不斷の藏蓄を傾けられまして、極めて適切に、而もユーモラスな句調を以て今度の改正の要旨についての御所感或は內務省への注意などを話して頂きまして、我々は大變益する處が多かつたと存じます。これで一應お二方の御說明と御所感が終つたのでございます。ところで座談會に這入る前に前以てお斷りしておきたいことは今日お二方の、今後行ひまする質問の回答は、松井さんは松井さん個人としての御意見で、役所としての公の意見でないといふことを豫め御諒承願ひたいのでございます。さうでないと、これは建築と社會3月號の原稿となるのでありますが、今此處で多くの質問にお答へしましてもそのお答のなかには、まだいろいろと檢討しなければならない多くのものがあるのは勿論でありますのに、これが記事として來月號に發表になりますと、それが公の意見としていろいろの問題を惹起しないことは保し難いと思ひますので、今後お答へしますのは大體玉置さん若くは松井さんの個人的な御意見なのでありますそして今後お二方をお招きして話を承ると云ふのは偶々お二方がその方の實際的の仕事をお取扱になつてゐるといふことで、比較的參考になり、猶且つ我々の理解を容易ならしむるであらうと云ふ見透しから特にお二人にお願ひした樣な譯ですから御自由に捉はれることなしにお答を願ふ方が、却つて「建築と社會」を通じまして、當局に何等かの示唆をすることゝもなると思ひますから、どうぞさういふ意味で御質問なり、御回答なりをお願ひしたいと存じます。そして又斯くすることによつて本日の座談會も非常にスムーズに進行出來るのぢやないかと思ひます。斯樣な次第ですから質問者側として今夕お集りを願ひましたのは事務所の方々、請負の方々或は大學で敎授をされて居ります人であるとか、實際にこれを扱つてゐる人及び防空に關係する人々と云つた樣に、各方面から御參集を願つたのであります。つまり各方面のエクスパートに御參集を願つた次第でありますから、期待し得る御質問をして下さいまして讀者の市街地建築物法への理解を援け得る樣に願ひますれば甚だ結構と存じます。では事務所の方の方々として先づ津田さん何卒。

津田——この勅令の30條の1項1號に行政官廳市街地の狀況により特に指定したるものといふのがございますが、これは行政官廳といふのは建築物法の施行の系統の官廳をいふのでありますか、從來地方廳のやうな或は市役所のやうな處で、道路の認定をしたりするやうな市長といふやうなものを指すのでありませうか、一寸どういふのでございませう。

玉置——行政官廳でありますから、これは內務省とか大阪府とかいふ風になるんぢやないかと思ひます。大體この仕事は大阪府がやることになるでせう。

津田——その指定でございますが、從來認定といふやうなことを取扱ひになります市もそれに連つて來る譯になるんぢやありませんか、指定といふのは別に從來の建築線の指定とかいふやうな意味合の指定があるんでありますか。

玉置——行政廳の管理に屬してゐる分は今迄か

ら細則の方で拾上げられてゐます。それから建築線の指定の方は第2號の方にあります。それですから、こゝでは行政廳の管理に屬しないもの及び建築線の指定以外のものといふことになります。さうすると、どんなものかと申しますと、建築線のまだ指定になつて居ない9尺以上の私道と云ふことになります。

津田——それらを行政官廳が指定になる譯ですか、その9尺以上の私道の内で指定する値打のあると思はれるものを。

玉置——道を1本宛拾つて指定するのが1番適切かと思ふのでありますが、それはとても厄介な仕事になりますけれども勅令がかういふ風に改正になりますれば、それをやらざるを得ないので、目下準備中です。幸に大阪はいゝ地圖が出來て居りますから、早晩それを基にしてやりたいと思つて居ります。

津田——就ては私共非常に有難く思ひますことは、規則の方でありまして「30條の第1號に左の但書を加ふ」次に「同條に左の1項を加ふ」といふ今の防火壁の件であります。この防火壁はなる程玉置さんの只今の御説明のやうに建物と建物の間に防火壁自體を保てるやうな構造のものをつけて、それに鐵板を張つて、モルタルか何かを塗るんですね。厚さ6糎以上の鐵鋼モルタルで塗ることになるんですね、さうすると勿論その防火壁の構造と建物の梁とか桁といふものとは結付けてはならんといふ譯ですか、それとも壁の厚い建物と建物の連續したものゝ構造體とがついて居つたらいゝといふことになるんでせうか、どうなんでございませう。建物がある處に今の構造のものを挾むといふ意味か、只ついて居るといふなら燃つて行くやうに思ふんですが、どうなんでありませう

玉置——實はこの構造方法は質問されても私等も判つきりしないで困つてゐるんです、この規定が出ますなり讀んで見ますと、これは一體何んな構造になるのかと云ふ疑問が起つたのです。そこでこの設計圖を一遍作つて見やうぢやないかと云ふことになつて 4.5人寄つて書いて見たのですがどうしても云つて居る通りの構造にはならんのです。それでこんな一體おかしい規則があるかと云ふ譯で早速内務省に電話をかけて30條の防火壁はどんなことになるかと聞いたのでありますが、内務省の方でもはつきり分らぬのですね、實は今圖面を書いてから、圖面が出來たら送るといふ返事のあつたのが、今から20日位前ですが、未だに圖面を送つて呉れません。簡單な手紙だけが來たんですが、それによるとこの前軍人會館で防空の講演會がありました時に、建築學會が見本を持つて來て居ましたが、この中にこれに似通つたものがあるんです。内務省はそれをいふてゐるんです。併しそれでありますと、建物と建物との間丈はいゝですけれども、規則30條では防火壁は屋外へは1尺以上、屋上へは1尺5寸以上突出さねばなりません。所が建築學會の見本の様なものでこの建物外への突出部分を造ることが出來ません。つまり屋外ではぶらぶらになる譯です。そんなぶらぶらの防火壁は出來ませんから、そこで初にいつたやうに枠に鐵板を張つてラスをぶら下げ、それからモルタルを塗る、さういふ風にしなければ建物の外に出る處は出來ぬといふことになりさうに思はれます。それより外にやり様がないんぢやないかと考へて居ります。この枠を抱いた構造のものを先日の大阪驛前の火災實驛のときに造りましたが、この防火壁のついて居つた便所丈が完全に殘りました。その時のは成程殘りはしましたが、私はこの構造が何となしに頼りない様な氣がします

津田——御改正の前のには防火壁の開口扉の規定が載つてをりますね、今度もやはりあの開口扉はこれにすつと殘つて來るわけになるのでありますか。

亀井——防火壁は緩和して扉は何故緩和しなかつたかといふことは私等も疑問に思つてゐます。

玉置——特に今まで防火戸防火戸といふ風にいはれてをつた戸が鐵材の統制で製造禁止になりました。さういふ折柄防火壁を簡單にしたんだから防火戸も簡單にすればよくはなかつたのぢやないかと思ふのでありますが、結局簡單になりませんでした。それではどうしたらいゝかといふことを考へてをりますが、鐵網で骨組を拵へてモルタルを塗つた戸を拵へて見て當はめて見ると非常に成績がよささうです。餅を焼く網の大きい様なものをこしらへて、モルタルを塗りつけるのですが、まあそれだつたら安上りで直ぐに出來ます。そんなものをくつゝけるのが恰度防火壁にころ合ぢやないかと思ひますがね。

津田——有難うございました。

棚橋——今の防火壁のことですが、この倒壞の

虞なき構造となすことゝいへば、家にくつゝけなければいけない譯ですね、それ丈獨りで建てさせる譯に行きませんですね、それをうまく建物の木の部分と絕緣するやうにといふんですか、しないのですか。

玉置——それが防火壁の構造と同樣に私には今御返答申上げる資格がありません。私自身がその疑問者で一體どうしたらそんなことが出來るのだらうかと思つて居るのです。結局大學の濱田君あたりの御話では最初はそんなことは出來やせんぢやないかといつて居られたさうですが、月島の火災實驗の際に簡易防火壁をお造りになつて試驗をして見られたのです。そうしたら防火壁の1方側にある建物が燒け落ちても、防火壁が倒壞せずに殘ることが出來たのです。そこで倒壞しないと云ふことに自信を得られた譯であります。そして今度の樣な改正になつたのであります。然し一ぺん位實驗して見てそれで大丈夫だと云ふことは私はおかしいと思ひます。兎も角かういふ風になつたのは月島の火災實驗の結果ださうです。結局防火壁の兩方に建物があつて一方が燒けた時にその棟が落ちる、その棟が落ちる時に防火壁が引つばられて倒れんやうになつてくれたらそれで良いんだといふことになります。結局防火壁と建物をどういふ風に連結するかと云ふことが問題なのでありますが、それが仲々むづかしいのです。まあその中に何かうまい構造法が見つかるんでせう。嫌でも應でも工夫せざるを得なくなりましたから。

棚橋——かういふものを出される場合はも少し具體的に考へなければならぬものと思ひますね。

內藤——具體的な方法が見つかるまでは規則が出ても行なへないといふわけですね。

棚橋——この條文で縛られてしまふでせう、中央に鐵板を入れなければならないとか……

內藤——倒壞の虞れなきといふことは、

棚橋——かういふ條文で限られたものしか造られないといふことは却つて發達を阻害するのぢやないでせうかね。

玉置——大阪市の方でやつてをられるのはどんな方法ですか。

松井——それでは本多さんに市の方でやつてをられるのを御說明を願へれば結構です。

本多——大體東京の方の眞似ですが、今玉置さんが仰言つたやうに枠を組んでそして兩面からモルタルを塗り中へ鐵板を入れて結局一方から燒けた時にもこれが倒れず、他方から燒けた時にも倒れなかつたらいゝといふので兩方でボルトを締める譯です、こつちもこつちも繋いである燒けた時も、こつちにボルトをつけてゐるから引つばられて倒れゝばお終ひですけれども。

津田——それは縱に。

本多——別々です。

楠瀨——ブロツクをこしらへるんですか。

本多——こつちとこつちを結ぶんです。

津田——枠を作つてくつゝけて行くんですね。

本多——それ丈ではいけませんので、固定しないでは仕方がない。

棚橋——鐵板がどうしてゐるんです、大體モルタルが燃えないんですが、鐵板がどうして要るか判りませんね。

龜井——結局何んですかクラツクが入ると燒ける、即ちそのクラツクから火が入るからそいつを鐵板で防げるかどうか分らないが、兎に角防がうといふのでせう。

內藤——先程津田さんからお話があつたやうに勅令の30條の第1號に「行政官廳市街地ノ狀況ニ依リ特ニ指定シタモノ……」あれは玉置さんから大阪府側はいゝ、地圖も出來てゐるし近く指定地區が出來るさうですが、これは縣の公報か何んかで一度に出來るもんですか？

玉置——大阪のやうな大きな街はとつても困難ですから一度に出來ませんから警察署單位でもやるといふやうに手配してをります。恰度いゝ具合に大阪は地圖が出來てをつたからいゝが他のところはどうと云ふ風にするのかと思ひます。

內藤——只今玉置さんからお話がありました樣に大阪は前から4米で建築線を指定し且つ行政官廳管理に屬する道路も細則により中心から2米宛後退指定、即ち4米方針でやつてをられましたがそれでも30條の第1號行政官廳の指定することは非常に苦痛であるといふお話がありましたが、他の都市では相當これは苦痛であらうと思ひます。實は私も兵庫縣の防空課にをりまして他の事を明確に云へないのですが、建築課も相當これに苦んでゐるといふことを側面から見てゐるわけですがこれは最初松井さん及玉置さんからお話があつたやうに今度の法規の改正で1番大きな問題は、今まで9尺のが4米になつたといふお話があつたが

實はこれには但書がありましてこれから新しく造るか或は指定する道路は4米といふやうな方針で各府縣ともなつてをりますが、今まで既に9尺で指定してしまつた、9尺で一應認めた道路だから大體30條第1號2項により認めて行くといふやうな結果になりはしないかといふことを非常に虞れるのであります。これは內務省が法律の改正を議會に出す時に、恰度別の法規の改正中で工業地域未指定地域が今まで7割のが6割しか建てられないと大改正をしたと同樣に、この法律の改正を思ひ切つて4米1本で行く今まで指定した道路或は今まで認めた9尺の道路は依然として認めてをくかの如きかういふ規定が出來てしまつたといふことは非常に遠慮が過ぎたと申しますか、或は眞心的であると申しますか、さういふ點でこの法律の戰時體制下と申しますか、或は建築法規の一新と申しますか、相當刷新されました部分がある中に但し書を付する、大阪府は兎も角として他の府縣では9尺が4米になつたといふ相當喜ぶべき陰になほ且つ滿たされぬものがあつて相當各府縣はこのために困る、惹いては既成市街地の改正問題に癌を殘す滿たされぬものがあるのぢやないか、この點で僕の立場からみても非常に今更手遲れでありますが殘念であつた。これはどうしてもこの缺陷を補ふには餘程細則或は30條の第1號の指定或は2號の指定の取扱ひは餘程愼重に取扱ひなほ且つ別に指定の市街地或はスラム市街とか或は防空防火上十分でないといふ市街地は根本的に區劃整理をして市街地の面目を一新するといふ方法を樹立するより外に方法はないと思ふのですが、かういふ座談會の機會を利用して內務省に防空に關係するものゝ1人としてお願ひする機會とさして戴くといふことで一言申上げて置きます。

亀井——只今內藤さんからこの道路の幅員の問題に關して但し書を付してゐるのは生ぬるいぢやないか、何時何んどき空襲を受けて往年の震災又は圖館の火災の慘をなめないとは保し難い、だからもつとしつかりしたものを、既成都市に對して强化策をとらなければならないぢやないかといふお話でありましたが甚だ御尤もと思ひます、その外事務所の方で、安井さん何か問題はありませんか。

安井——防火壁の問題が出ましたが構造そのものも大分變りましたが、30條の設置箇所といふことについては別の條例を同じく生かすのでございませうか。

松井——左樣でございます。

安井——元からこれはよく考へてゐることですが、例へば所有者が違ひまして、50軒もさういふ建物が接近しますと、防火壁も建物もずつと長く續く譯ですね、これは非常に缺陷があるんぢやないかと思ふんですけれども、さういふやうな場合所有者達のものゝ間に防火壁を作るといふやうな何か規定を作つて頂いたら非常に防火上効力があるんぢやないかと思ひますが。

松井——これはかねがね大阪では考へられてをつたんですが、敷地所有者が變はりますとその點は今までうまく行きませんでした。希望はみんなもつてをつたのですが、たゞ申上げますが、たゞこれが適用區域が市街地建築法と違ひますから安井さんのお考へ通りには到底ならないと思ひますそれから話は安井さんの防火壁とは少し離れますが木造建築物の防火に對する施設としては今いつた樣なものが近く出ると思ひます。

安井——私らは希望としては出來るだけさういふやうなことが實現出來るとすれば結構だと思ひます。

亀井——內藤さんそれで外に何にか御質問ございませんか。

內藤——今お話の防空建築規則が極く最近出來ますからそれによりますれば、私からはハツキリ申上げてよいかどうか分りませんが大阪市內或は神戸市內は隣地境界がいきなり接してゐるので今までのやうな木造を造ることを禁ぜられ、今までの木造は防火壁或はラス、モルタルといふやうな制限をされて、今までの木造を造れば數米離れなければ造れないといふ缺陷が防空建築規則によつて是正される、これは實現されます。

安井——それからも一つは何でもないことですが、9條の2の高さ4米の崖に接近して建築するといふ文面は崖の上も下も兩方に通ずることゝ思ひますがどういふのですか。

玉置——これは崖の上も下も兩方です上に建てる人はするする辷り落る懸念があるし、下の人は上から壓へられる危險があります。警視廳の方では細則にこの9條の2に關して新しい規則が出ました。何でも崖の高さと同んなじだけ後退せよといふことです。併し大阪は名前は大きな坂になつ

て居りますけれども實際坂がありません。6大都市の中で1番少ないのですが神戸はひどく東京もひどい様です。名古屋より大阪は尚少ないですね、大阪は警規應のやうに細則は作りませんでした。若し崖の上や下で建築される場合にはその都度考へやうと思つて居ます。高いところといへば上本町の高臺や阿部野の墓地の邊を見ましても長い間切つ放しになつておりますが、今迄土の滑つたのを見たことがありません。土が良いのでせう。大阪はよその都市程心配はないのぢやないかと思つてをります。そこで私の考へでは今有る擁壁を造り變へたり、或は擁壁のないところへ新たに擁壁を造つたり、建物を崖に接近して建築するときには何ぼ後退させるかといつたやうなことはその都度決めてよいのぢやないかといふつもりで居ります然しこの間聞いた話でありますが現在崖がある。見ると4米以上の高さがあつて誰れが見てもあの崖の下に家を建てるのは危いと思はれる。所がその崖は隣りの人が持つてゐる。そこで崖が危いから隣りの家に直してくれといふと、うちは痛痒を感んじないから直さんといつて直してくれんといふことになつたら、その時はどうなるかといふのですが、どうも困りますね。

岩尾——大阪のやうなところはいゝが神戸のやうなところは殆んど家が建ちません。神戸でしたら先程の道路の問題よりもつと大きな問題です。殆んど表は12間道路でそして家は奥行横3間位でやつと一ぱい建てたら裏は直ぐに10數尺の崖といふやうなうちがザラに立派な街にあるのですからこれは重大問題だと考へてゐるのです。この間もさういふお話がありまして現在自分の設計してゐるところもさういふところがあるのです。大阪とか或は名古屋とかいふやうなところは簡單に解決出來ますが、神戸は殆んど山ノ手に行つたら道路ばかりで兩側に家のない街ばかりになつてしまひます。

亀井——困つたことですが、内藤さんそれで御意見がございますか。

内藤——實は神戸の建築課を代表して來たわけではないので防空課にをりますから直接關係はないわけでありますが、この條文を讀んで見ると崖崩れとかそんな危險の起らないやうに構造をすれば建築出來るので必ずしも崖の高さだけ後退するとかいふやうなことをしないでも鐵筋コンクリートで勾配を十分とるとか、或は構造をしつかりするとか相當丈夫に設計すれば今の街に近いものが出來るのぢやないかと思ひます。

岩尾——それから上のうちも下のうちも同じだけの後退といふことですね、下の家はよそさんの崖の高さだけ僅かの敷地をもつて引つ込めなければならないうちは神戸にいくらでもあります。最近神戸にあつたことですが、30尺もある崖の上に立派なうちを建て大きな屋敷で庭を前にとつてゐる、下のうちは小さな借家を崖一ぱいとつてゐるところが石崖が壞れたから損害賠償を起したがとれなかつた。何とか方法はありませんかといふ相談を受けたことがあります。上と下と同じだけ後退するといふのは何とか考へて戴きたいと思ひます。

玉置——警視應が偶々さういふ風にしてゐるといふわけですが神戸はさういふ風に考へられるかどうか大阪はそんなことは考へてをりません。實際あの出來た規定はやつぱり譯がありまして、東京も三井の崖が崩れた爲めに澤山の人が死にました。そんなことでほつてをけなくなつて作つたのだらうと思ひます。

岩尾——何んとか細則で何んとかで緩和して貰はなければならないと思ひますね。

玉置——大阪は崖が少ないですからたまに何ぼ何ぼ引つ込めなければならないといふても聞き入れられますけれども、神戸のやうにザラにあると大阪より緩くなるのぢやないかと思ひます。原則として數の少ないところでは少々嚴な規定も聞き入れられますけれども、神戸のやうに澤山になると自然規定も緩くなるのぢやないかと思ひますがね。

岩尾——神戸は段階になつてゐる、上の段は2階で下からは3階といふことになつてゐる。さういふことは將來許されるかどうか、大阪でも東横堀へんは道路面は2階であつて裏から見れば3階です。あれはどういふ風に取締られるべき問題ですか。

津田——この9條の2はどうなんでございませうか、第1項と第2項とは單獨のものゝやうに見えますが、さうぢやないのですか。第1項でみると場合によるとその土地柄に對しては地方長官は御認可ならんやうなこともあるのでせうね。又御認可になる場合は第2項の權限を地方長官に與へ

る、かういふ意味になりますんですか、全然御認可されない場合も豫期して置かなければならないといふことになるんでせうね。

玉置——崖の方は今まで市街地建築物法施行規則第143條に高さ4米を超ゆる擁壁の築造をなさんとする時は地方長官の認可を受くべしと云ふ規定があります。それから第144條には高さ2米を超ゆる擁壁の築造をなさんとする時は地方長官に届出るといふことになつて居ります。ですから今までから擁壁を造る場合には手續が要りました。今度のはその擁壁に接して家を建てる時に認可を受けるといふことになつて、結局崖を造るにも、家を建てるにも今後は一切合切手續が要ることになつたのです。勿論今度のは認可を受け、といふのですから構造が悪かつたら認可されない場合があり得ると思ふのですがね。

津田——構造は如何にしても土地柄によつて御認可ならんといふこともあるんでせうね。

玉置——さあどうなるか存じませんが大阪にあるものは神戸のやうなことは考へませんので大阪ではそんなことは全然ないと思ひますがね。

亀井——その點地方の狀況に應じて多少の斟酌もあるのぢやないかと思ひますが、なほ村野さんなんか御意見はございませんか。

村野——別に……私は後から參りましたので本當は言へないのですけれども、一寸規則とは別なんですけれども、この規則をお作りになる時この規則を出したら後で土地の所有者とか建物の所有者とか今後建てるものがどういふ風な影響とどういふ風な損害をしはしないかといふことを改めて考へて御定めになつたいらうと御想像いたしますが、若しさういふことが御分りでこざいましたらさつきあの玉置さんが仰言つたやうな角の處を切つてもそんなに損害はないやうだといふやうな御考でも結構でございますから1つお話を願へたら結構でございます。例へば道を擴げる、空地の制限であるとかいふやうなことは相當土地によつては將來の計畫をして財產を保護してをりますからそれに影響することはかなり澤山あるだらうと思ひます。もつとむづかしく言へば憲法の條項にも關係しはしないかといふやうな點も想像されますが、それも所謂今日のこのごろの流行りの全體主義のために我慢しなければならないといふやうなことにも解釋されますがかなり空地等の問題は大分道路幅のことにも關係するやうですが、一寸そのことでも御氣付きでしたらお話願ひたいと思ひます。

玉置——これはとても六ケ敷い問題でありまして御滿足の行くやうな御返答が出來るかどうか自分でも危ぶむのでありますが、元來市街地建築法といふのは個人の所有權、それから使用權を制限しやうといふのでありますからして、この規定が出たゝめに相當制限を受けられる方があるのはこれはやむを得ないことではないかと思ふんです、然しながら又一方さういふやうな考へ方でなしに規定が出來たから非常に利益を得られるのぢやないかといふ考へ方も起るのぢやないかと思ひます初めの方の話は直ぐお分り願へるのでありますが後の方の規定が出來たからよくなるのぢやないかといふのは大分說明を要するかと思ひますが、この建物を制限しやうといふ根本精神は日本の街をよくしやうといふところにあるのだらうと思ふんです。今同じく自分が家をもつてをつても或は土地をもつてをつてもよいところに持つてをつたならば非常に値打ちがある。悪いところに持つてをつたならば値打ちがない。堺筋に建つてゐるから値打ちがあるので、1歩裏側に建ちますといふと同じ建物でも餘程違つて來るやうに思ひます。それと同じやうな意味で若しこの制限がなしに無制限にどんどん家が建て得られるのであつたならば大阪の郊外は悉く例の鶴橋とか今宮とか長柄とかいふものになる。現に今宮、鶴橋、長柄は制限のない時に自由奔放に建つた場所です。ところが今日自由奔放に建つた場所はどうかといふと大阪でも一番悪い。ところが德川時代に建ちました船場島之內は非常に大きな制限がありました。一方その後市街地建築物法が出來ましてから後に大阪に建ちました郊外の新市の分は御承知の如く非常によくなつてをります。だから結果から見てもこの市街地建築物法が施行されたといふことは決して悪くなかつたことになります。一面取締りの仕方が悪いから非難されましたけれども、大阪の街がよくなつたといふことについては相當識者は御諒解して下さつてゐるやうに思つてをります。だからして一見非常に使用權或は所有權の制限であるかのやうに思へますが、最後に總決算をしたならば使用權、所有權はつぐなはれて餘りがあるといふことになつてゐるのであります。それで今度の

改正規則を見ましても又變な規則が出來たなといふことになるわけでありますが、必ずこれの結果は總決算に於て十分に報ひられるのぢやないかといふ確信をもつてをります。この確信があればこそ實は我々仕事が出來るのでありまして、その確信がなかつたら我々は小さうなつて隅つこにをらなければならないのぢやないかと思ひます。この返答で御滿足が行くかどうか分りませんが六ケ敷い質問ですから御諒解を願ひたいと思ひます。

村野——全體をお尋ねする意味ぢやなかつたので、この規則を御改正になる前にかういふところにぶつゝかるのぢやないかといふお考があつたんぢやないのでせうか。

玉置——私等は規定が今度かういふ風に改正になるといふ時には出る前にその案を見せて貰つて居ります。けれども、結局私等は當てがひぶちなんです。改正條文を作る時に參與してゐましたら御質問に對して御返答が出來るのですが、私ら自身既にあてがひぶちなんですからそれまでの說明は一寸六ケ敷いやうに思ひます。まあ今度の住居專用地區とか工業專用地區、こんなのは遙かに非常に得になるんぢやないかと思ひます。氣儘に工場を建てやうと思つてをつたのに住居專用地區になつたから建てられないやうになつたといつたやうな人も勿論出て來るかも知れませんが、全般的に見たら非常に利益ぢやないかと思ひますが。

村野——一寸見て考へますのにハツキリした例は知らないのですけれども、これは後で地域がハツキリすれば分ることでせうけれども、住居專用地域のところにこれからは交通機關が非常に發達してその附近に高い建物が建てられるやうになり地價が騰るといふやうな時に住居專用地域なるがために高さに制限が起るといふやうなことになつた場合前の地價が當然今の傾向ならば隣りの方の地價が騰れば自分のところの地價も騰つて行くといふ傾向があつたのに制限を受けたために自然的に地價に影響がなくなつて來るといふ場合があるのぢやないか、その點等は今度お決めになる時に大變問題になるのぢやないかと思ひます。別の例ですがこの間新聞で拜見して我が意を得たりと思つたのは船場とか島之內へんは道路幅を廣くして建物は高く建てるといふことは當然やらなければならないやうに前から考へて居つたんですが、周圍の地價がだんだん騰つてゐるのに道路幅の制限の爲に建物が高く建てられないといふやうな處はそれを改正さへすればすぐ建物が高くなり利用率も增すといふやうになつてゐるのに拘らず、それが今まで制限されて居つたところが、今後さういふやうな傾向にあるにも拘らず制限を受けるのぢやないかといふやうな心配もある、これは餘程その點は考ふべきものぢやないか知らんと思つてゐる、ですから、その點一寸氣がつきましたから申上げました。

亀井——大變有難ふございました、その點につきまして多分宮田君あたりは建物の高層化と防空なんていふ問題についてしばしば御意見がありましたので、防空上高層建築等について御意見はありませんか。

宮田——深く實情に應じて研究したのぢやないから質問に對して答へられないかも知れませんが私もやはり村野先生のいはれるやうにさういふことは確かに起り得ることであるし、その起り得ることが既に實在となつてゐる以上さういふことを考へて今後の道路の幅員とかいふものが、さういふ自由な建築が出來るやうな考は一應自由經濟組織の社會ではさういふことも考へてやらなければならないかと思へる。但し强行な法律によつてそれを決められた場合には已を得ないことだと思ひます。先程さういふ、それで私もその點ではよく研究してゐないので答へる術を知らない。それから先程玉置さんが30條の1號について御說明になつたが、この規定は新築される場合に適用されるわけなんですね。

玉置——この但書ですか。今防火壁のないところへもつていつて防火壁を造らうといふ場合にもこの規定は働きますし、建物をこれから建てやうといふ場合にも勿論働く譯です。多分宮田さんの御想像では改修する場合でせうね。

宮田——まアさうです。

玉置——勿論その通りです。

宮田——この前建築學會の展覽會をやつてゐる時に耐火木材を使つた場合はかういふやうに出來ますといふ案が出てをつたが、耐火木材を使つたらさういふやうに出來るものでせうか。

玉置——これは第2項の防火壁でないといかんですなア、耐火木材では具合が悪いのぢやないかと思ひますが、あの建築學會でやられたのは建築學會の分であつて、この規定は規定獨自のもので

す。だから建築學會の案と規定とはピツタリ合はんのぢやないかと思ひますが。

宮田——あの時開口扉の窓に對しても一つの案を示してあつたやうですが、やはりこの頃では開口扉に對して新しい規定は設けてゐない以上やはりそれは從來の開口扉の施設と同じやうにしなければならないのですね。

玉置——さうだと思ひます。

宮田——有難たうございました。

亀井——今までは市の方とか事務所の方並に役所の方が主に話されましたが業者の方として鈴木さん何かありませんか。

鈴木——皆樣の御意見は大變參考になりました請負者側として先程お話を承りました防火壁の問題、くどいやうでありますがこの規定通りに金屬板を中央に入れて兩面にラスをぶち込んでブロツクのやうなものをこしらへて挾んで置くと仕事が一番やり易いのですが、最後に倒壞の處れなしといふのが一つあるので倒壞といふのはつまり燒けてしまうて一方の建物が燒けてしまつて倒れなければいゝわけですね。ブロツクを積重ねて左右の木造の間に挾んで行きましたら一方が倒れても一面にはついてゐるやうな勘定になりますので、それでも行けるのぢやないかと思ひますが如何でせう。

亀井——松井さんどうぞ。

松井——1號を見ますと木造又は木骨建築物は煉瓦造、石造の防火壁を許さないといふことになつてをりますので、今お話になるやうな構造だと大體石造だとか煉瓦造と同じやうな構造になるのぢやないかと思ふのでありますが、さうしますと今度の改正の趣旨に合ひかねる、果してそれは何故さういふことをやつてゐるのかといふことにつきましては私自身も相當疑問をもつてゐるんですが、煉瓦で兩方に木造の建物がピツタリ挾んでをれば片つ方が火事が行つても簡單に焦るやうにも思へないのですが、これは單に火災の時だけの問題ぢやなしに震火災といふやうなこともある程度この中で考へてゐるのぢやないかといふことを想像してゐるのです。從つて今お考へのやうにモルタルブロツクといふやうなものをお造りになつてお積上げになりますと普通の場合の火災であるならば止めるが、震火災では十分に防火の目的が達せないのぢやないかといふことがいへると思ひます。

鈴木——實際はその方が火災に對しては強いやうな氣がしますがね、3センチ壁より6センチのブロツクを積んで行く方が強いやうな氣がしますがさう解釋出來ぬ譯ですか。

松井——今の構造ですね、倒壞しない方法をお考へになれば非常に結構だと私は思ひます。

鈴木——せいの低い建物はある程度行けるわけですね。

松井——平家でしたらうまく行けると思ひます

亀井——岡本さん何か御意見ありませんか。

岡本——工業專用地區の中の工場の附屬の寄宿舍とか社宅ですね、さういふものは當然許されるもんでせうが工場の附屬の住宅に類したものですなア、社宅とか宿舍。

玉置——規則の第3條の7の2のところに建てられるものゝ種類が書いてあります。寄宿舍はその中に入ります。こゝに擧げられてゐる建築物であつて支障なしと認められたものは建てられる譯です。それですから工場附屬の寄宿舍であつたならば大ビラといふわけには行きませんが、地方長官が良いといふてくれたら建てられますし、認めて貰へなければ建てられないことになります。それだから建てられる場合もあり建てられない場合もあるさういふことになるわけです。

亀井——その他御質問はございませんか。

村野——新聞で私見だと思ひますが新聞辭令ですから分りませんが、例の美觀審査委員會の構成される人です、大體さういふことを新聞でみたと思ひますが私が京都で家を建てやうと思つても隨分いろんな問題で困つてゐるのですが、相當ハツキリしてをればまだやりいゝのですが、洋風でなければならないのに日本風を建てるといふのは運動の仕方で出來る。どつちにもつかないで困つていけない時には運動をするといふやうなことで困るんですが、何んでせうかつまらぬことをお質ねするやうで變ですが、大體の內容がお分りにならないでせうか、構成される人とかを非公式ですから何等仰言つても差支へないだらうと思ひますが

亀井——それは圖星なんですが、具體的になつてないのぢやないかと思ひますがね。

玉置——新聞記者がさういふことはニユースヴアリユがあるから言へ言へといふて喧しく迫つて來てゐますが、實際のところまだどうするのかか

うするのかも決つてゐないやうです。私1人勝手な考へですけれども、先程は大阪の街全般の美觀について審議をされるといふことを申上げましたが、何んといふても原則は美觀地區内の問題になります。處が現在美觀地區と防火地區は大體に於てダブツてゐまして、防火地區の建築は今のところ鐵の統制で建つのが少なくなつてゐるから美觀審査會が出來ても今直ぐ働かぬといふことになつてゐます。だからノンビリその中に決めれば良いと思つて居ますが今のところ全く白紙です。然し元來は今までは内務大臣に伺ひして内務大臣に決めて貰ひそれで地方長官が命令を發するといふことになつてをつたんです。地方長官1人ではやらさんぞ。事重大だから内務省に伺へといふことになつて居りました。處が兩方とも官吏ですだから官吏の獨善といふことはどうしても免れませんそこで民間の人も入れて話が堅くならんやうにしやうといふ趣旨で美觀審査會といふものが出來たわけなんです。だから今まで懸念されてゐることよりは餘程緩和されるのぢやないかといふ風に思つてをります。

村野——大きさなどは制限されないでせうか。

玉置——制限される場合もあるでせう。

村野——皆お巡りさんの處にもつて行つてやる譯ですか、皆一々さういふことになる譯ですか。

玉置——美觀地區の重要命令を發する時にはさういふことになる譯です。

亀井——若干蛇足を付けて置きます。今、玉置さんからさういふお話がありましたし、又村野さんからもさういつたやうな懸念もあります樣に運動の仕方によつてどういふ風にもなるといふことはない。といふのは吾々必ずしも斷言は出來ないと思ふ、そこで問題になるのは美觀審査會を構成するメンバーの方に相當期待するものがあるのぢやないか、それと民間の專門家を入れて美觀審査委員會をやればさう村野さんの御心配になることも解消されるのぢやないかと思ふのです。例へば復興計畫をやつたときに建築家として相當なものが入つたやうに、美觀審査會の中に建築家の相當の人が入つて少くとも我々を代表した意見を出すやうな人が入つて、場合によつたら美觀審査會の空氣をリードする爲に少くとも建築家が入るといふことは建築の方の常識が上つて又建築界に向つてさういふ人間が美觀審査會に入るやうでなければ、進歩出來ないので、多少さういふ運動も協會などでやられたら、此の目的も達せられるんぢやないかといふやうな氣もします。外國の例を見ますとフランス邊りでも建築家が美觀審査委員會の構成に重要な位置を占めてゐるといふやうな譯で今玉置さんのいはれるやうに防火地區とも關聯して多少研究する餘地がありますので、「建築と社會」紙上に於て村野さんの樣な御意見が出れば輿論を指導する動機を造ることになるのぢやないかと思ひます。以上若干申し添へします。

玉置——蛇足で却つてお話せん方がいゝのかも知れませんが、御承知の如く今大阪に廣告審議會といふのがあります。京都の街を歩いてゐる感じと大阪の街を歩いてゐる感じが全く違ひます。京阪電車に乘つて京都に行くと京都の街には廣告を忘れたのかと思ふ程全然廣告物がありません。これは廣告を非常に統制して居るのです。大阪にも廣告審議會といふのが出來まして御堂筋には大きい廣告、少さい廣告が目茶苦茶にあつたのですがあれぢやいかんといふので、廣告審議會が出來ることになつたのです。廣告審議會の事は私は詳しいことは知りませんが、御堂筋の廣告の統制に乘出して結局御堂筋の廣告は見よいものはどんなものだといふ1つの型を示しました。さうすると今その型がすつと氾濫して居ます。ところがその型を示すまでに廣告審議會がやはり官吏獨善であつてはいかんといふので廣告屋さんがあれには相當關係して居られます。結局あれを決める時に廣告屋さんの都合のいゝやうに決まつたのだと云ふ人があります。このごろの新聞あたりの論説を見ると御堂筋をあゝいふやうな廣告街にしてしまつたといふことは怪しからんといふことを引續いて論難してゐるやうですが兎に角非常に非難があります。廣告審議會に廣告街さんを入れてしまつたのであゝいふやうになつたので、美觀審査會に建築屋さんを入れないといふのではないが、建築屋さんが澤山入つた場合に本當に大阪の建築をよくするといふ意味で審議が出來ることになるか或は建築するのに都合がいゝやうに決まるのではないかその邊がなかなか疑問をもたれて居ます。かういふ疑問をもたれてゐる間はどうしてもよくなるといふわけには行きますまい。片つ方は廣告の例でありまして建築にはさういふことは絶對にないと思ひますがさういふ經緯がありましたことを御參

考にもなりますまいが申上げてをきます。

亀井——竹内さん何かありませんか。

竹内——いや、今日は何んにも。

亀井——森さん何か御意見はありませんか。

森——いろいろと有益な意見を承りまして……

亀井——山口さん御意見はありませんか。

山口——私の質問は一寸特殊なものに屬すると思ひましたので遠慮してをりましたが、この施行規則の第3條の2で次の各號に該當しないものは住居專用地區内に建築することは出來ないといふ規定がありますが、要するに次の各號に該當しないものは建築出來ない、該當すれば必ず出來ると考へていゝでせうか、例へば1號から9號までに該當してをりましたら當然建築させて戴けるでせうか。

松井——1號から9號迄に該當してをりましたらその地區に建築することの權利があるわけで他の關係さへ支障なければ認可出來るわけでございます。

山口——5號の學校といふことになるのでありますが、實は差し迫つた問題ですが或る學校が現地改築、移轉改築といふてゐるが、そこで學校に實習場がありまして、その工場はスチームハンマーとかタナツプハンマーを使つて居りまして實質や的にいへば學校の1部分ですが普通の工場と同じうな機能をもつ場合で、これは學校だから大體これで建築さして頂けるものか、それとも學校の1部分ですけれども、工場をもつてゐる場合には學校と考へるものか、この中に該當するの資格がいもなのと考へるべきか、それを一寸。

松井——それは10號に書いてありますが前各號の1に該當する建築物に附隨するもので、地方長官支障なしと認むるもの、學校があつて附隨する工場があればそれが支障があるかないかといふことは10號によつて取上げられるものと取上げられないものとある、かういふことになります。

山口——有難ふございました。

亀井——それでは小林さん何か御意見ありませんか。

小林——第145條に左の1項を加ふ、といふそれに建築物使用認可證を受くるにあらざればその建築物を使用すること得ずといふことを一應御說明願ひたいのでありますが。

松井——これは地方長官が建築認可證を交付する際に、この建築物は建築が竣功したら使用認可證を貰はなければ使つてはいけないぞといふやうなものを認可の際に。

小林——さうしますと從來のと同じですね。

松井——從つて從來のものは地方長官が特に指定しなくても全部使用認可證が必要であつたが、今度の改正は建築認可證を受ける時にこれは使用認可が要るぞといふ判を捺すとか、或はビラをつけますか、さういふものがなければ使用認可證がなくても出來上れば御自由に使へるといふことです。

小林——それから規則の3條の6でございますが工業地域内特別地區の規定で「前3條中2條の規定の適用を併せ受くる建築物を建築せんとする場合に在りては地方長官その建築すべき地區を指定す」この2條の適用を併せ受くる建築物といふのはどういふ風なものになります。

松井——それは3條の4と3條の5とを併せ受けるもの、つまり甲種特別地區内でなければならないものと、乙種特別地區内でなければならないやうな2つの用途をもつてゐる1つの工場があつたとすればさういふ場合に甲に建てやうとすれば乙でなければならない仕事がありますし、乙に建てやうとすれば甲でなければならない作業をもつてをります。さういふ時にどちらの區域に建てられるかといふことは地方長官がその場合は甲に建てゝよろしい、これは乙でなければならないさういふことを指定するわけです。

小林——どうも有難ふございました。

亀井——話も漸次進みましたが、先程神戸の防空のことの話が出ましたが大阪の防空のことは何んにも話が出ませんので吉田さんに何か防空の立場から御意見でも承りますれば。

吉田——先程から内藤君から大いに話がありましたし、宮田君からも出たやうですから私から今更申上げることはないのでございますが、都市計畫と都市防空と申しますか、それ等の密接な關係はいふまでもないことでございます。都市計畫は無論法制的にいひますと都市計畫法と市街地建築物法とで今までやつてをられるのであります。都市計畫の方も最近は防空的の趣旨のもとに進んでをられつゝありますし、又市街地建築物法は先程玉置さんから申されたやうに防空上といふことが入つた位でありまして、又その結果各所に防火的

の改正を見たのであります。就中今般のこの勅令の改正によります空地々區でございますが、これは都市防空と全く深い關係があると思ひます。燒夷彈が落された折にその的中率を少なくし、火災が起つた場合に延燒を少なくするといふ點に於て最もいゝ制限だらうと思ふのでありますが、斯ういふ風にして段々と市街地がよくなるやうに法制化されて行くことは御同慶の至りだと思ひます。

次ぎに一寸御質問申上げたいのでありますが、この空地々區に關しまして長屋に對してはどういふ風にお考へになつてをりますか？恐らく從來の長屋は從來の空地制限關係に於けるものと同じとは思ひますが、大阪のやうに長屋の多いところはどういふ風に御處理になる御心算でありますか？こんな所には恐らく指定されないといふことも考へられますがその點を一つ。それからこの條文を見ますと10分の2乃至10の7に相當開きのある改正になつてをります。大阪に於きましてはまづどれ位を標準としてこの實際の地區指定にあてられる御豫定でありますか？、それからこれは私の思ひ違ひかと思ふのでありますが、第6條の3の中に敷地境界線よりの距離の限度は地方の狀況により內務大臣これを定む、となつて除外例として第一道路、公園云々とあります。この道路といふと非常に範圍が廣いやうに思はれますが、單に道路として幅員の廣い道路とか何とか書かないで、こゝに入れてあるのはどう云ふ意味でありますか？こんなことをお伺ひしたいのであります。

亀井——空地區域にをきましては大體都市計畫で專ら調査を進めてゐるらしいと拜察されるので鳥井さんの代理として來られた伊藤さん、その點に於てお答辯願ひたいと思ひます。

伊藤——鳥井さんが本夕出席する筈でしたがのつぴきならない用意が出來て代りに行けと仰有つたのでこの列に侍らして戴いたのですが實際のところ最近空地々區についていろいろ調査を進めてをりますが吉田さんが仰有るやうに大阪の場合は多少違ふかも知れんといふ結果が出て來てゐるのでありまして、殊に長屋が非常に多いもんですから既に出來上つてゐる街は指定にするにかなり困難があるのぢやないかといふ風に私自身は考へてをります。それから隣地との境界線の話ですがこれも特にいゝ場合、いゝ住宅地ではその場所についての調べをやつてをり、もう既に非常に家と家とが近接してをりましてこの點もいろいろ考へなければこの規則を生かして行けないのぢやないかといふ風に考へられます。只今まあ吾々がやる仕事が非常に多くなつたので何をやつていゝか實際に分らないやうな狀態でハツキリしたことを申上げることも出來ません。

亀井——どうも有難うございました。まだ調査の途中にありましてまだ明確なことを申上げられないといふことであります。なほ岡田さんあたり何か御意見がある筈だと思ひますが。

岡田——皆樣のいゝ意見を聽かして戴きまして大へん勉强になりました。私の方の住宅の方から申上げますと住居專用地區それから空地々區が出來ましたことは非常にいゝことだと思つてをります。その外別にこれといふ意見もありません。

亀井——岡田さん御意見ありませんか。

岡田——別に……。

亀井——それでは楠瀨さん。

楠瀨——別に……

亀井——森口さんありませんか。

森口——別に意見もありません。

亀井——それでありましたら棚橋さん。

棚橋——いろいろ法律が出來ました。根本の方針は專用地區といひ、空地々區といひ大變結構なやうに考へられるのですが、なほ實際にどこを專用地區にするか、なほ空地の割合はいくらにするか、といふことを將來實際實行する時に、若しその方針を誤れば却つてなかつた方がいゝといふ風になると思ひますから、殊に官僚獨善といふ聲もあることですから、大いにさういふやうな問題に關してもなほ協會に於ていろいろ集つて研究する機會があつたら望ましいと思ひます。それから又美觀審査委員會といふやうなものが出來るさうでありますが、さういふものも出來れば協會から全般的に關西に於ける建築家を代表する委員を選出されるやうに何かさういふ方法を協會に於てとられることを私は希望する次第でございます。

亀井——もう時間も來ましたからこれで最後にしたいと思ひますが司會者として不行屆のところや橫暴でありましたところを御許しを願ひたいと思ひますが、最後に先程伊藤さんからお話があつたのですが專用地區といひ空地々區といひ美觀審査會設置といひその他さまざまのことや都市計畫法の實際をやらなければならないといふことにな

つてゐる際果して現在の人的資源の配備で出來るかどうかといふことは非常に疑義があるのであります。例へば大阪の例をもつてしても技師1人、技手數人で大阪全般をやらなければならないのみならず大阪を中心として京都、兵庫、和歌山その他にも關係をつけて地方計畫の方も考へなければならないといふ時に、これしきの僅かな人的資源をもつてこれらのことが果して出來るかどうか頗る疑問とせざるを得ないのであります。政府はいろいろの法規を出して、出先の人々にあてがひぶちをするけれども、果して實際の問題としてこれらが巧みに運用して行けるかどうか、此の點に就て政府に本當のことが分つてをらないらしい樣に思つて仕方がないのです。さういふ意味で先程も村野さんからもこの大阪にどういふ事情と、どういふ樣な問題でどういふ摩擦が起るのかといふことは無論見當はついてゐるとは思へないのでありますが、さういふ場合に於て建築協會の如き、公共の團體が政府を鞭撻しまして、所謂合理的な都市建築に向ふことによつて建築報國が出來るのだらうと思ふのであります。かういふ機會に若干司會者として所見を述べまして閉會の辭とします。皆樣どうも有難ふございました。（拍手）

俗　説　吊　天　井

大　熊　喜　邦

宇都宮の釣天井は俗説として名高いものになつてゐるが、徳川實記などにも其の時の噂だけが記るされてゐて眞相は判らない。だが、二代將軍の日光社參には兎角不祥な事件が起つた。家康公1年周忌の社參には江戸發足の時から稀な荒天に遭遇した。7年周忌の日光參詣の時は歸途宇都宮城に泊る豫定であつたが、本多正純が異圖ありと告る者があつたので、急に道を轉じて壬生に泊つた。世に吊天井の事を云ふのはこの時の事である。

本多上野介正純は元和2年5月に上野國佐野一圓 20000石の加封があつたので、宇都宮の50、000石と合せて77、000石餘となつた。

元和2年の秋10月26日、日光山を拓いてそこに家康公の廟を造營して駿河の久能山から改葬することになつた。藤堂和泉守高虎は經營を司り、本多上野介正純は總督として明年4月迄に成功すべしと命ぜられた。4月17日は家康公の祥月命日であるからそれ迄には是非とも成就させねばならなかつた。10月の末といへばあの山々の梢には紅葉もはや見られぬころ、冬を控へて僅か5ヶ月ばかり、冬の日光山を拓いての造營は決して易い仕事ではなかつた。工事の實際を擔當する棟梁である御大工中井大和の苦心はなみ大低では無かつた。寶塔の笠石の運搬などには色々な物語も傳へられてゐるほどであつたが、でも豫定の4月には御本社・御本地堂を始め廻廊・御供所・御厩まで出來上り、4月8日には靈柩は久能山からこゝに安置されて和泉守も上野介も無事に役目を果した。

神君の1周忌でもあり改葬の供養に將軍秀忠は、この月17日にはどうでも參詣するのであつた。

舊の4月半ば關東平野も綠に芽ぐむ頃でありながら、10日夜からの大雨に烈しい風さへ加はり物凄い荒天となつた。千壽の川は刻々に水は嵩まつて行く、12日は將軍參詣の途にあつたが、大橋が危ない、流がされそうだ。小石を苞とした數萬の俵を透間なく橋下に備へて漸く通行だけは出來たが、千壽と草加の間では平野に吹き荒む烈風に息つまり足元の水に命を棄てた下部が13人も出た。

翌日には栗橋の船橋も流されて仕舞つたので行列も岩附に滯留を餘儀なくされた。14日には古河にやどり、15日は宮都宮本多上野介の城內を旅館とされ、其後は滯りなく供養を畢つたが、この度の參詣にはなかなか故障が多かつた。

元和4年4月の3周年忌には紅葉山の東照大權現の迂宮があつたので將軍はその方へ參詣して日光の御宮へは本多上野介が代拜した。この時には別に怪しい事もなく濟んだが、8年4月の將軍日光山參詣には奇怪な事件が持上つた。

2月7日に、今年は日光山にて七年周忌の御法會が行はるるに依つて、御參詣のことが

あると仰出された。尤も前年の元和7年には將軍參詣の折の旅館ともなる御本坊といふものが初めて造營され準備萬端は調へられてゐた。例によつて江戸の首途は4月の12日、其の夜は岩槻城内の御殿で一夜を過し、13日は古河、14日は宇都宮城に泊られた。宇都宮城では將軍の御成りの爲め多數の職人を動員して夜を日に繼で新殿を造營しこれに將軍を迎へた。勿論上野介の誠忠はかくもしなければ氣が濟まなかつたに違ひない。夜になつて庭へ出やうとして戸を開けたが樞が落ちてあかなかつた。有りふれた事なので別段意にもかけず翌朝供揃をして今市へと行列は進んだ。17日祭禮、19日本地堂曼荼羅御行が執り行はれこれで御法會は何の障りも無くその儀を畢つた。

江戸へ歸還の時刻はだんだんと迫つて來るにつれて注進は次ぎ次ぎと絶えない。噂は噂を產んで人々の顏には不安の色がみなぎつて來た。宇都宮城内の御殿の天井は釣天井で重しがかけられ網を切り落して將軍をなきものにするたくらみがあると專らの噂である。そうかと思ふとまた別の噂が眞しやかに傳へられる。

御旅館を高く造つて下を自由に數人往來が出來る樣になつてゐる。してこの造營は深夜にいそいで造り上げ、これに從事した同心 100人を1日の中に悉く殺したとか、此ごろ京よりあまた銃を苞苴にして宇都宮へ下したとか。御用意なくしては如何なる珍事引出さんも知るべからずとか。

こんな注進を近臣共が聞いていかにも左樣なことが無いとも限らない。既にならせ給ひし時には御旅館の樣子如何にも心得ぬことが多い。寢殿の戸に付置た樞が落ちて戸を開ける事が叶はなかつた。家司を始め家士等は、皆野陣を張つて馬の鞍をも取離さず用意してゐた。これ等の事最も不審だと、とりどりに噂し合て宇都宮の御止宿然るべからずなど唱へ出すものが多くなつた。

そうかと思ふと、御成御殿の遣戸毎に又戸一つ宛をまうけた、これはもし地震で地傾き戸の開がざる時の用意だといふが、實は軍兵の亂れ入る爲に設けられたのだと噂されたり浴室の板床が落ちる樣に出來てゐて其の下には悉く劍が立て竝べられてあると誠しやかに傳へられた。

將軍は山を下り今市から出る頃江戸からの注進、それは御臺所の急病の由なので宇都宮へは立寄らず急に途を急がせて今日は壬生に泊られた。20日は岩槻城が御旅館で其の翌日は無事に歸城になつた。强力の侍某が將軍の乘つてゐる駕籠の棒鼻に大石を結び一人で、たゞ一人で江戸まで駈け歸つたといふ、講談に出て來る話はこの今市からのことで、興味たつぷりに能くもでつち上げたものだ。

この時井上主計頭正就は一人宇都宮城に入つて御成御殿の構造を巡察して歸つたのだつたが、巡察の結果は判つてゐないので、別にそれらしい怪しい事があつた證據は擧がらなかつたらしい。

前將軍の時から近側にあつて夙夜勞を厭はずいつも大事に預つて忠勤をぬきんでた正純

も、8年8月には遂に155000石を除封された。して9年には大澤に移り僅かに1000石の小祿で暮したが、寛永元年には横手に移つて、若し其まま宇都宮の城主でゐたらば再び營監として日夜の勤勞を惜まなかつたらうと思はれる、東照宮の寛永造り替の畢つた翌年に當る、寛永14年3月10日73で其の一生涯の幕を閉ぢた。

釣天井はただの流言で、正純の純情はそんなものではなかつたであらう。家臣等が野陣を張つてゐたのは未だ油斷の出來ぬ世の有樣とて、不時の出來事に對する夜を撤しての警固で、正純の誠忠は用意周到にそうさせたのであらう。遣戸に更に戸を付ることは地震國とて以前からもあることで、樞を外せばバネ仕掛で目づと戸は外へ開く樣になつてゐる。そんなことを知らぬ者から見ると、それが流言を產み出す一つの種にもなつたかも知れない。太閤の一夜普請でも實は森に隱されて日數を重ねて造り上げ、一度に森を切り取つたのだとされてゐる。御成御殿が深夜に1日で出來るものではあるまい。

井上主計頭の巡察はどうなつたか、とんと判らない。

二代恩顧の正純に面白からぬ感情をもつたある大名の奥方の讒訴が、彼れ上野介の誠忠を逆用して成功した樣でもある。宇都宮城を振り返り見返りながら立去る彼の心中には、なんの執着もなく、除封の時一萬石を減れるといふのを辭退した樣な心情の持主は、昔のままの純情さに唯主君の將來のみが氣に掛つてゐたであらう。

其後將軍の日光社參の往復にはいつも宇都宮城內の御殿が旅館になつてゐる。

正純は憐れにも淋しく死んで行つたのだつた。

上野介正純が入念に指揮し中井大和が骨折つて造つたこの元和の御宮の本殿は、寛永の造替の時他に移され世良田東照宮の本殿になつたのだが、今も猶ほ昔のままに傳へられてゐるかどうか。

古典（クラシック）建築の色彩について

——感覺の全體性——

瀧澤眞弓

彫塑性　古典建築と云へば、吾々には何よりも先づ、あの清楚な柱を樞軸とする所謂「オーダー」なるものが眼の前に浮び來るであらう。具體的な個々建築の實例に於いては夫々に細部的な差異はあつても、吾々の觀念的表象としての古典的オーダーは殆ど一義的と云つてもよい程に決定的な形式を具へてゐる。然かも、それは如何にも美しい。建築的であると共に「彫塑的」である。否、むしろ建築的形式を彫塑として具體化することに成功した稀有の作品である。而して人々の感性的直觀に訴へる美は主としてその彫塑性に由來する。が、それは依然として、あくまで建築的である。彫塑的美が建築的法則によつて調律せられ、美は眞と相互に交涉し、辯證法的に高められた姿を示してゐる。これこそは一度天才民族ギリシア人によつて創造せられ、爾來二千數百年にわたつて世界の建築史に君臨したところの不壞の典型であつた。斯くも優れた典型を、果して他の如何なる民族が造り得たであらうか。固よりこの問題は既に論じ古されたところである、が敢て私はもう一度この古めかしい問題を茲に提起し、更めて考へ直して見たいと思ふのである。

ところで私は、茲に言ふところの「彫塑的」なる語義について若干註釋の必要を感じる。彫塑的とは、現今普通に行はれてゐる彫塑を言はゞイデア的原型としてはゐるが、場合によつては「立體的」と言ひ替へられても差支ない態のものである。其所では彫塑は純粹に立體として追求されねばならず、從つて繪畫的色彩の如きものは一應は不純な要素として捨象さるべく要請される。既に、このことは茲に更めて注意するまでもない程に一般的な常識となつてゐる。恐らくその常識的用語法に從つて、ドイツ新カント派哲學の一方の巨匠コーエン教授は——もう三十年も昔のことではあるが——その嚴密無比なる「純粹認識の論理學」の冒頭に於いて「ギリシア人の彫塑的性質＞Die plastische Natur der Griechen＜は感覺の專制をいさぎよしとしなかつた」と云つた。勿論この言葉は哲學的思惟、特に數理的認識のために象徵的に表現せられたものではあるが、吾々はこの言葉をそのまゝ直說法として受取ることも出來よう。然う解釋すると、この語の中には何とはなしに色彩的要素を拒否する如き響が感ぜられる。だが、古代のギリシア人の彫塑的性格といふものが、果して斯かる意味での純粹性を特色としてゐたものであらうか——實はこの問題をこれから

考へ直して見たい、といふ次第である。

ウキトルウキウス　さて更めて、古典建築の「美」は何に由來するか。と、斯う云ふ問に對しては、差當り私も亦世間普通の定說に從つて、先づその淸澄な「數理的比例」からと答へねばなるまい。それは一應上揭の哲學者の言葉に呼應する機緣をもつことにもなる。また、現に古典建築に關する殆ど唯一の證言者とも云ふべきローマのウキトルウキウスによれば、建築的形式の最高原理は「シムメトリア」であつたが、それは要するに古代獨特の比例說であつた。既に古く盛時のギリシアに於て、彫塑術に於ける比例の問題が丹念に考究せられ、現にポリクレイトスの如きは（彼はプエイデイアスやミロンと同じ時代の彫塑家としてギリシア藝術の黃金時代を代表する一人であるが）彫像に關する規範的比例を說いたところの「カノン」＞Kanon＜なる著述を試みたとさへ云はれてゐる。——尤もこれに類する話は何所までがギリシアの直傳であつて、何所からがラテン人の傳聞によるものかは不明であるが、今は假に漠然と古代以來の傳承として置くことにする——繪畫に關しては有名な畫家ポリグノトスの如き（彼はプエイデイアス時代の先驅者であつて、畫家としては最も著名な人であるが）その壁畫に當つて用ひたところの色彩は僅かに黑・白・赤・黃の四色にすぎず、然かもその畫くところは陰影も肉付けもない線描だつたと傳へられる。その調子は、恐らくあのギリシヤの瓶の繪に見るやうなものだつたであらう。だから少くとも今日の眼から見るとするならば、繪畫は宛も彫像の下繪の如き調子のものであり、彫像はそのカノンによつて、言はゞ建築的制約をうけてゐたといふことになる。私は玆に彫塑のカノンをば建築的制約と呼んだが、實はそれは一應の美學的措定であつて、古來の傳承はむしろ逆に、先づ人體乃至彫像に關する比例の研究があつて、然る後にその結果が建築の上に適用された、といふ風に說かれてゐる。ウキトルウキウスの所傳によれば建築の比例は元々人體を規範として案出きれたものであつて、荷重を負ふ男子の身體の比例、美しさからドリス（ドリア）式が、同樣にして女子の身體からイオニア式が考案されたといふ事になつてゐる。俗說としか受取れないが、少くともローマ人の間に斯やうに信ぜられてゐたといふことは注意されねばならぬ——とにかく彫塑的な建築觀。美の契機としての數理。

さて、ローマ人はギリシアの建築を形式的に摸したが、少くとも形式以外の點ではローマはギリシアと異る所があつた。その相違は先づ材料に對する態度に現れてゐる。彼等は種々の大理石を夫々天然色のまゝで効果的に併用した。が其所にはやがてパロスの大理石の純白を誇る建築美も約束される。いはんやギリシヤの彫刻をそのやうな大理石に摸刻することが當時の流行でさへあつた。比例といふ尺度によつてギリシアの形式を摸する白い大理石の藝術——ウキトルウキウス風の藝術觀が其所に考へられる。

パラデイオ　ルネツサンス建築が古典樣式の復興であつたことは今更云ふまでもないが

その間にあつて文字通り古典の復興を志し、建築の形式を一種の學理として定式化したのはパラデイオである。彼はウキトルウキウスに傾倒した。固よりウキトルウキウス研究は彼一人の獨占ではなかつた。史家ブルツクハルトの「イタリア・ルネツサンス文化」（第三篇、第九章）には當時の「文化の一般的ラテン化」の一徴候として「ウキトルウキウス主義」が建築家達を支配してゐたことが特に注意されてゐる程である。然かも彼が特殊な一人であるとされてゐるのは、言はゞ「純粋建築」とも云ふべき形式を所謂「オーダー」として抽出したからである。

ウキトルウキウスは、彼自らが意圖したであらうところのギリシア的古典の再現には必ずしも成功しなかつた。眞の古典建築を理解するためにはウキトルウキウスは警戒されねばならぬとさへ言はれる。然かも彼の學說は茲にパラデイオなる知己を得て、爾來西歐建築界の事實上の古典となつた。皮肉な運命ではある。

ウインケルマン　近世に於ける古典藝術研究に於て、ウインケルマンの「古代藝術史」>Geschichte der Kuust des Altertums< は劃期的意義を有するものであるが、內容的には多分の美學的理論が參加したものであつて、既にその冒頭から「藝術の本質を探求すること」が大いなる題目であつた。彼は古典藝術をローマなる古典的現場にあつて親しく觀照し、其所に古代人の業蹟を追體驗し、併せてキケロやウキトルウキウス等の古典からその藝術觀を攝取した。が其の上に彼は何時の間にか彼自身の美學を建設してしまつたのである。かくて彼が最後に到達した所は「純粋美」といふ美學的境地であつた。其所では、色彩の如きものは美そのものではない。色彩はむしろ不純な要素として捨象されねばならぬ。その結果純粋なものとして殘るところのものは素描と彫塑乃至比例のみとなる。斯ういふ理論は、言ふまでもなく彫塑性を美的イデアとして成立したものに他ならない。この言はゞ古典主義的・彫塑的美的純化は、宛もかのパラデイオのルネツサンス的・建築的・美的純化に對應する。

彼の著述から二年程後にレツシングの有名な「ラオコーン」>Laocoon<が出版された。が此所でも亦美の理想は人體の形式美に於て求められ、繪畫では色彩なき素描が推賞されたのである。

かくて之れ迄の古典主義者たちは、宛も比例の尺をもつ仕立屋が、常に漂白業を兼業したかの如くであつた。

ハウプトマン　ギリシアの建築は元々木造であつたと云はれる。木造建築が彩色されることは自然であり、適切な處置として首肯される。やがてその木材が追々と粗雜な石材に代へられ、その表面に分厚な漆喰が塗られるに至つた時も、なほ彩色による裝飾化の行はれたことはまた順當なことゝして首肯されよう。が、遂にそれが磨かれたる大理石の堂々

たる建築として、所謂古典的オーダーを完成した後に於ても、尚ほ且その上に絢爛たる彩色が施されたといふことは、少くとも所謂「古典主義」美學の眼から見れば異様な趣味であらねばならぬ。然かも、それが古代ギリシアの本當の姿であつた。念のため、茲にコリニョンの「パルテノン」から次のやうな一節を抜萃する——

今日ではギリシヤ神殿の裝飾に色彩を使用した事は萬人の一致して認める所である。…たゞドリア神殿に關する所では、彩色の應用があまり異例のない一定の法式に從つてゐた事を思ひ起さう。着色は高部に限られたもので、主要な色は赤と青とである。パルテノオンも例外とならない。ペンロズとパツカアルとの細密な調査を經て、復舊すべき着色の基本的要素が明瞭となつた。此の原理を以て色彩をあまりに濫用したロヴイオの復原案の如きに對して抗言し得られるのである（富永惣一氏譯による）

純白な建築や彫像を想像することほど非ギリシア的なことはない。建物も彫像も生き生きと彩られたのである。第一流の彫刻家が最高の光榮とした仕事は神々のために「黄金・象牙の像」を造ることであつた。吾々はもう一度、生ける青春ギリシアの姿を見直さねばならぬ。パラデイオ流乃至古典主義の青白き美學を以て、眞の古典的ギリシアを律することは非歴史的冒瀆だと云はねばならぬ。茲で、私の念頭に浮ぶのはあのアクロポリスの丘に立つてパルテノンを仰いだ文豪ハウプトマンの「ギリシアの春」>Griechischer Fruehling<の一節である——

今のパルテノンの有様、その法式を言つて見れば、力と誠だ！そこから力は殆ど威壓にまで、誠は殆ど剛直にまで强化されてゐる。その形式の聲明は實に斷乎たるものだ。だからその表現の明晰さが、その昔の派手な彩色のために若干奪はれたかも知れぬなどとは私には夢にも考へられない。

虚弱型のギリシア主義、即ち貧血的ギリシア主義に對する貧血症的戀慕などいふものを患つてはやりきれたものでない。だから、私にとつては、このドリス式神殿が派手に、また衆多の見解に對しては野蠻にも映じようといふ風に、彩られてゐたとして見たところで、別に愕くには當らないのだ。全く以て、お氣の毒千萬、世の弱蟲共のことは容赦してやるとしよう。宜なる哉、その構成的風貌に野性的混淆の存せること。蓋し、その多彩な表面裝飾の絢爛さは神々と人間との關係の在りし昔の無邪氣な境地をよく語つたものであつて、それは人々の心を燻るやうに捕へて祝祭の歡びへ、それからやがて深き崇敬の念へと誘つたものにちがひない。

ニーチエ　西歐の地は由來「夕暮の國」>Abendland<と呼ばれてゐる。この呼名は本來の名を「光明の國」>Hellas< といふギリシアに對して特に象徴的である。——さて今アクロポリスの丘に立つたハウプトマンは、その夕暮の故國を想ひ出したか。彼はつゞけて言ふ——

眞の殿堂はいづれも大衆的である。わがヨーロツパには教會堂や大寺院はあつても、斯かる意味での眞の殿堂は一つもない。恐らく、吾々に於ては人生の悦びが教會から分離してしまひ、今では其所はたゞ、宛も死と墳墓とに光榮を授けるにすぎぬものゝ如くなり果てたからであらう。

……が、人生は生活し、且生氣潑剌たるものだ。從つて次から次へと絕えず歡樂への衝動が生み出される。而して、このことが今日劇場なるものを、即ち敎會の最も危險なる競爭相手を、招來するに至つたのだ。今日人々を驅つて敎會に赴かしめるところのものは死の不安か、でなければ追憶である。劇場は人寄せのためには、そんな方便を必要としない。それどころか人々は其所へまるで實のなつた櫻の木に誘惑された雀のやうに、わんさと押寄せる。

此の言葉に接すると、私にはニーチエの言葉の中にある次のやうな一節が思出される。

吾々は活動的な時代の良心をもつてゐる。これが吾々に最上の時間である午前を藝術のために費すことを許さない。……藝術は吾々には消閑、休養の具となつて居り、吾々は藝術に吾々の時間、吾々の力の餘りをさゝげる——これが人生に對する藝術の地位を變化させた……疲れた人々を對手とする……夕方の時間を要求する……今日のオペラ、悲劇、音樂……

偉大なる藝術はむしろ大いに朝の靜けさの淸純な境地に生き、期待された、手のついてゐない元氣いつぱいの朝の魂をもつた觀客聽衆を對手とするだらう。……（井汲越次氏譯「人間的な、あまりに人間的な」より）

此の最後の一節。これこそ實に古代ギリシアの在りし日の姿である——パルテノンの正面破風の神話の群像は、朝日にその面を向けてゐる。左隅に太陽神ヘリオスが馬車を驅つて現れる。馬車は今海の上に浮び上る所だ。馬は昂然としてたてがみを振り立てゝ朝風にいなゝく。金色の甲冑を着た女神アテナが父神ゼウスの頭から生れ出でんとする歡喜の光景である。やがて本當の太陽の光がさして神殿の入口から內陣を照らす。女神の黃金・象牙の巨像が燦然としてかゞやく——「それは人々の心を煽るやうに捕へて祝祭の歡びへ、それからやがて深き崇敬の念へと誘つたにちがひない」

演劇は國家的行事として、眞つ晝間、大空の下で行はれた。上演される劇は年々の競技によつて榮冠をかち得た作品である。藝術は競技を抜きにしては考へられない——それはやがてオリムピアドの精神である。

太陽・野天・競技・國家的行事。何所に靑白い美學などあり得ようか。

ポオル・ヴアレリイ　中世的敎會の儀式と近世の浪漫的劇場。そこには一脈の連鎖がある。そして、その延長の尖端に今日のキネマが位する。現代的性格を表徵し得たものとして、果してキネマに比ぶべきものがあるであらうか。この新しい藝術は徹頭徹尾機械によつて作り出された暗と光との極端な組合せである。自ら「神を伴はざる豫言者」と稱したニーチエが、果して斯くの如き藝術の可能性を豫見してゐたであらうか。

ところで、最も聰明なる現代人と言はれるポオル・ヴアレリイが此の新しき藝術に對して拒否的態度を示してゐることは、私には興味ある問題だ。彼はキネマに不滿の意を表し特にトオキーの音聲をば「不吉な」＞Sinistre＜とさへ形容する。その彼の見解の中から、當面の問題に關係ある部分を拾つて見よう——

昔の文人や學者にとつて夜の仕事の照明は僅か一本の蠟燭で事足りたに引きかへ、現今では數

多の燭光が必要とされるに至つたほどの視覺的感度の減退が一般に見られるのあでるが、それと同じやうに現今では亦、意念集法の能力が一般に弱勢を呈してゐるのである。こゝに於いて先づ次のことが云へる。映畵の適合理解すべき何物も存せずして、その愉快は悉く受動的であると。そして、この事實との關係を考慮に入れずには映畵の勝利は卜知難いのだ。蓋し、この點が一般大衆の欲求に應じてゐるのである°(本項の資料はすべて間接引用である。即ち、雜誌「新映畵」昭和13年7月號所載、高季彦氏「ポオル・ヴアレリイの映畵論」及び飯田正氏「映畵が克服すべきもの」に據つた。因に、ヴアレリイの原文は同年4月の「シネ・モンド」に出てゐる由)

斯やうに、彼は「近代人に於ける注意能力の弱化が、その視覺的感性の減退にも見られる」ことを指摘する。對象の刻々の變化は人々に靜かなる觀照、確乎たる凝視を許さない。其所にはたゞ刺激の連續があるばかりだ。大衆は進んで之を逐ふ。然かも、斯かる大衆の素人的感受性と、既に映畵的に訓練されてしまつた所謂玄人の感覺との距溝。その距溝を意地悪く跳び交ふトリツクの連鎖。大衆は自らトリツクの欺瞞に却つて快感を覺える°「近代的藝術家は、生理上ヒステリーに最も近く、また性格的にもこの病狀にあるものとされてゐる。ヒステリー患者は平氣で嘘をつく」とは既にニーチエの言つたところである。

さて、現代の動的な感覺の下では、も早やあの退嬰的な古典主義美學の青白い顏は流行らないかも知れぬ。が人々はたしかに健康な平靜を失つてゐる。痲痺症は同時に屢々奇妙な過敏性を併發する。人々は刺激を逐ひ求める。否、刺激に逐ひ掛けられてゐる、と云ふ方が適切であらう。だから、このヒステリー的狂躁症に對して、あのギリシアの殿堂の絢爛たる色彩を見せびらかすといふことは、今更乍ら少しく警戒を要するでもあらう——世には往々にして藥が利き過ぎるといふこともあり得るからである。

全體性　ギリシアの神殿は美しく彩られてゐた。このことは、も早や疑ふことの出來ぬ事實である。然らば、ギリシア人自らは如何なる色彩觀をもつてゐたか。遺憾乍ら、私はこの問題に對して明答するを得ない。が、特に幾何學を尊重したプラトンの如きでさへ必ずしも色彩に對しては否定的でなかつた。幾何學的な形式の美を說いてギリシア的性格を宣明した「プイレボス篇」>Philebos,51.＜の一節に於ても「美しい色」は形・香・音などゝ共に「眞實」なるべきものとされてゐる。色彩を以て刺激的要素とした後世の美學に比すれば著しく肯定的である。更に音調が屢々色彩と呼ばれてゐることは（例へば Politeias, 601.）吾々にも「音色」の如き語のあることゝ思ひ合せて興味があるが、それだけに、色彩なるものは觀念として未分化の狀態にあつたかとも思はれる。「色彩」>Chroma＜なる語は元々物體の表面、わけて皮膚を意味したものであつて、其れから化粧用「顏料」が、次いで一般塗料が名指されるに至つたのである。斯かる事情は、色彩觀が未だ立體性、彫塑性と乖離分裂を生ずるに至らぬ狀態を暗示する。むしろ其所には、互に疑ふ所なき明朗にして素朴な親和力が存在したと考へられる。斯くて、建築術には色彩術 >Polychromie＜なる一分野が在つた。この嚴然たる事實こそは、吾々の深く沈潛して求めねばならぬ所の

ものである。

「古いものゝ古典的なるは、古いからといふわけではない、強く、元氣で、快活で、健全だからだ」とは、ゲーテの有名な定義である。この眞に健康なる古典主義者が古代ギリシアを理想としたことは言ふまでもない。よく「古典的平靜」と言はれるが、それは健康なるが故の平靜である。「古典的樣式は本質的にこの落つき、單純化、省略法、集中を表したものである。最高の權力感はこの古典的タイプに集中されてゐる」と言つたニーチの意味するところは深遠である——青白き虛弱型と狂躁的ヒステリー症との上に呪あれ——今や茲に健康なる人間ギリシア人が考へられねばならぬ。この眞の古典的人間にして、はじめてあの絢爛たる色彩に堪へ得るのである。否むしろ、それは所謂「彫塑性」の無力症的單調化を救ふ所の興奮劑として、爽快なる効果をもたらしたものにちがひない。

さて、生命の本質はその全體性にある。それは新しき生物學乃至心理學によつて旣に說かれてゐる所だ。感覺は生命的現象である。從つて感覺的現象としての藝術も亦生命の實現である。そこには藝術的全體性がなければならぬ。全體は要素に先行する。要素の算術的總和が全體ではない、先づ全體があつて、然る後に要素が反省される。だから曰く、比例。曰く、彫塑性。曰く、色彩。曰く、微妙な曲線。等々、如何に羅列し、抽象し、分析し、純化しても未だ全體ではない。

生命的全體性は、勿論あらゆる時代と人間とに妥當する。が其間には自ら程度の相違がある。健康と病弱とがある。さて、私は主張する、古代ギリシア人を後代の文明人から區別するものは、實にその素朴なる健康であつた、と。其所には健康なるが故に健全なる生命的全體性があつた。このことを前提せずしては、私には、何故にあの淸澄なる數理・幾何學・アナロギアの美學を根本性格としたギリシア人が、同時にあの絢爛たる陶醉的な色彩術を持てるかを理解することが出來ない。實に其所には、現代人の思ひも及ばぬ程の强壯な神經と確乎たる感受性とがあつたにちがひない。而して、その故にこそ、その同じ生命的根源から、またあのパルテノンの驚くべき微妙なる曲線の體系——グツドイヤの所謂「ギリシヤ的洗鍊」>Goodyear : Greek Refinements< も亦自ら生み出されるに至つたのである。

建築と色彩

太田喜二郎

朝顔が折角眼の覺める様な華麗な色に咲いても、日影の移るに從つて俗惡な色に變つて行くのを嘆くまでもなく、やがて萎んで醜い色を疊み込むのは賢明である。それに較べると變色した埃に汚れても萎まぬ建築は分が惡いと思ふ。

非常に美しいもの、特別人目に立つものは皆短命が可いのかもしれぬ。若しそれが長命なら悲慘である例に、大分以前であるが、四月に入つてから、私が瑞典へ旅行した時の事を擧げて見る。

私は毎日ストツクホルムの郊外へ殘雪を寫生に通つた。四月に入つては有名な瑞典のスキー狂も未練を遺さぬ程の薄い積雪であるが、幾日經つても地面が表はれないので始めは喜んで居たが、日を經るに從つて雪の表面が埃の爲めに汚れて來た。十日間も頑固に消えない雪は、見るのも情けなく思ふ程穢くなつて了つた。雪は夜中に積つて朝日で慌しく解けるに限ると思つた。

然し雪白の土藏が塵芥に汚れずに立つて居るのは清く、神々しくさへ見えるから、建物の色は汚れず褪色變色しない限り、目立つても宜しと云ひたい。私はその最も極端な例として、柱を丹に壁を白く塗つた建物——過去現在因果經にある——を持ち出して、人間が自然に向つて起ち向つた最も勇敢な色彩と考へたい。因果經にある通り茶褐色の土、綠の樹木に配して、この建物が如何に引き立つかは、我が日の丸國旗と心持ちを同じくするもので、加之に丹色の柱は古色を帶びて美しく錆び、人間と自然との美しい調和を示してゐる、塗りたての丹色よりは古色を帶びたものは一層なつかしい感がある。

この錆びた丹色の効果は光澤無き木造建築であること、軒が出て居て直接雨があたらぬ事によるので、我國の自然や氣候と調和の大半は雨の所置にある様に思ふ。

自然に楯突く色彩の內に私は黑色を數へなければならないが、黑は白と並べて嚴肅な海鼠壁になり、黑の板壁を見ると牢屋を思ひ出す。黑塗の馬車自動車は光つて居て別の奥床しさを示して居るから、黑く光つた建物はガラス張り金屬張りの家と共に格別の威光を發する。それも埃にまみれぬ間である。

紅白の水引、黑の水引でない普通の建築の色彩を、自然の中から搜して見ることを試みたい。朝顔の色の様なのは變色の恐れがある。土の色、樹皮、藁枯芦は古色を帶びると美しくなるが、今少し目立つ色を欲しい時に、私は常盤木の暗い不變の綠葉が最初に芽を出す時の色——例へば椎とか樫とかの若葉の紅から黃までの一連の色は、綠に變るまで、明るい暖い色の固りを深綠の森に浮き出させて、堅實で活氣に充ちた明るい氣持を誇つて居るのが、同じ様な森や山に接して建つ家屋の色彩として恰好であると思ふ。

我國の梅雨期には建築物は殆ど汚れて穢ならしくなる、赤瓦の屋根は黒赤くなり、モルタルの壁は墨の汁を流した筋が出來、鐵の錆が屋根の角から一面に擴がつて行く。

三四度梅雨期を通過すると何の建物も皆同一の灰鼠色になつて了ふ。一度建てたら永久に掃除なぞは大建築の外壁に施さない。

毎週土曜は石鹸水で家の內外を洗ふ國があることは聞いてない樣である。白いタイル張りの建築を毎週掃除してる家さへあるのに。

折角新築した大建築も窓は暗く色彩は灰鼠の防空單色に變つてゐる。煤煙と塵芥と濕氣によつて自然が人間の所業を塗り潰して行くとも思へる。同じ樣な構造の家でも雨の尠い國ではこんなに汚くならないのに何とか考へねばならぬ。

瓦の色や窓のペンキの色まで州によつて自然に變る——それには土質が同じでなかつたり、瓦の燒き方が違つたりする理由があつて——各住民の氣質や地勢と共に各自の特色となつて甚だ面白く感じるのに、こんなに灰鼠色一式となつては、防空にも蔭が邪魔で役に立つまいと推察される。

建築の色彩は自然の塗潰しに任して置く譯に行かぬ。始めから褪色變色した色に塗つて置くのは猶更宜しくない。これは明るく氣持の良い色に建てゝ、汚れるのを極力防ぎ掃除に努めるより外に方法は無い。

人間の作るものを悉く自然が潰すと云ふのは、人が自然に反抗敵對して、自然と和合することを考へないからである。我國洋風建築の穢ならしく汚れるのと、藁屋の古色を帶びて美しくなるのとは、同一の氣候作用とは思へない程に兩極端である。

自然を征服し、自然に征服され、自然と調和したものが最後に生れて來る。自然と調和した建築の色彩に就て私は以上の樣な事を考へてゐる。

建　築　と　色　彩

富　士　岡　重　一

はしがき

恐らく建築の色彩などの問題は、建築の本質の重要性から見れば末梢の事と思はれる。茲に殊更に採り上げて述べる程の事も無いのである。然し、どんな色の材料でも構はぬ、どんな色でペンキ色附されても建築の大局から見て無關とまでは極言は出來まいであらう彼の阪急ビルの東西色異ひの變調や、黒色の埃及式建築や、紅白段だらの石とタイル張り建築の强列調や、天滿デパートの外部のペンキの色塗がプルシヤンブルーの淡色で、當初彩られたるのや、又或る學校のスチールサツシユが丁度木材をしのばせる樣な淡黄色で塗られたるのを見ては少なくとも快的ではなく寧ろ不快であり、も少しの調和性が無いもの

であらうかと思はれる。とは云へ茲に「建築と色彩」の題目の下にあつて、如何に色彩の選び方の良し悪しが建築の美觀上に、重大性があるかと云ふ様なお約束の様な事を殊更に牽強づけて茲に云はうとして居るのではない。唯漫然と建築に關する色と云ふ點に就いて時には脫線して、勝手な事を書き連ねるばかりである。

◇

衣服でも洋服の色は各自まちまちである。見渡すところ全くお好み次第である。茶色のあり、紺あり、黑あり、その好みはまちまちである。和裝となると若い女人に至つては全くまちまち絢爛そのものである。若い女人が三人並べば百花一時に開いた様な多彩な花園となる。斯の様に衣服の色彩の好みは各自のお好みの御意のまゝではあるが、それでもそこには或る約束と少しの定規が見受けられる。黃色い顏色の日本人には茶色の洋服がよいとある。蒼白い顏色の人は紺色がよいとある。老人は總體にくすんだ鼠色となつて來る。すべてこれ等は色彩のコントラストを採らずに、顏色を主としてそれを殺さない様にするが爲めである。然し又流行が此れ等を抹殺してしまう、お好みも此れに加はる、となると服裝の色が各自お好みのまちまちであるが如く、建築の色も自己、設計者——時には施主——のお好みでまちまちであつて、此の建物には此の色彩であらねばならぬと云ふ様な規定も尺度もない。

建物の色彩が周圍の環境とコントラストの狀態に在らうと調和して在らうとお好み自在である。林間の住宅が赤屋根白壁で強く目を牽かうと、或は同色に溶け込んで隱遁の姿躰にあらうと自在である。

◇

どうも色彩の事を云ふには衣服のそれに就て考察するの便に如かない、それほど衣服の色彩は多彩であり、まちまちである。特に女人となると此の點苦心の存するところとなる一部の婦人の衣服の調和の巧妙さには感服させられるものがあると云はれ、又舊劇の衣裳の美しさ、各人物との調和、劇の雰圍氣との調和の巧妙さは永年の琢磨の結果、色彩美効果の優れたるものである。それには調和の優美さあり、對照の巧妙さがある。例を福岡貢の白浴衣に於ける血の効果や、定九郎の黑衣の皺だたみよりの出の効果やらは未だ單純な考へである位である。濱松屋の引つ込みの辨天小僧にはおらせる南郷の縞羽織の技巧などは色彩のコントラストと調和との時間的の交錯である。此の様な巧妙なる配色とか、澁い好み等となると、我國の衣裳の色彩は外國のそれよりも深みがある様に思はれる。彼はそれに比べて强烈であり且絢爛であるが、日本の澁みは內省的のものである。即ち、ハーモニー調和の美であり、西洋のものはコントラスト對照の美が勝つ、であるから我國でも服裝は老人は同色で終始した調和色を採り、活き活きとしたる若人にはコントラストの强烈な色彩が多く行はれて居る。更に奥ゆかしい好みは寒色で調和を採る澁好みで凝つた一部の年輩婦人に見るところである。

◇

色のコントラストとハーモニーとの事に及んだが、色のコントラストとは茲に申すまでもなく、スペリトラムを輪形に並べてその反對の色同志が互に反映する華やかな作用で、お互に色を強め、明快にするものである。即ち赤と綠であり、菫色と黃であり、青と橙色である。よく云はれる萬綠叢中紅一點は此の好例であり、建築としても朱塗色の日光廟が綠の杉の樹立の中に隱見するも美しいコントラスト色である。或る裝飾的色彩には深く知らない素人が或る室內の色彩の華麗さを說明して曰く、それは東京會館の一室であつたらしく、其室の壁の色が黃であり、家具も敷物とが紫色である事の美麗さを口を極めて讃へたものであつたが、此れは全く色の對照であつたと悟られるのである。コントラストは極めて明快な感じであるのは慶應のラグビーのジヤーシーが紺と黃のタイガーである事が冬枯れのフヰールドで最も色別しやすい事である。明大と同大との色彩の混亂されには觀る者の迷ふところである。それ等は紺と菫の相隣れる色であるからである。劇げしい鬪爭のラグビーが相調和してはゲームにはならない。色彩の明快さに又白と黑とのコントラストがある。交通標識が一目で多衆に分らす爲めに、白黑の段班を用ひられる。交通遮斷器や標示柱や浮標ヴイや燈臺の基部や、外國では交通整理警官の指示棒から腕章は白と黑の段だらである。周圍の多彩さに混つて識別されるの明快さを白黑のコントラストに採つたものである。白と黑とで連想される事は我國でも外國でも男子の禮裝は白と黑の配合であるのも不思議な一致でもあらうか、ハーモニーはおだやかな調和である、服裝の色彩でも同色の系統で以て終始して居るのは奥ゆかしい感がする。それだけ弱い感じがするもので、それは老人に適するものである。建築の裝飾でも異つた材料で同色のものを集めたもの、或は同材料で以て表面の仕上方を變へたものは調和の一手法で、溫和な深みのある感じを與ふるものである。

周圍の色との調和色に軍艦の塗色ネービーブルーがある。我軍裝や戰具のカーキー色がある、共に四周の色に透け込む可き爲めの保護色であつて調和とは云へないところの四周の色彩と一致をとる即僞裝である。

建築にも最近防空色が現はれ出し、そろそろ官廳の建物の色に採られて在るのは彼の鐵道本省や、大阪中央郵便局のグレー調に見られるのである。建物の屋上の僞裝が四周の瓦屋根の色に略ぼ近い色彩の中間色ニユートラルチレトを主調としたる迷裝が成功を見たるのと同律である。迷彩と云へば橄色、空色、若葉色、レモン色の混合したるものを戰器に想起されるが、建築物とすれば中間色は我國都市の四周の色彩と調和すべきものであらう

◇

さる建築家が嘗て云はれた言葉に「世が不景氣の時代となると建築の色は黃色くなつて來るものだ」と、建築物の仕上色の黃色は我國でも一時流行したところであるが、自分も歐洲大戰後獨乙に居つた時に此のクリーム色の建物が相當建てられつゝあつたのを見た。

ロンドンでも巴里でも、彼のポートランドストーンと云ふクリーム色の石材で、建てられたのを見た、ロンドンのカウンテーカウンシルは其の尤なものである。ミストの多い北國のベルリンの街では、グルーミーな四周の內に此のクリーム色の建物を望む時は恰も此の建物だけに日光が當つて居るかの如き錯覺をおぼえて一種爽快な感じがしたものである。不景氣の不快の內に芽生へる色の感覺の反動でもあらうかとも察せられるが、この不景氣と建築色の黃色とはどんな關連があるかは寧ろその方面の心理學の一課題でもあらうか、彼の街頭のポスターの地色が多く黃色であつて其れが強く目立つ効果のあるのも四周の灰色の內にあつての陽色の對照から來るものである。

◇

陽色——即暖色と寒色との効果は周知のものであつて、建築の室內の色彩の原則としても食事室、應接室等は溫和或は明快なる可き暖色が適せるものとなされ（赤色となると跳快である可き部屋にのみ用ひらる可きであり）寢室、書齋の如き部屋には寒色を採る可きものとなされてあるのは色彩心理學よりする室內色裝の原則となつて居る。然しこれは古往の律則であつて現代人の感覺に向つてはしかく嚴格に律せらる可きでないのでもあらうか、唯暖色には兎に角溫きコムホタブル感を受ける事は多くの人の一般であらう。階段室の大窓によく橙黃硝子のステンドグラスを嵌めてある場所で感ずるところである。此の黃色、綠色系の色が一般に安慰感を與へらるには恰も此等の色彩がスペリトラムの中位色であり、又變つた例ではあるが凡ての感覺に敏俊なる犬屬の視覺が此の中位色より出でない由である醫學上の考察よりし、又牛の視覺が特にインフラレツド光線の長波長光線を殊に感ずる事に依つて感覺を強く刺戟せられる等の天の攝理よりして我等人類の光線より受ける安慰さが矢張りスペリトラムの中位波長色にあるのも肯かれる點でもあらう。

◇

窓は晝光光線を室內に採り入れる爲めが其存在の主なる目的である。即白色光線であるが、室內の色彩を或る色一色にする目的の爲めに此窓硝子に色硝子を採られる事は前にも言及したところであるが、此の窓色硝子の巧妙なる例として、巴里のアンバリードのナポレオンの納骨堂に觀られる。前室ネーヴを橙色の窓硝子で照らし、後室トランセプトの部分を青色窓硝子で通して棺の上にその光りを投げかけて在るのは觀る者の場所の感銘と相映じ効果の全きものがある、此を彼のワシントン市にあるリンカーンの紀念堂の頂光窓にアラバスター板の赤斑のある大理石模樣の豪華なるヤンキー趣味と比較されて、格段の巧みさと氣品が此れに覗はれるのである。スタツトガルトの新停車場の大窓の其の高さ30米もあらうところの格子形の透明硝子嵌の所々を黃色硝子で變化付けたるは恰も外壁の石積の石塊の所々を凸出せしめたると同手法と見られる。元より窓硝子は外光を採り入れるが爲めの壁體の一部であるから堅固で透明なる事が第一義であつて、無色透明、唯だ光線を通す事のみを專心すれば能事終れりであつて、時にはウルトラバイオレツト線をも透過す

るを要求せらるるものもあるが、現代の生産に於ては日光浴室のバイタグラスのみに止めを刺し、將來は都市の外氣の清淨さと共に全窓硝子に此れを要求されるものたるは疑はないところである。斯く硝子は透明のみを主眼とするが、其の表面の稜角を持つ事に依つて透過光線に變化づけ、美觀を顯はすものである。尤も反對にプレートグラスを研磨して、其面を平滑となされたのをロビーの扉面に嵌め込み、其反轉する毎に輝やく反射光線の明快さを貴ぶ場合もある。硝子面に稜角を持たす事に依つて透過光線の變化は、其れの細少は消硝子より、型附硝子となり、最大となつては面取硝子となる。其の稜角の粒の大小の度合につれて、それの大となるにつれて輝面の度合も增大してブリリアントとなる。ベルリンの或ホテルのステンドグラスの花心にレンズを破つたものを嵌めたるは其尤なるものである。凡ての形は反射光線のみが目に映するのであるが、硝子の面の稜角のみが屈折と全反射を爲してその面を光輝あるものとなさしめる。恰も近來電燈の光源の周圍に多くの硝子の細工を凝すのも其等の光線を踊らす効果を狙つたものである。型附硝子の種々組合せの美さは無色硝子で以てしたるステンドグラスにある、其の型の變化によつて、表面が眩映から白色、鼠色との調和の面白味が生じるのである。元來ステンデグラスは歐洲教會堂建物のネーヴの其の窓に多彩な小片硝子を嵌め其を透す光線の華麗さと幽幻さとを以て崇高感を亢揚するが爲めである。彼のノートルダームの窓から日光に乘つて指し込む光線がネーヴの床面に投する幽幻さは誰しもいたく銘感するところである。それは强烈な紫紅單色の亂舞である、即ちゴチヤゴチヤである。其のあまりにゴチヤゴチヤなるが爲めに其所に統一が生れるのは其の亂舞する單色を集むれば一白色と成る程のスペクトラム樣の亂射となつて在る。色彩ばかりでなく形の上に於てもアツトランダムにあるものは即ち統一である。例へば扉一面のグリルウオークの線が自由奔放にアツトランダムに在るものは一面よりすれば、パネル型や線で現はされた形に比して統一されて見られる。

◇

色硝子ステンドグラスと比すべく夜のネオンサインがある。其は强烈な色彩を發散する建築物に寄生する異端者でもある。そして我國のネオンサインはあまりにも赤色が多すぎる、夜間煤煙混りの霧を通してネオンの赤色は最も遠くに其色を透す由ではあるが、其あまりにも合目的の爲めに赤色ネオンの氾濫は都市の夜空を赤化し過ぎて居る。それはあまりに遠距離からの望見を競はしむる廣告法取締の緩大さに由るのではなからうか、協會誌でも曩に大阪市內のネオンサインの圖案色調と其快不快を調査されたのが發表されたが、其結論として赤色ばかりのものは不快とされ、赤色に多くの他色を配したものが良しとされてあつた。巴里の夜のネオンサインは殆んど赤色の少く靑紫の柔かなる色で極めて優美なのは廣告面が建物より凸出せしむるを許さず、從て赤色等を使用するの必要のないのにも因るものであらうが。然し一面ネオン樣の光源使用のサインの使用は公衆建築物の機構が複雜性を加ふると共に晝間と夜間とを問はず交通或は指示標識に必要となり、アナウン

シエーターとして幻燈、投光等と共に多衆の雲集する建築物に益盛に利用されて來るであらう事を豫想せられる。

◇

少しく建築の本體より離れた樣であるが、建築の色彩なる題目からは吾々は第一に塗料と云ふ事を連想されるものであるが、それは建築の本質から見れば左程重要ではない。近世建築の多面性から見れば塗料或は塗裝も其一要素を成すものではあるが、塗裝は即ち塗裝であつて本質ではない、元々一つの確固たる樣式を持つ建築の表はす色は、それを組立てる材料の本質からである。茲に態々建築の發達史を縷說する迄もなく、洋の東西を問はず建築の根元はそれの風土と手近に轉がつて居るところの材料とが其の素因である。西洋の建築は緯度の高いその歐洲の地に遊牧の民族、それは獸皮を敷き羊毛を纏ひ、獸肉を喰ひ、ホルンを吹き、ドラムを叩いて音樂としてたのしみ、手頃の石を疊んで寒氣と外敵を防いだ民族より發達し、我が和樣建築は樹に棲み、木纖維の着物を纏ひ、藁を敷き、竹管を吹き、竹を編み、草を葺いた小屋に棲んだ民族の住居より發達したものである。彼は石積であり、其の構築の巧みな重種の工風からそれが益々高く聳えて來た。石が尠ない所では煉瓦を積んだ、我國では木の柱であり、壁は竹と土とである。共に自然の原色である。それが漸く造作の木材から滲出する樹脂からワニスを見出し、次でペイントとなつたのは後世の事である。或ひは胡粉の裝料となり、はては漆塗となつたのも、唐來の佛寺建築から齎らされた一部の彩色法である。共に建築の本質の重要性から見れば末梢の事と云はれる所以である。そして彼は其の材料と國民性からして强烈な彩色となり、我は內省的の素雅を愛する生地を專ら生かす好みとなつたのである。

◇

古來和風住居は書院造りより其の材料に素材を用ふるのが特色で、專ら生地を生かして仕上げるをよしとする。柱の柾、床柱の銘木の氣品、香節の粗野、天井板の杢や柾目、違棚、地板の露はに見へざる價値等は凡て生地の品質と色艶とを露はに示さずに用ふる氣品を貴ぶところである。壁土も自然の土色を以てするが色に深味が味はれる。疊も亦植物性自然の色のままである、それが新築の青疊から時を經るに從ふて自然に枯れて黃色を帶び天井板、其の他の木材と共に日本座敷は凡て黃色系の間色が主調をなして居る。偶々見る床柱の呂色塗襖の呂緣は其間に見られる異端である。障子建具に、天井の格緣に溜塗を施してあるのも同樣で丹塗の勾欄と共に稍脂粉趣味と云ふ可きか。和風建物は外部も亦凡て自然色を持つて居る、瓦の銀黑色、壁の土色、柱、羽目板の木材の凡てである。唯京都地方から中央部日本に辨柄塗で柱や造作の木材を塗つてあるは神社、佛閣の一部に丹塗があり、或は朱漆塗がある如く、耐久性を木材に與へる爲めであらうか。恰も都會地の商店、住家が防火の爲めに土壁の塗込家屋となり、垂木から連子窓に到るまで塗り込め、墨漆喰から色附の磨き漆喰となつた市街地の商店、住家の耐火建築に見る如くである。塗込家屋

の外に關東地方には外觀に銅板張りの怪態のものあり、此れも防火建築として外壁モルタル塗りの木造建築が都市に郊外にをしなべて近代に流行し、鐵骨鐵筋コンクリート建築が反り破風、木造型態を擬して居る奇態と相應じ肝膽相照してモルタル塗木造建築が鐵筋コンクリート建築の形態を惰性にか習性にか繼承して居るのを見るの現代である。

◇

塗料色彩に就いては生地を生かす好みよりして多くの彩色を施さない我國の澁い好み、纖細なる色彩は外國のそれに比して退嬰的であり、彼はそれに比べて強烈であり、絢爛である事は我國では塗料も中間色の澁いものであり、又其れを出でる事の出來ないだけ怯惰であり、彼は用法自由奔放であり大膽である。彼は塗料色彩を驅使する事の馴れの結果であり、我は不馴の爲めの遠慮勝である。一例として彼の大膽な用法を想起すれば、ハンブルグの一商事會社、それは彼地の多くの建築物と同じく燒過煉瓦造りの高層な建物である其玄關木扉がパネルに彫刻してあり、其全面はウルトラマリン紺青の塗料で塗つてあるが所々の繰形の上端は黃色である、竪框に連續した彫込があるが此れが朱色である。此れを想像して見て如何に大膽に奔放な手法かを覗ひ知る事が出來るであらう。伯林のフオルクスブユーネ劇場の室內鐵手摺子の朱色、又は外階段の紺青の手摺に手摺子の黃色等は目も綺なるものである。煉瓦造建物の建具に濃綠色と白綠を用ひたる、之の例は我國の外人元居留地に木造建物に觀るところであつて、煉瓦造に接した木造建物の外部を綠色に塗つて在るなどは我等がよくし能はないところである。

◇

凡そ自然の材料の持つ生地の色の味ひには勝てないものである。其の材料の內部から滲み出る誠の力には如何なる眞に迫る技巧の塗料でもよく顯はし得ないところである。擬大理目の斑が大理石に於けるが如く（さる食堂の人造トラバーチンが數年ならずして其光輝を失ひボール紙の如くなり、軈て其姿を失ひたる如き）人造擬石か花崗石に於けるが如く煉鐵のグリルウオークが佛蘭西に多き各片の面に鍛面を持たしたる物の、油拭きの生地の儘を現はすに如かざるが如く、如何なる塗料の技巧も眞の材料が現はす力には勝さり得ないものである。それは矢張「眞に迫るの程度」であり、而も其程度が製作當初のみ牽强し得たるところの刹那的光輝を放つに過ぎないのである。ブロンズの製作品——ブロンズの扉、ブロンズの銘板、照明器等の製作當時から酸類を施して綠青をふかしたるが如き、青銅其儘の生地の色に如かざるものである。金屬製品は凡て其工作の態をまざまざと其儘顯はせるものこそよけれ、初めから骨董品式に古びを模するが如きイミテーションも甚だしき時間的にまで欺瞞して居る次第である。鐵板製作品の上に塗料を以て寫眞的操作を以て杢目塗を施したる、塗裝法の巧妙さを感嘆せしめられるものであるが、此れが昇降機のケージ內部と電車輛內の範圍を出ですして建築造作にまで未だ進出して居らないのは擬材料の多い現狀の內に於て結構な事である。

◇

物の「さび」は良いものである、それは自然の眞の材料の生地から生れ出るものである日本的の「さび」も材料に生地を主として使ふ事から生れるのである。塗料はその反對にその第一の目的はその材料の防錆防朽の爲めであつて色彩は第二次的のものである。建築材料の使用にもその時間的に起こる錆をも考慮に入れる可きものである。伯林のシユロツスプラツツにあるドームは始めは銅板張りであつたか、綠青の然めに蒼白の色となつて居る。大阪市にも少さくはあるが二三綠青の置いたるドームを見る。日本銀行支店のドームもその一つである。又此建物のコルニスとバラストレードとが銅板葺であつて、嘸新築當時は頂天重量感が有つたであらうが五十年後の今日を慮つたる深慮の爲めにか、今日では花崗石の古びと銅板の蒼白とが相調和する色調とまでなつて居るのを見る。自分も銅板張のドームを一つ造つた事があつたが、磨き銅板が張り上り當初は赤黒く陽に反映したものであつた。——塔上の九輪が態々新造當初から綠青を生かさないまでも二年ならずして現在は其生地のまゝなるものから良いさびが出て居るのを見るものが彼の教育塔にある。建築材料の古びには一面に於て煤煙の害もある、特に工業都市に於ては此の被害が著しいものがある。シカゴの市廳舍がオーダーの大柱列で豪壯な石積みの白堊建築であらうとの豫想で其の正面に立つたところが、其が黒煙突の列立の様であつたり、堂島川畔の大阪ビルが河面の壁が他面に比べて甚だしく煤煙の害を受けて居るが如き、煤煙防止委員會も人躰に關する被害の調査或は防止に止まらず建築物の汚染の程度をも調査し、建物自身も自營的に外裝材料の滑面とする或は煤煙が雨洗の爲めに壁面に與へる汚染の狀態をも調査して其等の防止に努めるべきであらう。

◇

複言するが自然の材料の持つ力と色には勝てないものである。自然の材料の色のよさにはそれが時を經てさびが出てもそれで又其のよさがある、塗料とすれば色艶がさめれば質にも見掛けにも其價値は減する。凡ての人工材料も其に色附をしない原料色を持つものを自分は採り度い、凡ての材料に然りである。自然の材料の持つ色の良さと力強さにコンクリートの打ち放し面がある。色の良さ自然さは勿論セメントと砂の持つ自然の色が表はすものであるが、其の力強さは打ちぬいた型枠の自然の面であり、角ど角どの鋭きであつて此の型枠の工風したる組合せによつてコンクリート打ち放ちの面が益々巧に取扱はれて、力強さを現はすものであらうと思はれる。自分は土木工事の一部、高架鐵鐵の下や、建築途中のコンクリート建物の内で見るところの力強さを感じるにつけ其の儘の仕上げを以てする外貌を求めて止まないのである。唯素人が慣習性から來る嫌厭と防水の問題から何かの材料を以て之を被覆して仕舞ふが、これの思ひ切つた一例にレーモンド氏設計に係る赤星氏邸がある。而も此は立派な高級住宅であつて此れが外壁全體にコンクリート打ち放しのまゝである。型枠の目違ひも明かに見られるのであるが、そこには力強い角どや面を持

つた姿があつて些しも汚穢を感じないものである。土木工作物に此の好例として道頓堀河に架る戎橋の西方大黒橋の可動橋がある。コンクリート打ち放しに叩き面の仕上げであるが、此れの設計の優秀さも有るが、橋の仕上げとしては尤なるものとして推し度い。

自然の材料の現はす色の良さに前述のハムブルグ在の煉瓦造建物に多く見るところであるが、それは強い焼過煉瓦で以てし原料なる土の成分の爲めにか積上り全體が暗紫褐色に見へるのである。此の國としては高層建築で些の石材をも混へて居ないのであるが、其材料の色の良さは、我が市にある或る煉瓦造建物が態わざ色揃ひの爲めにか煉瓦と同色のタイルを張つてある、其の表面の色材の些もない平滑感は彼の材料の眞の力強い感に比べてはるかに劣るものがある。又伯林のシヤウシユピールハウスが其外形が寫眞で、如何に優れたものであるかの期待を以て實物を見たところ外部が辨柄色のモルタル塗であつて、其壁の所々が損傷して有るを見て、或る興醒を感じたのであつた。

◇

建物の色も眞の骨の色を表はす可きものではなからうか、建物の形も眞の構造の形を表はす可きと同じ様に。西洋建築はクラシツクであれ、ゴチツクであれ、ルネツサンスであれ、其様式が創造された初めは凡て眞よりの石造重疊建築である。石積なるが故に其の型態が生じたのである。それがやがて裏積煉瓦となり、或る所では遂には裏積煉瓦が外へ顯はれて來て、隅石や帶石や腰石がサンドキツチの様に煉瓦の間にはさまつて殘つて居る、佛蘭西風復興式も生れて來、後世に到つて石積は貼り石となり世がせち辛くなるにつれ貼り石が裁斷石となつて、はては紙の様な石積が鐵筋コンクリート面に貼り附けられる様になつて來た。もう斯うなつては石張りは眞の骨の構造でもなく眞の骨の色を表はすでもなく、唯外貼材料たるに過ぎないのである。近世鐵筋コンクリートの外壁や木造骨組の外壁を煉瓦造で模する事が漸く跡を絶つたが石積建築を模する事は相變らず盛に行はれて居るのである。近世日本式建築と稱するものが古代木造建築を鐵やコンクリートで模する事を難するは勿論である事と共に、紙の様な貼石で石積建築を模する事をも難すべきであらうその難する事の些ないのは、唯漫然とそれが骨の髓からの石積建築である。復興式建築であると觀過して居るが爲めであり、案外世人は一建築家も此點を輕視し過視して居るのではあるまいか。然し石貼り建築は石貼建築として存すべきであらう。それは恰もタイル貼り建築と同じ手法で以てして、コンクリート外壁面を雨水や又は煤煙等から防ぐ爲めには石貼りもあり、タイル貼り建築もあり、又防水モルタルも存するであらう。然し何も英吉利製の上等な毛織物で絡ふ必要は無いであらう。然も日本人の身體に。假令ひ銀行や會社の重役が英吉利製や亞米利加製の純毛織物を着んと望む時にも宜しく仕立屋は國產品を薦む可き良心が有つてほしいものである。

建　築　と　色　彩

モトノ・セイゴ

建築物の色彩を統制する主張――現在の都市建築物の色調を見ますと全く繪具箱をひつくり返へした様に思ます。其の中にはテユーブから出し立てのナマの色もあり、ゴテゴテにこね廻したきたない色もあり、之等が雜然として街路面に壓し合つて居る姿は決して美しいとは云へない。今日都市美が云々されて居る場合色彩に限り此の圈外に放り出されて居る感じがする。私は色彩に對して非常に敏感であるから、往來の色を可成見ない様にして歩きます。夫れでないと神經が妙な刺激を受けて頭が變になるのです。都市の美と云ふ事に就て私が面白い出來事にぶつかつた事を今思ひ出します。夫れは今から數年前京都の高野橋が出來上りかけて居た頃の事です。私はバスで其の前を通つたのです。其の折前に八瀬の方から出て來たらしい2人の婆サンが乘つて居ましたが、此の出來上りかけた整然としたコンクリートの橋の前に來かゝつたら此の2人がアー奇麗だと云つて讃嘆し合つて居るのが耳に殘つたのです。ソレからコウ云ふ近代的施設がこの片田舍の婆サンに快感を引き起すと云ふ事に就て考へ始めたのです。この橋の欄干には青銅製の春日燈籠の火袋の様な形が乘つて居ますがこの田舍人はソンな者の美に打たれたのではなく整然とした近代的構成から來る姿がこの人達の心を打つたのである事は申す迄もない。この事件があつて以來、私は斯る近代的感覺と私達が呼んで居る者は、私達所謂インテリゲンチヤの專有物では決して無く、八瀬の田舍人も共有する感覺である事に氣付いたのであります。斯うした稍意外な出來事があつて以來、私は逆に所謂近代人建築家の持つ近代的感覺と云ふ者を都市に實現する構築物から檢討して見たのであります。ソウすると今の所謂近代感覺を所有すると云ふ建築家の感覺はこの田舍人の感覺よりは幼而不純な混濁したものがありはしないかと云ふ事に氣付き始めたのです。少くとも私自身この田舍人に對して恥ぢねばならないのです。

話が大變脫線しましたが本筋に返つて色彩の事を考へて見ますと、色彩の上でもこの田舍人の持つ感覺に教へられる點が多々ありはしないかと思ます。今日の現狀は無制限な自由競爭が生んだ結果の惡い者の1つではないかと思ふ。夫れで有力な機關に依て建築の色彩を統制する組織が生れなければならないのかと思ふ。

統制に就ての注意――統制と云ふ事は中々難かしい事柄である。京都の風致保存の問題で面白い問題が起つた事があります。以下二、三記憶に殘る例を擧げて見ます。

1. 風致區域の壁面の色の問題――四明の西側に建つ家は常に問題になる。先年小さい一つの夏の家を建てた建築家が最後の塗色になつて紅がらを塗らうと企てたら、赤色はいけないと云ふので、ソレならどんな色なら許されるのかと質問したらば、土の様な色か木の綠の様な色なら宜しいと云ふので已むを得ず土の様な色に塗つたと云ふ事を聞きました。

之れは恐らく保護色の原理から家の存在を可成目立たぬ様にし様と云ふ目的からであらうが、赤色に塗つた鳥居や家の壁等は元來日本の片田舍に風情を添へる重要素である事を想ふとあながち赤色が必ずしも禁ぜらるべき色でもない様である。

モウ1つは花山天文臺の丸屋根に起つた問題で之れも綠色に塗る様にとか達しがあつたけれども、之れはドウ云ふ譯か白色のまゝで今日迄近代的風姿を昔ながらの東山の一角に現はして居る。こんな事實は各所に起つて居る事と思ふ。

2. **風致區域の問題**——風致區域と云ふものを數字的に地圖の上に區劃してある爲めに面白い問題が起る。京都人の夢を破つた朝日會館の出現に關する事であるが。あれが出來た當時議論沸騰して一方には近代的感覺を讃美する人、一方には京都の傳統的風致を根底から破壞するとする人等色々ありましたが、一切の毀譽褒貶を度外視して今日尙嚴然と其の姿を街頭に曝して居り、其の間幾多の文化的企に參與して吾等の進展に役立つて居る事は爭はれぬ事業である。夫れは兎に角としてコウ云ふものが突如として出現したに就ては、風致區域の區劃線の問題が重大な原因をなして居るので、加茂川の沿岸から東西何メートルの線內を風致區とすると云ふ規定があつて、あの建物は其の線外に一歩出て居るのだソウです。此の區域の制定された時其の地域外に建つ高層建築が京都風致に重大な關係を持つ事には氣が着かなかつたのであらう。

之等の出來事を思ひ合せる時風致保存とか、色彩統制とか云ふ問題を所理して行く爲めには其機關の本質に深き注意を要する事に氣附くのであります。即ち機關の構成と關係する顏觸れの選定とに餘程注意せなければ却而有害なる存在となる場合があると云ふ事を忘れてはいけない。

國防色の問題——之れは建築とは稍關係が離れますが服制を國防色として戰時體制に備へると云ふ問題が近頃論議され始めた模樣でありますが、之れは至極贊成であり、是非實現される事を希望する。私は餘程以前10數年以前から陸軍用の服地を分けていたゞいて日常服に用ひて居ますが此の色合は色々の實際國防上の點から研究された結果である丈に、日常服として用ひても服にする刺激が隱かであり、業務を遂行して行く上に非常に工合が宜しいのであります。强烈な色調は視神經を刺激して精神を疲勞せしめ、微密な業務を執る上には都合が惡いのであります。先年10年位以前になると思ひますが、男子日常服問題が醫學關係の方、被服廠の方等に依て研究討議され其の會合に列した事がありますが、其の折から已に今の國防色或は夫れに近い色合を日常用服地に制限する事が國防上至當であると云ふ意見が出て居まして、私は之れに贊意を表した事を憶ひ出します。今日の國防色服制問題は此の頃から始まつた問題が具體的に實現する時機が到來した様に思へます。

建築に就ては實際材料上の點から服制程には戰時體制と關係はない譯でありますが、日常服が國防色或は夫れに近いものになり、トラツク其他色々のものが國防色の傾向を帶びて來る場合に建築の外裝丈が不相變雜然とした繪具箱式では全體の色彩感覺統合の上に破

綻を生する譯であります。今迄でも相當雜然とした建築色彩の世界は更に强度の破綻を生する結果に立ち至ります。

變化を求むる人間性との關係――人間が單色の世界の中に生きる事は出來ないと云ふ事は心理學的實驗が證明して居ると云ふ事であります。又反對に强度の多色的色彩刺激は人間の精神に異狀を來すと云ふ事も證明されて居ると云ふ事であります。此の兩極の中間に最も適度の境地があると云ふ事は大體に考へられる點であります。建築の色彩が制限され稍單色に近い街路面が出來上つた場合を考へて見ますと、この第1の場合が發生するであらうと一應は考へられます。然し乍ら建築面の色彩が純一化した場合に始めて他の色々の物件の色彩が夫れと相對應して渾然とした。統合の中に變化のある色彩境が成り立つのであつて、斯る境地が統制ある都市美の眞實の姿であらねばならぬ。私は斯る都市外裝の出現を希望する點から建築色彩の統制を提案する譯であります。

日本建築の彩色

藤原義一

住宅等に於ける日本建築の風趣は、色彩の淡白といふことである。日本住宅にはあまり色を用ひない。材料の生地そのまゝをあらはし、たまたま色を用ひても、比較的簡單で淡白で、壁にしても襖にしても、淡黃淡靑かさもなければ澁い色のもので、濃厚華麗さはあまり見ない。時に濃色と云へばベニガラ油拭きの地味な色で、白壁に柱や梁の簡單な線が垂直水平に劃されて、素朴な日本家屋の持味が現はされてゐる。地方に依つては壁に强い赤色や靑色を用ひたのもある。例へば北陸地方の農家などによく見る。桐の花の咲く頃、廣い妻に濃い碧色の壁、黑いベニガラ塗りの柱に水平の貫を幾條も通した、大きな丈夫な北陸の農家は、出雲紙に對する烏山の紺紙を思はす、やはり澁い日本趣味の發露である。

ところが、佛寺建築、又は或る種の神社建築となると、此の感じが大分ちがつてくる。形態が異り、裝飾の意圖が異り、住宅などとはすべてが異りづくめのものであるが、何よりも先づ色彩が異る。柱、貫、枓栱、梁、棰等を丹土で塗り、甚だ華美である。窓の連子には綠靑、木の小口には黃土、板面には胡粉塗り、時には赤、靑、黃、綠等の多色の極彩色を施し、又は黑漆、朱塗を用ひ、金箔を押すなど、豪華濃厚なものも尠くない。

かゝる建築は元來大陸に源を置くもので、生え抜きの日本建築とは區別せらるべき性質のものであるが、これは假名と漢字との相異と同じで、名實共に完全な日本建築である。

もともと日本の家屋は、原始時代から木や草を用ひて生地のまゝで造られてゐた。これが日本民族の趣味でもあつた。これに異變を生じたのは、佛教渡來による佛寺建築の出現以來である。

飛鳥時代の遺構として法隆寺にある堂塔、即ち金堂、五重塔、中門、歩廊、それから法起寺、法輪寺の各三重塔に就て見れば、木部の大部分は丹土で塗り、木口黄土、窓の連子は綠青、屋根の化粧裏板は胡粉、金堂や塔の天井の格間支輪間には胡粉地に極彩色で寶相花模様が描かれてゐたことが知られる。金堂の壁畵はあまりに名高いが、壁畵の年代は建物より少し後れる。

奈良時代に入つて藥師寺、新藥師寺、當麻寺、東大寺、西大寺、興福寺、榮山寺、唐招提寺等多くの大伽藍が造營され、唐の影響を承けて彩色裝飾は益々華麗を加へた。中にも東大寺の造營は、歷史的な大事業であつただけ、その裝飾も豐富で壯麗言語に絶した。

奈良時代の彩色の根本は飛鳥時代と大差なく、丹土、黄土、綠青、胡粉を以てしたが、裝飾畵は大いに發展して、天井全體から、柱、虹梁、扉に及び壁にも佛畵のみならず、一般の裝飾模様が盛んに描かれるに至つた。色の種類も豐富になり、遺物其他當時の史料より推察すれば、白綠、金青、白青、空青（群青のこと）紅青、紫黄、藍、青黛、朱沙、蘇芳、烟子、臙脂、韮、紫土等の繪具があり、金銀箔、膠、漆、螺鈿、密陀等の材料も使用されることがあつたらしい。そして手法としては繧繝と暈が應用された。

こんな風に、佛寺建築の彩色は大いに特異の生彩を放つてゐたが、從來からあつた日本本來の建築、宮殿邸宅等は何うであつたかと云ふと、佛寺に特殊の緣故ある特別のものを除いては、容易にその風に染まず、依然在來の素色を維持して來たが、奈良の都が定められる頃から漸く朱く塗り、裝飾模様を描くことが行はれる様になり、時には瑠璃瓦さへ用ひた。

面白いのは、雄大な計劃のもとに平城京が造營されたが、市街の威容がそれに伴はぬ憾みがあるので、瓦葺の家や朱塗胡粉塗の家を奬勵したといふことがあつた。

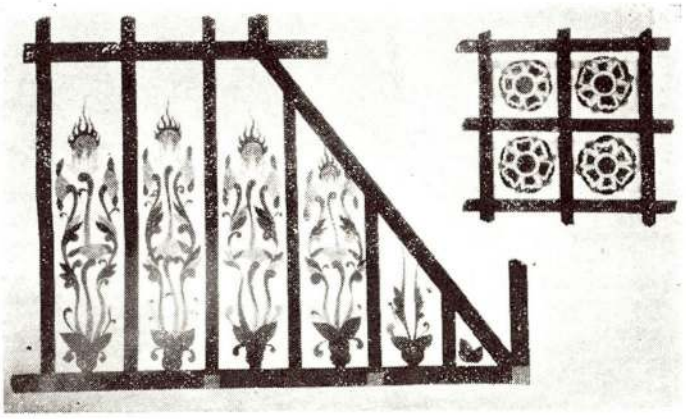
その中神社にも影響が及んで行つた。彩色のことはよく判らないが、鳥居や玉垣に丹土を塗り、本殿に丹土胡粉を塗る程度にはなつてゐたらしい。

平安朝に入ると間もなく神社に四つの新様式が出來た。春日造、流造、八幡造、日吉造（聖帝造）。これは佛寺の影響が著しくなつた結果生じた新様式であるが、形態のみならず、彩色手法も大いに試みられ、神社に丹土、黄土、胡粉等を塗ることが一般的になつたのは此の頃からと云ひ得る。併し極彩色は特殊なものを除いては未だ試みられなかつたやうである。

平安朝の佛寺の裝飾は、初期の頃はあまり振はなかつたが、初期を過ぐると段々立派なものが現はれた。第一は醍醐寺五重塔で、その初重内部一帶に奈良朝の裝飾文様を傳承した寶相花文を主とし、蓮花文や珠文を配し、繧繝に暈を併用して、優雅な中に力勁い極彩色裝飾を行ひ、尙ほ心柱覆板には如來諸菩薩の佛畵、四方壁面には眞言八祖等を描いた。

平安朝の盛期より、阿彌陀堂が流行して、建築裝飾は益々目醒ましい發展を遂げた。阿彌陀堂は彌陀の淨土を現實に出現さすために、當時の貴族が思想を傾け建築美術の粹をつ

くして創造した壯嚴の世界、美の世界であつた。そこには醍醐寺五重塔によつて一つの體形を得た寶相花唐草唐花文様が更に便化し繊麗化して自由自在に用ひられ、もろもろの菩薩、天人、迦陵頻伽、鳳凰が百花舞ひ散る中に飛び交ひ、青、赤、綠、黄等の鮮麗な色の配合によつて華やかな豊かな雰圍氣が醸し出され、それに螺鈿を應用し、七寶象嵌を施し隨所金箔を押し、金銅飾金具を打ち瓔珞を下げ、須彌壇上本尊の壯嚴と相まつて、彼等の空想した淨土の世界が遺憾なく實現されたのであつた。

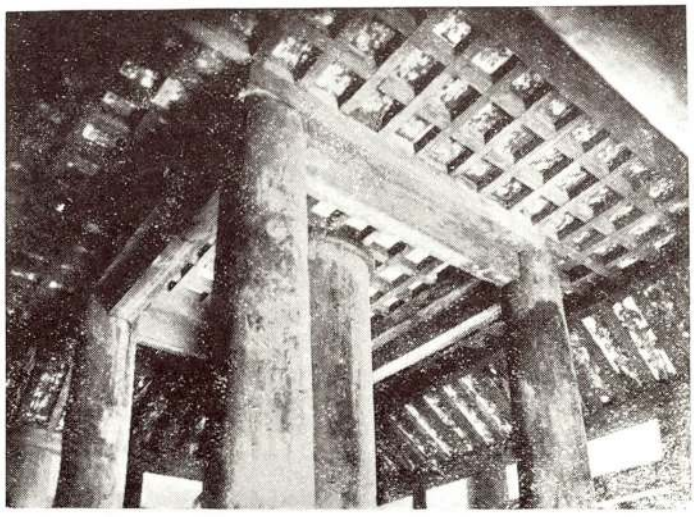


飛鳥時代天井の寶相花文法隆寺金堂天蓋の天井

宇治の平等院鳳凰堂、法界寺阿彌陀堂、大原の往生極樂院本堂、南山上の淨瑠璃寺本堂大分縣の富貴寺大堂、福島縣の白水阿彌陀堂宮城縣の高藏寺阿彌陀堂、岩手縣平泉の中尊寺金色堂には今尚ほ華やかな裝飾の名殘りがとどめられてゐる。

一方宮殿邸宅に於ては、圓柱を用ひる如き大規模なものには丹塗りが行はれたが、彩色の應用は奈良時代よりむしろ減退の傾向にあり、生地素色を尚び、蔀格子や小組格天井の組子に墨や黒漆を塗る程度で、佛寺に行はれた極彩色裝飾は用ひられなかつた。

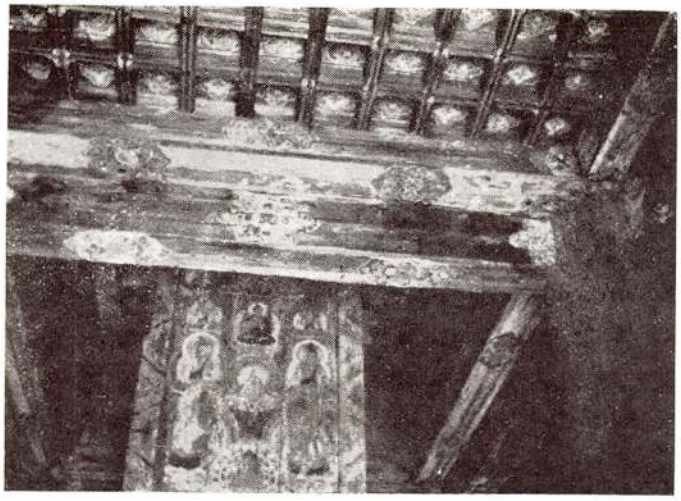
鎌倉時代より、建築裝飾として彫刻の應用が盛んとなり、佛寺建築に於てはこれに伴つて極彩色の應用が益々流行し、佛堂の内外に裝飾文様を描くものの他に、在來の丹土を塗つたものでも、彫刻の部分には大抵極彩色を施したから、極彩色を用ひる機會が非常に多くなつた。



藥師寺東塔初重内部天井の裝飾畫（奈良時代）

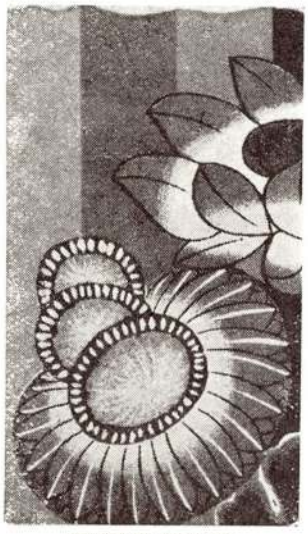
神社も佛寺と同様盛んに彫刻を用ひ、從つてその部分には極彩色が施された。

邸宅では寢殿造が廢れ、武家造から書院造へと發展して行つたが、これには彩色の行はれることは殆どなく、益々生地素色が尚ばれる傾向にあつた。



醍醐寺五重塔初重内部裝飾畵（平安時代）

鎌倉から室町時代へ彩色の使用はそのままの歩みを續けて行つたが、唯だその間に一つだけ異例とすべきは、彩色萬能の佛寺の中に禪宗建築のみは素色を原則としたことで、例外として三門上層内部にのみ極彩色を用ひたに過ぎなかつた。



醍醐寺五重塔

禪宗に歸依した武家の邸宅に、古淡簡素な味はひを見るのは何等かの因果關係があるのかも知れぬ。その後足利義滿、義政の金閣、銀閣の如きが造られ、漆を塗り、一部に極彩色を行ひ、金箔銀箔を押したが、佛堂的意味を併せた特殊な建物で、且つそれにしても決して華美な建築ではなかつた。むしろ淡白な味はひを持つものであつた。

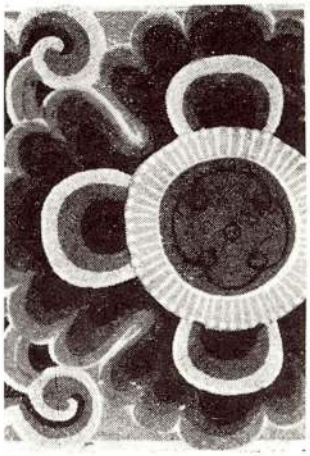
次で桃山時代となり、ここに再び華々しい色彩の世界が出現した。



平等院鳳凰堂

裝飾の華美豪奢な桃山建築の別名の如く考へられてゐる。まことに眼を奪ふ華々しいものがある。その華々しさの要素は、精巧な彫刻の充塡と濃厚な色彩のけばけばしさにある。

鎌倉時代以降、彩色裝飾は文樣としては以前の流麗潤達さを失ひ、云ひ換れば文樣は拙くなり、その代り色調が强くなつたが、そこに一脈の堅實性が保たれて



醍醐寺五重塔

るた。室町時代に入るに從ひ色調が又落付きを見せて來た。吉備津神社本殿內部の如き、廣い建物の床柱、長押等一帶に亘つて丹及朱漆塗りとし、相當大膽な彩色意匠を行つてゐるが決して華美ではなく、雅味とも云ふべき落付きがある。丹色海に映える嚴島神社も色彩の建築であるが、華美と云ふよりも靜かな落付いた美しさが身上である。然るに桃山時代に入つて捲き起された極彩色は、强烈無比で、その華々しさは壓倒的であつた文樣としては勿論外で、唯だ自由奔放な彫刻群と相まつて、刺戟的な効果を十二分に發揮した。この强烈な裝飾は、聚樂第、伏見城に於ける諸建築、神社では仙臺の大崎八幡神社や、京都の北野神社の權現造社殿、寺院では松島の瑞巖寺本堂等に行はれたが、やがてこれ等の建築が元となつて、日光東照宮及び大猷院建築が生れたのであつた。

日光建築は桃山建築桃山美術の總決算の結果である。東照宮から見れば、桃山建築桃山美術は東照宮を造る目的で發生したやうなものである。即ち東照宮建築の生命は裝飾にあり、それは又彫刻と彩色とである。その彩色には彫刻自身を彩るものと、柱、長押、天井等に描かれた文樣その他があるが群青、綠青、白綠、紅、朱、胡粉等を以て數度の盛上極彩色が行はれ、又盛んに金箔金泥を用ひ漆、螺鈿、七寶、象嵌、蒔繪等あらゆる手法が應用されてゐる。

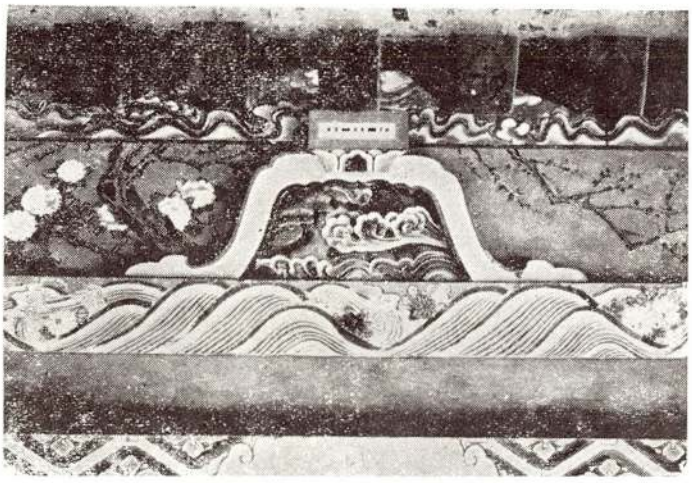
色調は强いが流石に俗惡ではなく、且つ全體の建築群に就て、用意周到な計畫に基く色彩の統一が行はれてゐる。例へば表門を入ると最初の中は朱色が勝ち、奥に行くに從つて白が多くなり、その間を金色が巧みに調和してゐる如きである。桃山時代から江戸時代にかけて色彩亂用とも云ふべき建築裝飾も、日光建築に於て或る極限に達して、とにかくも一つのまとまりを持つに至つた。奈良時代の裝飾文樣が平安時代の盛期に流麗優雅の極致に達したのと、桃山時代の强烈な刺戟を主とした彩色が、支離滅裂とならず、東照宮まで無事に辿りついたことは、比較していさゝか興味がある。



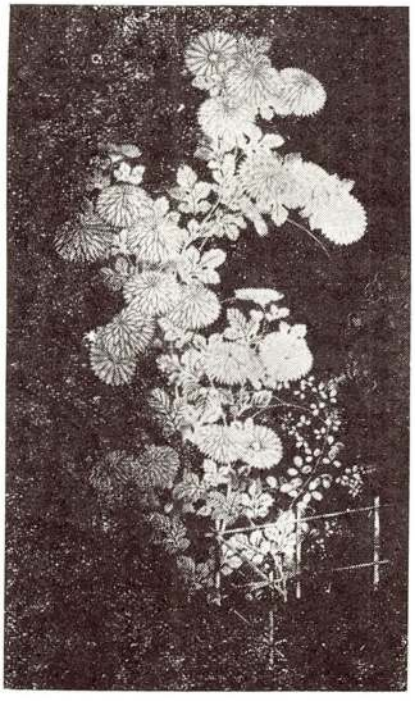
大德寺三門上層內部極彩色裝飾
三門は室町時代、繪は桃山時代で所々に室町時代の繪の痕跡もある

桃山式彩色の餘影は、

江戸時代の初期に亘つて暫く續いたが、その後は全く支離滅裂となり、行方不明となつてしまつた。佛教渡來より一千四百年、或るときは百花の馥郁と香り、或る時は妖花の亂れ咲く如き時代を謳歌した日本建築の彩色裝飾は、崑崙の山から發する河の如く下流は砂漠に消えてしまつた。神社にしても佛寺にしても、特に復古的に造られる建築以外にはあまり彩色は行はれず、これは日本人の趣味ばかりではなく、實は本格的な彩色裝飾を發達させる餘裕が無くなつたとも考へねばならぬ。



丹生都比賣神社本殿の極彩色裝飾
建物は室町時代で、彩色は江戸時代



日光東照宮本殿扉の蒔繪

併し乍ら、生地素色を樂しむ日本趣味の深さも一朝一夕に築かれたものではない。天地根元宮造以來、我が住宅建築は時には丹土を塗り、文様を描いた時代もあつたが、寢殿造を越え、武家造に至つて再び素色を回復し、書院造の最盛期彫刻裝飾に伴つて華美な繪畫裝飾時代はあつたものの、大勢は依然として素色の恬淡さを見失はなかつた。

障壁襖繪の華やかさの如きは、むしろ建築の生地の幽幻さを引き立たせるものである。

（昭和14年2月7日）



棚橋諒

☆

帝國學士院長、學術研究會議々長、日本學術振興會理事長、樞密顧問官櫻井錠二博士が逝去された。

高齢にも不拘まだ最近一月十九日の學振委員總會ではかくしやくたる姿を壇上にはこばれて挨拶をされたのが月末すでに幽冥處を異にする。まことに感慨にたへない。博士の學問上の仕事は我々專門ちがひのものにはよく判らないが、學界に對してなされた指導的な仕事と云ひ、學界を代表して社會的に活躍された事と云ひ、まことに學界の第一人者であつた。小生など親しく聞く光榮に浴する筈もないが博士の英語の演說に至つては實に絶品であつて日本廣しと雖も仲々にこれにかなふものは英語學者にも少なかつたと云ふ。その Joke に至つては聞くものゝ中、英人のみしか判らぬと云ふ樣なえらいものであつたと云ふ。些か逸事をつたへて哀悼の意を表する次第である。

☆

學術振興會が有する研究所災害研究所の建物が出來た。災害研究所は第一部が中央氣象臺大阪支臺におかれて氣象關係の研究がなされることになつて居るが、第一部の研究所の建築は完成し、第二部乃ち大阪帝大工學部内におかれた一般災害關係の研究所建物も竣工間近である。前々號にこの欄で地盤沈下の事を語つたが地盤沈下の理論的研究がこの研究所では千谷助教授の手によつて始められ、膠質化學的な研究がなされる相である。

綜合大學が只學科がそろつて居ると云ふだけで綜合的な研究が少い際にかゝる研究所の存在によつてこう云ふ建築土木の重要な問題に他の方面の學者の協力を得られることは學問の前途に新しい光を投げかけるものである。

災害と云へば過般黑部の峽谷の奥深く日本電力が工事をして居る堰堤工事に附屬した建物が雪崩にさらはれた。交通不便なところでもあり雪の中のことであつて構造物の被害の全貌は雪解けにならなければ判るまいが、自然の暴威だけははつきりと判る。こんな物凄い威力でなくても昨年の十一月の「建築と社會」にのつた雪のためにつぶれた劇場の事件を考へても雪の問題はも少ししつかり考へなければならないと思ふ。裏日本の多雪地帶に新しく工業が興りつゝあるのであるから今までの樣に表日本中心に考へられた建築法は慥らく色々な缺陷を多雪地では表すと思ふ。「雪害」は大きい研究題目であると思ふ。例へば雪崩にしても雪崩そのものはさけ得られないであらうが、雪崩が起る道筋はやはり一つの自然の法則に從ふものではあるまいか。して見れば科學的研究が行きとゞいて居れば激しい雪崩の起る可能性のある道すぢを避けて家を建てることも出來たであらうと思はれる。もつとも筆者は雪のことは知らないから、山へ行けばどこでも雪崩が起り得ると云ふのなら仕方がないが。とにかく雪害の問題は風や地震に劣らず重大である。

さう云つて居る中に、美濃の山中の鑛山でも雪崩のために飯場がさらはれて多數の人命が失はれたと云ふ報道が傳へられた。雪崩も雪解時のなだれでない今の新雪のなだれが一ばん豫想しにくゝ困つたものだと云ふ事である。山へスキーをかついで行く若人は汽車電車の中に一ばいになつて居るが、雪の害をうれへる人の少いのはどうしたものか、新聞では漸く日本雪氷協會とか云ふこの方面の研究團體の結成を報じて呉れては居るが。

早稻田建築學報の最近の號に積雪地方の農家採光法の研究がのせられた。筆者がどなたであつたか今失念したが、まぢめなそして地味なこうした研究を尊敬する。

☆

學術振興會の建築土木關係の第11常置委員會の委員長には內務省土木試驗所長藤井眞透博士に代つて早大の內藤多仲博士が選ばれた。新聞の報するところによれば博士は近く比律賓との交換教授として出發せられると云ふ事である。

建築學界は先に伊東忠太博士を獨逸に交換教授として送り、今又內藤博士を比律賓に送る。學界の世界的水準を示すものとして喜ばしい。

（12月15日記）



"池田宏さんのことども"

～今はなき同氏の追憶に代へて～

龜井幸次郎

嘗て耳にしたことのない、所謂「都市計畫」なる言葉を私が聞いたのは、大正七年の初夏（6月の初め）頃でありました。恩師笠原先生は陸軍より警視廳に招聘されるとまもなく内務省に轉任され大臣官房都市計畫課に於て、我國都市計畫に關する最初の技術的調査に關與する樣になつたのであります。此の時、使走的ドラフツマンの要求に應じて都市計畫の下働をする樣になつたのが筆者それ自身でありました。そして此の時の課長と云ふのが此處に記述せんとする〝池田宏〟さんなのでありました。當時、市區改正委員會の行詰を如何にかして打開せねばならぬ機運に達して居りました時代でありまして、我國に都市計畫の必要とその可能性を見透したのは、故後藤新平伯なのであります。而も此の見透の上に考へられましたのが所謂〝都市計畫調査會〟なのでありました。當時後藤伯*をめぐる秀才の1人として登場した池田宏さんは、永年の蘊蓄をば此の都市計畫の開發に傾注し、59歳の今日まで、ずつと都市計畫を指導し且つ發展せしめて來たのであります。ですから、若し眞に池田さんを物語らんとせば、日本都市計畫の發達史を物語る事になると私は信じて居るのであります。（此處では餘白の都合、その全部を盡し得ないばかりでなく、此の點に關しては他の團體に於て多少の目論見のある事も側聞して居りますので、此處では只單に池田宏さんの横顔でも述べ得ればと思ひ極めてあらましでありますが思ひ出のペンを取つたのであります）

何にしろ、20年前の池田宏さんでありますから今日では直接的に接して居つた人々以外には到底想像だもされない程、活動家で、今日の言葉で表現すれば所謂張り切の人と云ふ形容詞が最も適切である樣に、文字通りさう解釋し得る人でありました。今日官吏としての技術家達は、法律等を修めた事務官、書記官に對して（彼等の head におさまつて居る人々に對し、）俗に〝素人〟なる用語を用ひて～素人のやることだから上手く行く筈がないのだ、などゝ～云つて居りますが、尠くとも、私の知る限り池田宏さんの場合は、さう云つた感じがなかつたのであります。否むしろ、當時の技術者達は（山田博愛技師は勿論の事、内田**、笠原の兩先生でさへ）都市計畫の技術を池田さんから敎はる方が多かつたと云ふ程度に、都市計畫に付いては玄人の域に達して居つたのであります。而も6大都市に都市計畫地方委員會を設置せねばならぬと云ふ時期で、地方から上京して來た人々の要求やら陳情やらを1つ1つ聽取せねばならぬと云ふ多忙な時期にありながら、所謂「忙中の閑」とでも云ふのか、毎月取りよせる、都市計畫關係の雜誌（内外共に）の目錄を一應見て居るばかりでなく、主要記事にさへ目を通して居るのは勿論なのでありました。而もよくそれ等を記憶して居て、恰も敎授が學生を指導するかの態度で、御歷

---

* 私の知つて居る限り、後藤さん程今日まで秀才を多く集めた人はないと思ふのであります。技術家も法律家も或は經濟學者等もよく氏の配下に參集し、且つ之等の集團がよく政治的に社會的に多くの貢獻をなし遂げたのであります。

** 建築學會では數年以前より内務省の諮問に應じて、都市計畫調査に關する委員を任命し、調査研究を進めて居つたのである。

々の技師連中に是れ等の記事の主要項目のアブストラクトを造らせると云ふ、張り切り方であつたのでありました。從つて技師連中は勿論の事、他の事務家達も、都市計畫に關する一應の識見を持つまでに勉强せざるを得ないと云ふ狀態なのでありました。

所謂、都市計畫調査會と云ふものは、大正7年5月に官制が定められて設置されたものでありますが、その以前から池田宏さんは、市區改正委員會に關係して居りまして既に多くの都市の改良改善に關する問題に關與して居つたのであります。ですから大正7年4月市區改正委員會が解消され都市計畫調査會が設置されるまでに、早くも都市計畫に關する調査要綱案を用意して居つたのでありましたから、立案にてまどることなしに直にそれに基いて審議を進め、急速に6箇條よりなる調査要綱の決定するを得たのであります。

行政畑の習しは、何日までも池田宏さんを都市計畫課に縛りおく譯にも行かなくなり、遂て內務省の社會局長の榮えある椅子が與へられたのであります。而も此の間僅か3ケ年內外に過ぎないのでありますが、都市計畫委員會が設立されますと亂れ行く大東京の改造に早くも着眼し、後藤伯のよき相談相手として、東京驛裏日本橋側に適當なる大幹線道路選定の必要を看破したのみならず、此の道路に直接して高層ビル街を出現せしめて、都市中心部の體裁と經濟とそして保安上の問題をも一擧に解決せんと試みたのであります。之れが當時東京の新聞紙上を賑はし且つ又魚河岸の兄ちやん連中による赤襷組の陳情團まで組織せしめ、內務省へ押しよせると云ふ騷ぎまで演じた、通稱槇町線と謂はれた、超過收容を伴ふ建築敷地造成計畫を目的とした區劃整理による道路計畫なのであります。今日に到るもかゝる都市計畫的、都市設計が出來ないのに、20年前のその當時に於てよくまあかゝる大膽な計畫を目的として調査が進められたなアと思ふ程、當時の內務省と云ふよりむしろ都市計畫課は積極的であり且つ又熱を持つて居つたのであります。（今日これと稍々似て居て而も實行に着手した眞に都市計畫らしき事業と云ふのが、大阪驛前に見る土地區劃整理による建築敷地造成計畫であらう。）

池田宏さんは此の問題に關しては、全く本氣でありまして、行政官特有の只單なる人氣取りと云ふのでなしに、全く東京市の再構築と云ふ深い理想に燃えて、之れが實現に向つて樣々な畫策を施したのであります。從つて當時囑託で居りました內田先生などは、此の問題に關する限り非常なる興味を以つて或る場合大學の建築科を動員したりして外國に於ける超過收容に關する文獻や實例などの調査を行つたり、或は又笠原先生などは、故野田俊彥さんを隊長格にして當時大學を出たばかりの中澤さん（只今の大阪府建築課長）などを直接指導しまして、建築物收容に關する既存家屋の査定を行はしめ、毎日、艷めかしき花柳街のある槇町へ現場調査に出張せしめたのであります。

之等の計畫は遂に大正の震火災までに着手されなかつたのでありました。が然し、震災後復興計畫を樹立するのに、此の計畫に關する調査研究が如何に役立つたかは全く想像以上のものがありまして、頗る有效に利用し得たのであります。何故なれば當時各方面より雲集して來た技術家（主として土木技術家）は全く都市計畫に關する知識を持ち合せて居らなかつたのでありまして、いづれもエンヂニアリングとプランニングとを「ゴツチヤ」にして居る連中ばかりであつたのであります。そこで先づ之等の技術者をば敎育してかゝる必要が起つたのでありましたが、それには、前記槇町線に關する調査研究が直接役立つたと云ふ結果を招致したのであります。（此の槇町線の問題は池田さん時代は未解決のまゝで次の課長前田多門さんにリレーされたのであります。）

池田宏さんの都市計畫課長時代に於ける、もう1つ特筆さるべき事蹟と云ふのは、宮城前廣場を

中心とした官廳街計畫案を擧げる事が出來ます。之は謂はゞ市區改正時代より引續き懸案となつて居りましたもので、都市計畫委員會では、大藏省の新議院建築中心としたアプローチとその廣場計畫案の對案を作らねばならなかつたのであります此の爲め、第1案は笠原さん自ら、コムパスと定規とを取られ、池田案なるものを作成したのであります。而も、此の問題をめぐつて、現建築協會長片岡安氏などは大東京改造論なる論文を發表して、宮城前廣場の計畫と東京驛移轉案との相關々係を論じ、片岡案なるものまで發表した當時の都市計畫論壇に目覺しき活躍振を示したのであります。其の後宮城前の中心部の計畫案樹立に就ては內田先生等も出馬して、故吉田薰さんを特勵して別案を作成したり、柳澤さんなどは、得意のドラフチングに樣々なる計畫案を作成したのでありますが、之等はいづれも現代では、神話に等しい過去の物語りとなつたのであります。而も今はそれらの夢とは緣もゆかりもない官廳街が櫻田門外に出現したのであります。が然し、今日池田宏さんを中心とした當時の都市計畫運動を考へますとき其處には全く感慨の深いものが多々あります。

池田宏さんは、都市計畫に關して如斯直接的深い興味を持つて、指導したばかりでなく、輿論の支持と關係者への啓蒙と云ふ事柄にも深く關心を持たれ、阿南氏を起用して都市研究會を創立し、都市公論なる機關誌を發行せしめたのでありますそして彼自ら常任理事に納まつて、逝去されますその日まで、都市研究會の理事であつたのであります。

その間、帝都復興事業は勿論、市政調査會を中心に都市問題會議の運營を、又時勢の變遷に伴ふ都市計畫の新しい課題等に對し常に新しい考へと識見とを持ち、口にペンにはたまた直接同志の指導の上に活動を續けて來たのであります。そして上海の港灣の復興計畫を最後として此の世を去つたと云へると思ふのであります。思へば、池田宏さん位「都市計畫と打死」したと云ふ言葉がピンとあてはまる人は、日本都市計畫に關する限り他にないと信ずるのであります。何程大阪に大屋靈城と云ふ都市計畫畑の技術家が居りました。然し乍ら、池田宏さんの場合を考へますと、彼れの場合は所謂打死と云ふ程痛切でない樣な氣が致しますおしむらくは上海の港灣の復興計畫が事業化されるまで生かしておきたかつたと思ふ者は、必ずしも筆者ばかりでない樣な氣が致します。まことに痛惜に耐えないのであります。（75頁參照）

時局偶感

加藤善吉

時局は愈々長期建設期に入つた。然し未だ我が忠勇無比な皇軍は蔣政權の徹底的壞滅のために益々猛進擊を敢行しつゝ2月10日正午には海南島を占領して世界の耳目を衝動せしめた。

かやうに我が國は今や東亞永遠の平和確立のために長期戰と長期建設の二大重要任務を擔當して立つて居り、而かも其の解決の時期も豫期し得ない實狀にある。

であるから我が國は今後如何に物資の需要が增大するか分らないのである。政府は益々資源の開發と物資の統制强化に拍車をかけつゝあることは國策上當然な措置と云はねばならぬ、民間に於ても一意國策に順應して物資の經濟的利用節約に專念して居ることは今更謂ふを要せない。各新聞社は種々な企を實行して來たが更に商工省及府縣の後援のもとに廢品回收の運動を開始した。從來市町村で行はれた屑物回收實上額も中々馬鹿に出來ない多額に上る、之れは確かに一大資源に相違ない、殊に鐵屑に至つては實に重要な建築界に於ける資源である、鐵鋼不足のために國策上の矛盾をさへ生じて居る。

事變前までは我が國の鐵鋼界は生產過剩を氣づかはれて居つた位であり、又我が國の製鐵設備は屑鐵を主としたものが多いので、今次時局のため

に其の需要が激増しても設備の關係上間に合はない。勿論銑鐵屑鐵の輸入關係は大きな理由であるが、設備の改善と銑鐵一貫作業の增產計畫をなして、需要に應すべき對策を採りつゝあることは人の知る所であるが、未だ中々需給の圓滑は望めない。

◈

我が建築界も鐵鋼其の他の統制のために、時局產業に伴ふ建築以外は全く中絕して終つたのであるが、吾々建築方面及都市計畫方面に携はるものとしての觀點からすれば、都市が耐火構造たる鐵骨鐵筋コンクリート建築の中絕は他の職務に從事するものより一層痛切に遺憾に思ふのである。

防空上都市の建築物は絕體的に耐火構造たるの必要なことは、軍民共に之れを認め盛に强調せられて居るのであるが、之れが實現と云ふ段になると稍輕視せられる感があるので重要建築物にもまだまだ手が廻らないのであらう。現下行はれて居る鐵鋼統制の範圍内で軍需用は別であるが重要建築物の耐火化と他の鐵鋼使用物と天秤にかけて輕いものはないか、統制配給の方法に缺陷はないかを檢討するの必要はないか。

然し實際これまでは鐵材の亂費とも云ひたい位つまらぬ處に使用せられた感がないでもない。1にも鐵2にも鐵と鐵の使用量の多少が文明國のバロメーターであるとして盛に使用せられた、或は事實そうであるかも知れないが亂費は國家經濟上からも是非共避けねばならぬところのものであるこの點からすれば今次時局を契機としてその試練を經て鐵の利用の更正することは喜ばしい事象であると得るであらう。

◈

かく鐵鋼の統制のために建築物は中絕の現狀ではあるが軍需的產業の擴充、戰時工業の興隆とともに工場建築の最も盛な狀勢を齎らして居り、而かもそれが大部分は木造である點に於て劃期的木造工場建築の出現を見るに至つた。その構造に於て、工費に於て、規模に於て平時產業に見られないものがあるやうである、此の際建築家は宜しくこの際工場木造建築の研究を爲すべきであらう。

其の他の木造建築に於ても鐵鋼制限に依る耐火化の重要性から盛に木材耐火劑の發明があり、先頃東京の某氏が安價にして豐富な耐火劑を完成したことが報ぜられてあつた。

木造建築殊に木造工場の盛んな現狀に於て工場自體の自衞上は勿論都市防護上からも、都市の建築物の耐火の重要性を深く認識し、木材を緩燃性にすることを忘れてはならぬ。

◈

我が市街地建築物法令も都市防護の重要施設として防火地區の制度があり且つ既に之れが指定實施せられて居り、而かも時局に際して最も重要な制度であつて此際大に之れが實現を企圖せねばならぬ時ではあるが、耐火建築物を奬勵すべくも鐵鋼制限のために目的達成の出來ないのは實に情ない話である、一方に於て都市建築の耐火化の必要を絕叫しながらも一方に於ては之れを制限せねばならぬと云ふ矛盾を生じて居る、之れも非常時局のためではあるが、鐵鋼の不足から來て居るのであるから1日も早く國家のために鐵鋼の多量な生產と事變の解決により使用制限の解除を待つものである。

かゝる狀態であるから市街地建築物法で時局に對應してなすべき事柄が甚だしく縮少せられて居るのであつて、せめて幾分でも順應して行かうとしたのが先般改正して同法令中に防空なる文字を入れ、又2月1日から實施せられた改正施行令及規則である。即ち防空防火の上から先づ第1に道路基準の幅員を從來の9尺から4米に擴大した事である。又工業地域及未指定地の空地制限の强化と空地地區制度の公布と、更に建築物の高さ及空地の制限規定を中小都市にも適用することに範圍を擴大したことである。

近く防空建築規則の公布も迫つて居る樣である

が何れにしても都市建築物の不燃化を當分望めないことは吾々の甚だ殘念に思ふ所である。

◆

今回の市街地建築物法令の改正で時局産業の能率增進と體位向上の一端として多數通勤者及其の家族の健康を保護するために設けられた工業專用地區と住居專用地區の制度であるが、之れは最も時宜に適したものと謂ひ得る、かくして吾々が10數年來望んで來た我國の地域制度も漸次歐米の綜合的地域制に漸進的ではあるが近接しつゝあることは喜ばしい現象である。結局我が國の用途地域も7種に分類せられた譯である。即ち、1.住居專用地區、2.住居地域、3.商業地域、4.未指定地（輕工業地域）5.工業地域、6.工業專用地區、7.工業地域內特別地區（衞生上、保安上特に著しく危險有害なるものゝ集團地區）となつた。只建築物の高さと空地制限は用途地域に從屬して居るが、之れも別に高度地區空地地區の制度が出來たのであるから、運用の如何に依つては稍歐米の地域制度と同樣な取扱をなし得るに至つたが未だ姑息的たるの譏は免れない。

◆

かく時局に處する對策として種々の法令が出たが、統制經濟に關しても又市街地建築物法の行政でも之れが運用に於て當局は十分時局を認識し、民衆も亦國家觀念に立脚してよく其の事項の重要性を比較研究して事に當ることの肝要なことは今更謂ふを要せないところであるが、この千古未曾有の時局であると云ふ觀念を一層念頭に於て處理すべきである。監督者と被監督者とはそこに幾分考への異なる所もあるのは已を得ないのであるが兩者共に國を愛する根本精神には何等變る所はないのである。

◆

最後に一言したいことは以上述べた物資の統制に、更に人的の統制であるが、其の必要は一層痛感せられて政府も對策を講じつゝあるが、先づ第1に技術者の大陸輸送の大計畫を樹立して大にその進出を奬勵し、再び來らざるこの絕好の機會に吾々國民就中青春の氣橫溢躍動する青年は自ら進んで大陸に進出して新東亞の秩序建設のために八紘一宇の大精神に則つて堅忍持久この未曾有の難局を打開して、東亞永遠の和平確立に邁進せんことを切望して已まぬものである。（2月13日稿）

私の放言

岩尾保衛

先達て本誌の編輯幹事會があり、其の席につらなつて本年度の編輯方針として「座談會」「物を訊く會」の記事及氣樂な開放的な隨筆欄として此の「紫煙」の數頁を設けて、本誌に新鮮さを加味すと編輯常務の說明あつて提議が出一致贊成可決された。

これは小生かねての持論であつて、去る1月27日委員會の歸り增井氏とも話した事であつた。本誌は題號そのものが「建築と社界」であつて「建築の社界」でも「建築社界」でもない。建築技術關係ばかりに記事を限るは本來の面目ではないだらう。建築に關する活社會の世相も、同じだけの權利で記事たる資格がありたい。

所謂建築界の玄人の執筆に終始し、他の進入を許さないで門戶を閉す必要もなからう。今後は素人も歡迎したし。凡そ生けとし生けるもの住居をもたぬはなし、玄人以外でも建築に關聯する限り誌面を開放したいものだ。

斯く考へ來れば、所謂施主の經驗談もよし、又例へば文藝家、畫家等の特種の感覺による住宅、書齋、畫室の設計を得て專門家が評するも面白かる可し。

又家庭の主婦の住宅に對する注文には、男女中等學生の理想乃至空想、店員、社員の要求する商店、寄宿舍、アパート等の設備の理想等々。

又方面を變へて現實社界に在つた所謂「實話」

施主、設計者、施工者間のクレイムトラブルの記錄、其の解決の實際例、等々に及べば以て他山の石たらん譯。

數年來本誌讀者の倍加運動が目論まれつゝある折柄、上述の如く進んで本誌の紙面を社會各層に開放し、會員、賛助員、玄人、素人をとわず本誌購讀會員の倍加せんことをのぞむものである。

雜誌廣告の勸誘について、專任の人がなくなつて事務員が兼任で募集するとの事であつた。經費節減の爲めと解するが、廣告激減する折柄專任の人がなくては益々廣告が減するのではないか「新年早々會長の話しの樣に、生命保險の樣な自己の財產になる事でも勸誘員が何度も足をはこんで賴み奉つてやつと勸誘せられて行く」雜誌の廣告など、より以上努力を要すると思ふ。それを兼任で事務の間々に勸誘して行くやうではどうかと思ふ

何んとか財源を考へて貰らつて、專任の廣告取りを置いて積極的に勸誘募集し、雜誌の資源を得て內容豐富なる本年度の雜誌をつくらない——と編輯同人に參加せる小生は、紫煙の內に思ひふけつて居る次第であります。

「二宮翁夜話」摘記

平野彌助

二宮尊德の訓へる「二宮翁夜話」中には土木を譬とされたものが多數に有りますので其の1部を摘記し報德精神の一端を御紹介致します。詳しくは夜話等を御披見願ひます。

1.夫れ世界橫の平は水面を至れりとす。竪の直は垂針を至れりとす。凡そ此の如き萬古動かぬ物あればこそ、地球の測量も出來るなれ。是を外にして測量の術あらむや。云々　（1ノ1）

1.築きたる堤は時々刻々に崩れ、掘りたる堀は日々夜々に埋まり、葺きたる屋根は、日々夜々に腐る。是れ即ち天理の常なり。云々　（1ノ2）

1.翁曰く、夫れ人道は譬へば、水車の如し。其の形半分は水流に順ひ、半分は水流に逆ふて輪廻す。丸に水中に入れば廻らずして流るべし。又水を離るれば廻る事あるべからず。　（1ノ6）

1.堤は築立て、堀はさらひ、橋は掛替るを以て道とす。此の如く、天理と人道とは、格別の物なるが故に、天理は萬古變ぜず、人道は1日怠れば忽ちに廢す。　（1ノ6）

1.翁常に曰く、人界に居て家根のもるを座視し道路の破損を傍觀し、橋の朽ちたるをも憂へざる者は則ち人道の罪人なり。　（1ノ7）

1.山を作るも1と簣の土よりなる事を明かに辨へて、勵精小さなる事を勤めば大なる事必ずなるべし。　（1ノ14）

1.新に1家を持つ時は百事差支へあり、皆損料にて用辨すべし、世に損料ほど辨理なる物はなし且安き物はなし、決して損料を高き物、損なる物とおもふ事なかれ。　（1ノ20）

1.工事に曲直を望むも餘り目に近過ぎる時は見えぬ物也、さりとて遠過ぎても又眼力及ばぬ物なり、云々　（1ノ26）

1.何事にも普通といふ事あり、しらずんばあるべからず、則ち權道なり、夫れ難きを先にするは聖人の教へなれども、是は先づ仕事を先にして、而して後に賃金を取れと云ふが如き教へなり、云々、又山林を開拓するに、大なる木の根は、其の儘差し置きて廻りを切り開くべし、而して3,4年を經れば、木の根自ら朽ちて力を入れずして取らるゝなり、是を開拓の時一時に掘取らんとする時は勞して功少し。百事その如し。云々　（1ノ28）

1.土地の開拓は沃土を擧ぐるにあり。沃土は必ず卑く窪き處にありて掘り出さゞれば顯はれぬ物なり、爰に心付かずして開拓場をならす時は、沃土皆土中に埋まりて永世顯はれず、村里の損、是より大なるはなし。又土地の改良を欲せば、沃土を掘り出して田畑に入るべし。　（2ノ5）

1.夫れ遠きを謀る者は百年の爲に松杉の苗を植う、まして春植えて、秋實のる物に於てをや故に

富有なり。云々　（2ノ9）

1.貧乏を免れんと欲せば、先づ庭の草を取り、家屋を掃除せよ。　（2ノ10）

1.夫れ堤を築き堰を張り、水門を立てゝ引きたる川は、人作の川にして自然の常の川にあらぬ故に、大雨の時は皆破るゝ川なると、天然自然の理を云へるなり。理は理なりといへ共、人道とは大いに異なり。人道は此の川は堤を築き、堰を張りて引きたる川なれば、年々歳々普請手入れをして大洪水ありとも、破損のなき様にと力を盡し、若し流失したる時は、速かに再興して元の如く、早く修理せよと云ふを人道とす。　（2ノ15）

1.人倫は家を造るなり、故に丸木を削りて角とし、曲れるを揉めて直とし、長を伐りて短とし、短を繼ぎて長くし、穴を穿ち溝を掘り、然して家作を爲す、云々　（2ノ32）

1.工人は己を恭しくして正しく工事をするのみ此の如くなれば必ず過なし。　（2ノ38）

1.翁曰く、凡そ物、根元たる者は、必ず卑き物なり、卑しとて、根元を輕視するは過なり。夫れ家屋の如き、土臺ありて後に、床も書院もある如し、土臺は家の元なり。云々　（4ノ8）

1.翁曰く、凡そ事を成さんと欲せば始めに其の終りを詳かにすべし。譬へば木を伐るが如き未だ伐らぬ前に、木の倒るゝ處を詳かに定めざれば、倒れんとする時に臨んで如何共仕方無し、故に、予印幡沼を見分する時も、仕上げ見分をも、一度にせんと云ひて、如何なる異變にても、失敗なき方法を工夫せり。　（4ノ32）

1.百事自然に任すれば皆廢る、是を廢れぬ様に勤むるを人道とす、人の用ふる衣服の類、家屋に用ふる4角なる柱、薄き板の類、其の他白米搗麥味噌醤油の類、自然に田畑山林に生育せんや。云々　（4ノ44）

1.翁曰く、人世の災害凶歳より甚敷きはなし、而して昔より、60年間に必ず1度ありと云ひ傳ふ左もあるべし、只飢饉のみにあらず、大洪水も大風も、大地震も、其の餘非常の災害も必ず60年間には1度位は必すあるべし、たとひ無き迄も必す有る物と極めて有志者申合せ金穀を貯蓄すべし。云々　（5ノ7）

1.翁山林に入つて伐木を檢す、挽割りたる材木の眞の曲りたるを指して諭して曰く、此の木の眞は則ち所謂天性なり、天性此の如く曲れりといへども、曲りたる内の方へは肉多く付き、外へは肉少く付きて、長育するに隨ひて、大凡そ直木となれり、是れ空氣に押さるゝが故なり、人間世法に押されて、生れ付きを顯はさぬに同じ。故に材木を取るには、木の眞を出さぬ様に墨を掛くるなり眞を出す時は、必す反り曲る物なり、故に上手の木挽の材木を取るが如く、能く人の性を顯さぬ様にせば、世の中の人皆用立つべし。眞を顯はさぬ様にするとは、佞人も佞を顯はさす、奸人も奸を顯はさぬ様に、眞を包みて、其の眞なるをば柱とし、曲れるをば梁とし、太きは土臺とし、細きは桁とし、美なるをば造作の粋に用ひて殘す事なし人を用ふる、又此の如くせば棟梁の器と云ふべし云々　（5ノ41）

公式的

堀口甚吉

「建築世界」2月號の三井克氏の關西趣味雜感を讀了して胸のすく感じだ。こんなに、づけづけとはつきり、建築批評界の缺點を指示した文に接したことがなかつた。あたかも私が言はんと欲したことが、いとも見事にすつばりと書かれてゐる。

建築界の批評は從來から公式的である。關西人の建築趣味が「低調であくどい」で、低調であくどいの代名詞が「關西式」と通用してゐるが建築界である。建築批評家の公式的な頭の程度はヨシヤノブコ作るところの家庭小說級より一寸も進んでゐない。

所謂東京インテリ・プロフサーマガイの批評家

の頭は夏目さんの小説級、——公式的理想派から一歩も出て居ない。

由來日本の建築批評家の頭は自然主義そのものをさへ通過してゐないので、現實に直面して事實を直視するといふ事ができてゐない。その言辭は皆公式的で、小理想派的で、惡い意味の事大主義である。

エマーソンの自然論にも、先人の眼を通さずに自己のまなこで、自然に對し、フエース・ツー・フエースに見よとあるが、建築批評家は、まだこの現實直視の煉獄を經てゐないのだ。

自然主義、そのものこそ藝術の極致である。明治、大正、昭和3代の文藝が、德川時代の藝術に1歩を進めたといはれるとすれば、それは自然主義のおかげである。

1昨年も

藤村、花袋、泡鳴、秋聲

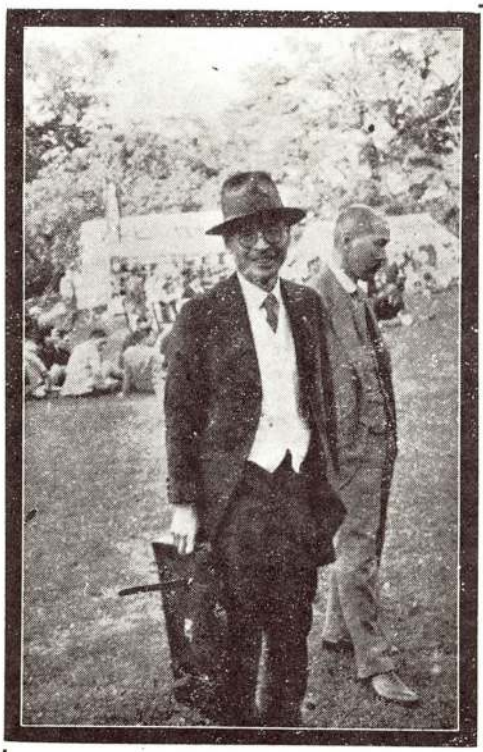
の自然主義作家のものを讀みくらべてみたが、私はこれに對して

秋聲、泡鳴、花袋、藤村

の順位を附した。秋聲こそは、自然主義として、完成品であり、明治、大正、昭和の日本代表作家として彼だけの作者はない。

泡鳴に對しては少年時代より、大なる價値をみとめてゐたが、大正末期、昭和初期には彼は時代錯誤の代表者といはれたものであるが、舟橋氏等の禮讃者さへ出て今はその眞價を認められることになつた。

自然主義など舊いといふが、舊い自然主義さへ眞に通過せぬ公式主義の、內包のない概念的言辭の一かどの見識ぶつて汚される建築批評界には、——自然主義そのものが、1つの淸涼劑である。



北海道に開催されたる都市計畫協議會に於ける故池田宏さん。（昭和12年7月）

昭和14年1月7日都市計畫界の權威池田宏さんの訃が報ぜられました。

大正8年4月に都市計畫法と市街地建築物法が發布されましてから會長片岡安氏は之が徹底普及化を意圖して創立したのが關西建築協會でありました。その頃日本に於て都市計畫の發展に特別な關心と努力を傾注し前記の二大法律を發布に到らしめたのは當時の內務大臣後藤伯のよき補佐役であつた故池田宏さんであるのは都市計畫に關係を持つ何人もの理解して居るところでありませう。

此の意味で本協會と關係淺からざるものがあるのです。今日我國都市計畫界多端な折りから池田宏さんの逝去は誠に痛惜にたへないものがあります。

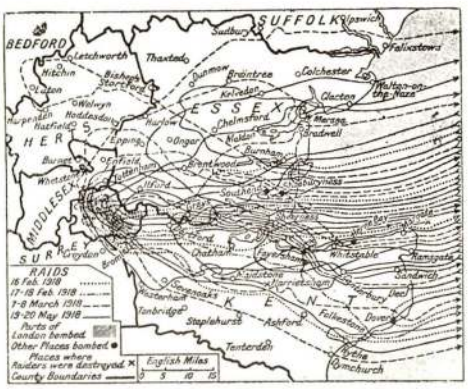
池田宏さんのありし日の寫眞（昭和12年北海道に於ける都市計畫協議會の折に撮影したもの）と吊文を捧げ故人のおもかげをしのび此處に哀悼の意を表す。

文　献

都市空襲の實例*

～〝Gothas と Giants が撃退さる〟～

最後の Zeppelin 空襲の失敗を詳述せる Mr.Fyte は此處では最後の飛行機の空襲を記述してゐる。之等の空襲は1918年の初期に Gotha 及 Giant 型の飛行機によりてなされた。1918年5月19日の空襲に於て、獨空軍が多大の損害を蒙つたので、それ以後獨軍飛行機の活躍は思はしくなかつた。



第　1　圖

〝大戰最後の飛行機による空襲〟

此の地圖は1918年2月、3月及5月に London 及 Ersex. Hertfor dshine. Kent 等の上空を獨機が空襲した進路を示す爲描かれたものである。

1918年2月17日空襲警報が鳴響いて市民に空襲を傳へた。King's Cnoss 及 St. Pancras 停車場附近の街に居た人達は高架鐵道のアーチの下に避難したが、彼等は直ぐに家に歸れる樣になる事を望みながら空襲の事について殊更に戯談まじりに談笑してゐた。突然近くで爆彈が破裂したので默つて了つた。爆彈は續けさまに5發アーチの附近に投下された。

騒が止んだ時、其處は死者と瀕死の重傷者で一杯だつた。即ち12名の死者と22名の重傷者が出來た。彼等の「安全な天國」はその夜 London に於ける最も危險な場所となつてしまつたのだつた。St. Pancras 停車場附近の Midlaud Grand ホテルも一彈見舞はれ、その結果 ½ ton もある石壁の塊が最上階の屋根と床を打抜いて寢室に飛込んだ。

此の際も他の空襲の際と同樣に行衞不明となつた者、逃げ遲れて死んだ者の數は夥しい數に及んだ。爆彈が St. Pancras に投下された時丁度タクシーが走つて來た。そして運轉手は身を以て難を逃れたが、車は大破し乘客及外1名は慘死した。犧牲者の中にはホテルの食堂の女給仕も2人混つてゐた。その2人はホテルの係員の命を聞かず好奇心にかられて不注意にも空襲を見んとして外に出て粉々に吹飛ばされて了つたのだつた。

St. Pamcras の犧牲者の外にも小さな被害があつた。即ち1名の死者と10名の負傷者を出し損害金額としては、たゞ40,000ポンドに過ぎなかつた此の傷ましき挿話も1月に Odhams' 印刷工場に避難した人々の間に起つた恐しき慘殺に比すれば取るに足らぬものだつた。夕方前に空襲があり、5臺の Giants は 4ton 近くの爆彈を積載して、England の東南に沿つてやつて來た。2機は Lond



第　2　圖

〝破壞された家〟……（1）

此處にある家は Chelesea 病院の庭に建つてゐたもので、一彈の爲に其處に住んでゐた退役將校及彼の妻、姪、3人の子供等が殺された。此の悲劇は1918年2月16日の空襲の際起つた。

* Hamilton Fyje; Air Raiders of the Citils, Gothas and Giants Beaten Back: War in ite Air, Part 17. P.517～521.

on を襲ひ、その一機は London 近郊にある「赤い服」で親まれてゐる老兵の家、即ち Chelesea 病院の庭にある家屋を襲つたのだつた。此處に落下した爆彈は今迄の中で一番大きなものであつて、約 1 ton の重さがあり、その被害は非常に廣大な面積に亘つた。



第 3 圖

〝破壞された家〟……（2）

1918年 2 月17～18日の夜敵機が London 空襲の際 King Cross 地方に多大の損害を與へた。是は st Pancras Rood N. に爆彈が落下した建物である

病院の東側にあつた使用人の住居に當てられた家屋の一つに爆彈が落下し、そこに住んでゐる勞働局に勤めてゐた癈兵の將校及その妻、及 5 人の子供の中で子供 2 名が生殘つたのみだつた。附近の家も部分的に破壞されたが其處にゐた將校達及その家族等は空襲警報とともに避難所に逃げて居つた爲難をのがれたのだつた。幸な事に Sir Christopter Wren によりて設計された美しき古い建物は少しの被害を受けたのみで助つた。他の Giants は Wool wish を爆撃し 2.3 の建物に損害を與へ 7 名の死者と 2 名の負傷者を出した。

是等 2 つの空襲が 2 晩續いて行はれた。月も空襲に好條件だつたので 3 度目の空襲を人々が豫期してゐた。此の豫期は的中したのか 2 月18日再び警報が發せられた。50臺の飛行機が防禦する爲飛び出した。4.000 の砲彈が空に炸裂し總ての避難所は何處も彼處も滿員の有樣だつた。然し總ての警戒は無意味に終つた。と言ふのは情報が誤つて入つた爲で實は獨機が來なかつたのだ。こんな事柄は決してその時丈けでなく、是迄にも敵航空隊が飛出したと言ふ報告を受けとつて敵機が來なかつた事が幾度もあつたのだつた。

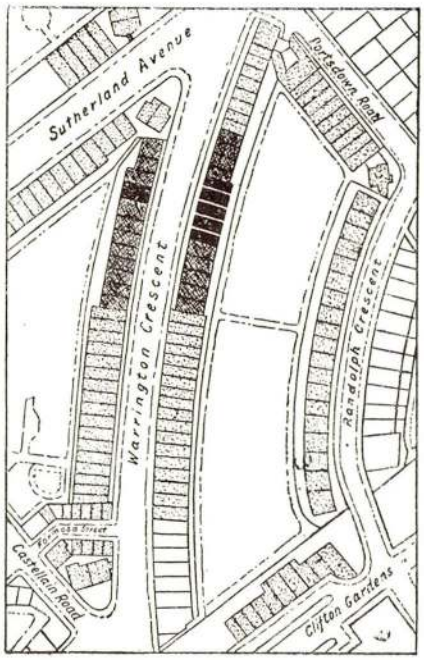
一例を擧げれば London を含めた南部英國の大部分に亘つて、或る夜警報が發せられた事があつた。そして軍需工場は仕事を中止し避難所に人々が殺到したが、結局何事も起らなかつた事があつた。それは Kent 海岸近くに聞えた味方の水上飛行機の爆音を敵と聞違つて報告した爲だつたのである。かゝる誤報を防ぐ爲近縣の夜間飛行は禁止された。

かゝる必要もなき人心の騷亂は實際の空襲と同樣の恐怖をいだかしめた。1918年の春の間に度々かゝる恐怖が續いたので London 當局者も大いに困惑したのだつた。そこでより多くの避難所を設ける事とし、一時は警察署の建物も含めたあらゆるビルデングに殆んど 100萬人近くの人々に對する避難所を用意した。隱蔽された絕好の場所は地下鐵停車場だつた。是等の多くは London の東部の人達の避難所に當てられた。何千もの人々がプラツトホームや階段に蹲つてゐたので乘降客が困難を感じた。空襲警報があらうがなからうが多くの家族は是等の停車場や Phames トンネルで夜を過す事にしてゐた。他の地方にも避難所が用意されてゐたが人々を單に安心させる丈けで、實際上の價値はないものだつた。

又 London の或る區域の住民の大多數は Gothas や Giants の幾度もの空襲の恐ろしさに失神した樣になつて了つた。然し此の時代の防空即ち1918年の春に於ける防空技術は一層効果的になつた。その事は獨軍操縱士が空襲の度毎に次第に空襲する事が困難になつて來た事を報じてゐる事より了解出來る。敵機はサーチライトにより執拗に照し出されたのだつた。サーチライトの主要目的は敵機を照し出して待機してゐる味方の飛行機に攻撃目標を示す事であつた。

英軍操縱士の熟練せる技術と勇氣によりて獨空軍は相當の被害を受けた。彼等はお互に最も不愉快な方法で殺し合ふ爲に懸命になつてゐたが、敵對してゐる空軍本部の多數の者はお互に友情と寬大さに於いて共通の感情を持つてゐたのだつた。

此の事は敵味方兩方に等しく印された復讐心が



第 4 圖

〃爆撃の跡〃

此の地圖は1918年3月7日 London Maida Vale Warrigton Crescent に落ちた一發の爆彈による被害を示したものである。黑く印したのは全壞家屋濃いハツチは相當の被害を受けたもの、淡いハツチは輕少な被害の建物を示してゐる。

なくなつた例證である。若し出來るならば飛行機が射落された時その乘組員の生命を救助する樣努力した。家々や街の人々の間に死と破壞とを齎した獨軍空襲者が射落されて燒死んだり、海中に陷ちて溺死したりした時、人々は喜んだが、彼等に友情をもつ英空軍側は戰爭により生じたかゝる出來事を甚だ遺憾とした。然し獨軍操縱士の挑戰に對して彼等は決して臆病だつた譯ではない、むしろ粉々に粉碎し燒滅して地面に叩附ける事を望んでゐたのだ。

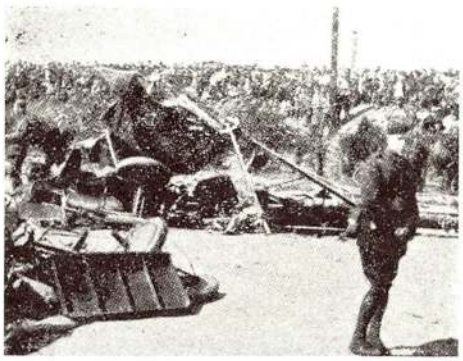
空襲者にとつては地上部隊の砲火は敵機の追擊より危險の少い事がわかつた。然し砲火は彼等を高く飛ぶ事を餘儀なくさせた。即ち集中砲火を避ける爲に其後屢々進路を變へなければならなかつた。7000呎から 10000呎の高さに繫留された氣球から下げられた網が獨軍操縱士にとつて一番惱の種となつた。事實飛行家にとつて突然或る障害に出遭ふ事が一番氣をもませるに違ひなかつた。操縱士はかゝる場合無事に生還する事は殆んどなかつた。繫留網は屢々移動するし、飛行機が餘り高く飛んでゐる爲に邪魔にならぬと言ふ考へを起させるかも知れぬが高く飛ぶ事は投爆を出鱈目にし敵に與へる損害を少くさせるのみだつた。又操縱士にとつて繫留網は實際ある數以上に澤山ある樣に信じ勝だつた。1918年3月その事柄に就いての獨逸軍の報告が繫留網の數が著しく增加して攻擊が大層困難になつた事を傳へてゐる。その報道は若し繫留網が倍加され、一層改良されたならば彼等が London を空襲する事が殆んど不可能だつたらうと言ふ事を聯想させた。

3月7日の月の無い夜の事だつた。Gothas を伴はないで Giants のみで空襲して來た。再び 1 ton の爆彈が投下されたが、此度は前の Chelsea 病院の被害より一層大なる被害を齎した。それは London の西方の人口密集せる Maida Vale に落下した。眞夜中近くで Warrington Crescent の管理人や家族の者が眠りに付いてゐた。彼等の中で少數の者は敵機の近づいた警報を聞き、頭上高くでかすかなエンヂンの音を聞き、大きな爆彈の炸裂する音を聞いた。彼等の中で12名は爆彈で吹飛ばされた5つの家の殘骸に埋められて了つた。街の向側の屋根は裂け漆喰は天井よりぶら下り、間仕切壁や窓は吹飛んで仕舞ひ、爆音の激動が廣範圍に廣がりその區域内の 400戸は硝子が破れ12名の死者と23名の負傷者を出した。その夜の被害者の總數は死者21名、負傷者39名だつた。

敵機はその騷の間に何の妨害も受けずに逃げ去つて了つた。再び空襲して來るまでには相當の時間があつた。彼等は再び襲つて來たのだ。今度は是迄の攻擊機のうちで最も大きなもので Giants と Gothas が43機飛んで來た。そのうち34機は England の上空に來た、その登載爆彈量の總和は 13～14ton で19機は入亂れて London に近づいて來た72發の爆彈が投下され被害は甚大で49名の死者と 177 名の負傷者が出た。

實際爲された損害は3日前のに比してそんなにひどくはなかつた。一方敵の被つた損害は致命的だつた。1918年5月19日の空襲は最後の空襲だつた。遂にその日は來た。London の防禦は完璧を期せられてゐた。攻擊して來た3機は英軍戰鬪機の爲擊墜され、更に別の3機は地上部隊の砲擊に遭つて擊落された。最後の勝利を握つたのは海岸

砲だつたoEssex の沖合 Dover の近くの Margatt と North Lone land の間の海中に獨逸機が幾輩も火の塊となつて落下したo



第 5 圖

〃獨機撃墜さる〃

全獨逸國民の最も期待せる空襲は1918年5月19日に敢行されたo その空襲は49名の死者と 177名の負傷者を出したが、敵飛行家の勇敢なる奮闘に彼等の7機は撃墜されたo 此の寫眞は、彼等の機 Gotha の破壊せる姿である。

英空軍に射落された Gothas の一機は Maidstone 地方の上空に來た時、その自由を失つて了つたo そして最初の攻撃者より逃れて他の飛行機に體當りを試みんとしたが空しく遂に自爆したo 第2番機は Brand 大尉の執拗なる攻撃を受けて火を發し燃えた氣體を海中に沒して了つたo 第3番機は最初と同樣英空軍の1機より逃れたが遂に他の餌食となり East Ham に火の塊となつて落下したのだつたo その時2人の乘組員は燒死を逃れる爲飛び下りたが收容された時は既に死んで了つてゐた

防禦が充分行屆いてゐたので如何んともする事が出來ず、獨機の殘り7機は彈丸を避けんとしてエンヂンに故障を生じ Essex の Clacton 附近に不時着を餘儀なくさせたo 第8番機は獨逸に歸還したが着陸する前に破壊して了つたo

此の事が前代未聞の想ひ出多き歷史の終幕だつたo 飛行船による空襲は 557名の死者と1358名の負傷者を、飛行機は 857名の死者と2058名の負傷者を出したo 尙歷史〃空中戰〃第5卷には之等の數字が詳述されてゐる。尙飛行船による物質的損害は 1. 527. 585ポンド、飛行機による損害は 1. 434. 526ポンドだつたo （森口清）



第 6 圖

〃獨軍爆撃機〃

歐州大戰の後半に於て獨軍は英吉利や他の國々を空襲せんとして、種々な型の多數の發動機を有する夜間飛行用の爆撃機を製作する事に精力を集中したo 此の機は Gotha と同一型で雙發複葉の Friedrichshafener である。エンヂンは260馬力3人乘である。

氣の付かぬ火災原因

——日光（太陽熱）が火災の原因となる場合——

永野貞次

何時何處で起るか全く豫測を許さぬのが火災の本質であります。

火災に對する吾人の豫測は當てにならぬ事を我々は屢々體驗してゐます。故に御互は「不意の火災」に對し「不斷の用意をせねばならぬ事は今更此處に申述べる必要は有りませんが只單に「不斷の用意と云つても甚だ抽象的で聊か意味をなさぬ恨みがあります。「不斷の用意」を具體的に申しますと種々手段方法がありますが其の內でも先づ火災の起る原因を檢討する事も一方法であります。從來の調査即ち火災原因の調査資料を調べますと色々と其の原因が明記して有りますが、其の內に「原因不明」と云ふのがあり而も其の原因數が相當の數に上つてゐる事を發見致します。又新聞紙上に散見する火災の記事中にも「出火原因不明、目下取調べ中」とあるのをよく見ます。原因不明

では火災防備上頗る不安であります。

處が其「原因不明」中の一原因が明になりましたので此處に御照會申し上げた次第であります。

此の發見は世界に於て最も火防研究の進歩して居る米國の專門家が數ケ年に亘り調査研究した結果で有ります。

其の原因を一口に申しますと日光即ち太陽熱であります。硝子の破片が枯草や枯葉の上にあつて日光が翳々と照り付けて居る場合其の硝子の破片が日光焦點の媒介物となり熱を發し直下の枯葉枯草が燃え出す有様は我々が虫眼鏡で日光の焦點を作れば紙が焦げて燃へ出すと同じ原理作用で有ります。

山火事の原因が登山者の煙草の吸殻と通り相場になつて居りますが、太陽の悪戯で山中に落ちてゐる硝子の一片も乾燥期には山火事の原因の一つになる様です。

左記の33種の火災は明瞭に太陽熱が其の因をなして居ます。

1. 太陽の直射で發火した實例……合計4件

甲、煙火に使用する藥品を戸外に放置した。

煙花に用ゆる藥品が入つてゐる鐵製の容器を戸外に放置してゐた處太陽の熱で爆發して火災を起し其火災が隣接の雷管製作工場に飛火して大火となり遂に女工20名燒死した。

乙、綿の様な植物纖維に硝酸を含ませたものから發火した。1件甲板上に照り付ける燒付く様な太陽熱で船艙に納めた硝酸を含ませた綿火からの出火。

丙、工場構内の路上にラツカー塗料の屑が炎天晒の場合

電氣器具製作工場の排氣口から排出されたラツカー塗料の熱で發火し火勢猛烈且つ火の廻り早く工場を一瞬に全燒した。

丁、メチールアルコールから發火1件

メチールアルコール入りの瓶を軒に吊して置いた處太陽の直射で爆破し其の家屋全燒

2. 窓硝子を通射する太陽熱で發火した實例　13件

A、木製テーブルから發火　1件

マカロニー製造工場の針金入り硝子窓を通射した太陽熱は其硝子が焦點の作用をなし其窓際に位置してゐた木製の机を焦し發火して他の家屋類に燃え移つたが幸にして其工場にはスプリンクラーが裝置してあつたので直に消火し僅かの損害に留まる。

B、陳列棚に飾つてあつた煙花から　2件

時間にすれば僅か數分に過ぎぬが煙花販賣店の陳列窓を直射した日光は陳列してあつた爆竹を發火せしめ其爆發で附近の數家屋と其家財類を燒失し損害米貨3200弗（邦貨約1120圓）に及ぶ。

C、寫眞のフヰルムから

窓際の机にあつた屑フヰルムが窓越し直射の太陽熱で燃え上り遂にフヰルム現象所を燒失し米貨20000弗（邦貨約70000圓）の損失。

D、乾燥させる爲めに吊してあつた葉煙草から　1件

葉煙草の乾燥室の天井に在る光線取り窓から通射する强烈な太陽熱の爲め吊してあつた葉煙草が燃え出し瞬時に全工場が火の塊りとなつて全燒す。

E、同様窓硝子を通じて敷物や家具類から　1件

F、窓の敷居に落込んでゐたマツチから　1件

G、紙屑から　1件

H、セルロイド製萬年筆から　1件

硝子窓を通射せる日光（太陽熱）で其の窓際の机上に置いてあつたセルロイド製萬年筆が燃え出し火焔は忽ち周圍の可燃物に移り米貨218弗（邦貨約760圓）の損害を出す。

I、其他是れと類似の火災　3件

3. 硝子球硝子瓶等を通射する太陽熱で發火した實例9件

A、酢の入つてゐた瓶から郵便袋を燒く　1件

郵便袋と酢が入つてゐる硝子製大瓶をトラツク積にして炎天下に置いてゐた處太陽熱は右硝子を通射して郵便袋に焦點を作り忽ち郵便袋を燒失す。

B、硝子製水挿からの火災　2件

水の入つてゐた硝子製水挿を通射した日光即ち太陽熱は同じく焦點を作り家屋の板葺を炎上し米貨200弗（邦貨約700圓）の損害を生じた。

C、同様防水布を燒いた實例　1件

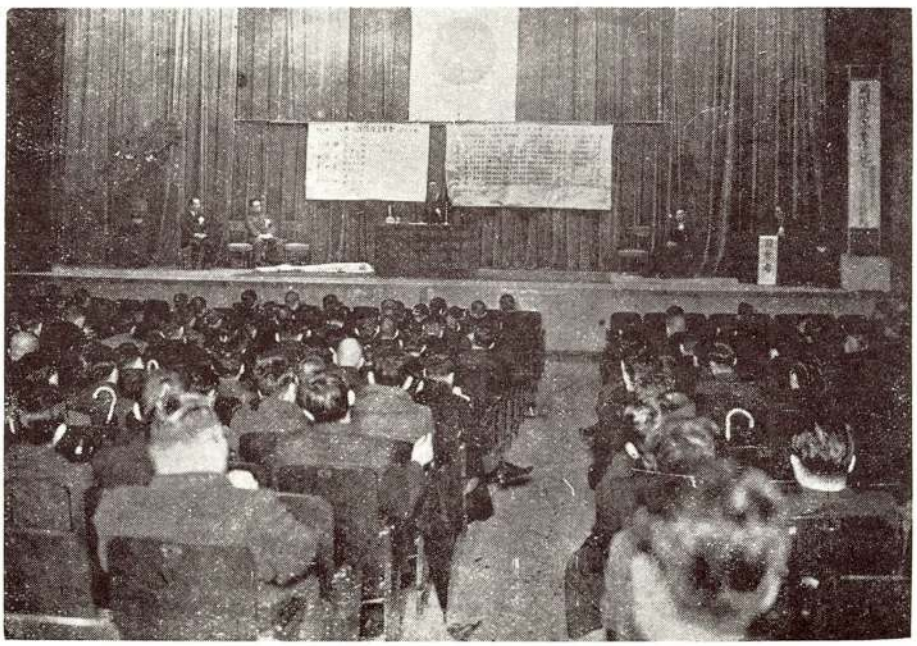
D、金魚鉢を通射する太陽熱で

1. カーテンを燒いた實例　2件
2. 家具を燒いた實例　1件
3. タールの浸み込んだ敷物の燒けた實例　1件
4. 革製手袋を燒いた實例　1件

4. 鏡又は其の反射（光線）熱で發火した實例4件
甲、藥品店の陳列棚から發火1件
乙、煙花販賣店の陳列棚から發火1件
丙、電氣ヒーターの反射熱で紙函が燒けた例
丁、木製櫃中に在つた破片硝子が太陽の反射光線熱で其櫃を焦した實例1件

5. 其他の實例3件
甲、寫眞フヰルム製作所に於て机上に在つたフヰルムの上に擴大鏡をウツカリのせて置いたら其擴大鏡が焦點となり發火した實例2件
乙、ポケツト内の眼鏡が焦點となりセルロイド製櫛を燒いた實例1件
眼鏡とセルロイド櫛を胸のポケツトに入れ戸外を散歩中日光が其の眼鏡を通射して櫛に焦點を作り忽ち櫛がポケツト内で燃え上りポケツト火事を起した。

以上は特異な實例で有りますが太陽の惡戲が人間の意表に出る事と我々には極めて些細な事の様に見えることが原因で大事を惹起する事を敎示するもので有ります故に前記の實例は例へ特異稀なものとしても實際に在つた例ですから我々は決して是等の實例を對岸の火災視すべきでなく、他山の石として重視し建築物は凡べて燒けるものであると云ふ觀念を深くして建築に當つては勿論の事既設建築物にも火防設備を嚴にすることは非常時の今日に處する道の一と考えます。



2月20日軍人會館に於ける笠原敏郎、桑原英治兩氏の講演を中心とする2月例會の盛況

防空建築規則

（昭和十四年二月十七日 内務省令第五號）

第1條　市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第2條　本令ハ内務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用ス

第3條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

1　耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ内務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

2　床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリート」造（鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニシテ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ、版ノ厚ハ40センチメートル以上ニシテ各部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積比ハ0.04以上且複筋及繋筋ヲ配置シ主筋ノ間隔ハ15センチメートル以下ト爲シ上下ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ、版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）前號ト同等以上ノ耐彈效力アリト認ムルモノ

3　防護扉トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ、鐵製ニシテ製板ノ厚ノ合計3ミリメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ、木造ニシテ厚6センチメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ハ、其ノ他地方長官各號ニ準ズト認ムルモノ

第4條　木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ）建物ニシテ隣地境界線又ハ幅員4メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離3メートル未滿ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ

1　外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲シ又ハ左ニ揭グルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

	水平距離2米未滿ノトキ	水平距離2米以上ノトキ
イ	鐵網「モルタル」ニシテ厚2糎以上ノモノ	鐵網「モルタル」
ロ	塗土、漆喰等ニシテ厚2糎以上ノモノ	塗土、漆喰等
ハ	耐火木材ニシテ厚1糎以上ノ物（水平距離0.5米未滿ノ時ヲ除ク）	耐火木材
ニ	石綿盤又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔離セルモノ（水平距離0.5米未滿ノトキヲ除ク）	石綿盤又ハ金屬板
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上

2　窓又ハ出入口ニハ防火戸又ハ左ノ各號ノ1ニ該當スル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規定スル構造ト爲スコト

イ、耐火木材、金屬板、石綿盤又ハ網入ガラスノ類ヲ以テ構成シタルモノ

ロ、其ノ他地方長官前號ニ準ズト認ムルモノ

3　金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト地盤面ヨリノ高4メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地境界線又ハ幅員6メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離5メートル未滿ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

同一敷地内ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線ト看做シ前2項ノ規定ヲ適用ス、但シ建築面積ノ合計600平方メートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第5條　左ノ各號ノ1ニ該當スルモノニ付テハ地方長官前條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

1　建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地地區内ニ在ル建物

2　床面積4平方メートル以下ノ平家建ノ建物

3　公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分

4　擁壁、防火壁又ハ防火上有效ナル牆塀ノ類

ニ面スル建物ノ部分

5 防火上有效ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分

6 適當ニ「ドレンチヤー」ヲ設備スル建物ノ部分

7 前條第1項第1號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絕緣セラルル建物ノ突出部

8 柱、桁其ノ他大材ヲ使用スル建物ノ部分

9 其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分

第6條 木造ノ長屋ニ在リテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戶ヲ區劃スベシ

木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積 150平方メートルヲ超ユルモノハ 150平方メートル以內毎ニ準防火壁ヲ設クベシ

第7條 準防火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ、但シ準防火壁ノ壁面ヨリ 1.5メートル以上ニ亘リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第4條第1項ノ構造ト爲シタルトキハ第2號又ハ第3號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

1 厚3センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壞ノ虞ナキモノト爲スコト

2 兩端ハ之ニ近接スル木部ヨリ30センチメートル（地盤面上 2.5メートル以內ノ部分ハ15センチメートル）以上突出セシムルコト

3 上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ45センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト

第8條 木造建物ノ開口ニシテ隣地境界線ニ面シ且其ノ水平距離1メートル未滿ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ其ノ大サヲ制限スルコトヲ得

第9條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數6以上ノモノ又ハ階數5且其ノ床面積3000平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スベシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クベシ

第10條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數3以上且其ノ床面積 600平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クベシ

第11條 外壁又ハ屋根木造若ハ鐵造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數2以上、且其ノ床面積 600 平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ左ノ各號ノ1ニ依リ防護ノ施設ヲ爲スベシ

1 居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁及屋根又ハ上階ノ床鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以上ノ耐彈效力ヲ有スル室ヲ設クルコト

2 前號ニ相當スル防護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ヲ設クルコト

前項ノ室又ハ空地ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ建物ノ敷地外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第12條 壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物ニ付テハ前3條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

第13條 地方長官ハ左ノ各號ノ1ニ該當スル建築物ニ付準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ防護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ニ關シ第10條又ハ第11條ノ規定ニ準ジ必要ナル命名ヲ爲スコトヲ得

1 公共團體ノ公用ニ供スルモノ

2 學　校

3 病　院

4 停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場

5 卸賣市場

6 常時50人以上ノ職工ヲ使用スル工場

7 劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場

8 前各號ニ揭グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第14條 防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

1 收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

2 收容室ノ床面積ハ 100平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

3　上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ2以上ノ版アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得

4　周壁ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト但シ建物ノ外塗ニ接シ且第1階以下ノ階ニ防護室ヲ設クル場合ニハ其ノ部分ノ周塗ハ特ニ堅固ナル構造ト爲スベシ

5　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設クルコト

6　外塗ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ3平方メートル以下ト爲シ且第2階以上ノ階ニ在ルモノニ付テハ防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲シ其ノ他ノ階ニ在ルモノニ付テハ耐彈設備ヲ爲シ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

7　外壁ニ非ザル周塗ノ開口ニシテ面積4平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

8　出入口1ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

9　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第15條　準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

1　收容室ノ床面積ハ50平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

2　上部ノ床又ハ屋根及周塗ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト爲スコト

3　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト

4　外塗ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ3平方メートル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

5　外壁ニ非ザル周塗ノ開口ニシテ面積4平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

6　出入口1ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

7　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第16條　地方長官ハ建物ノ用途其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ第9條乃至第11條ノ耐彈構造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ空地ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得

第17條　地方長官ハ第9條乃至第11條ノ防護室準防護室、其ノ他防護ノ施設又ハ空地ノ配置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第18條　地方長官ハ僞裝ノ爲建築物ノ形態、色彩又ハ僞裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第19條　石油「タンク」ニシテ其ノ容積三千キロリツトルヲ超ユルモノハ之ヲ地下ニ設クベシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第20條　1時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

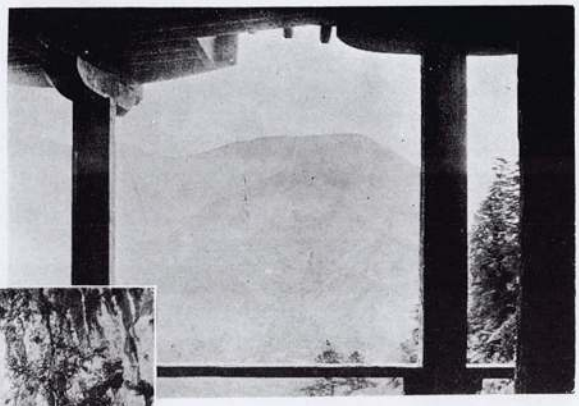
附　則

本令ハ昭和14年4月1日ヨリ之ヲ施行ス

古建築新抄 (1)

藤原義一

三佛寺　投入堂





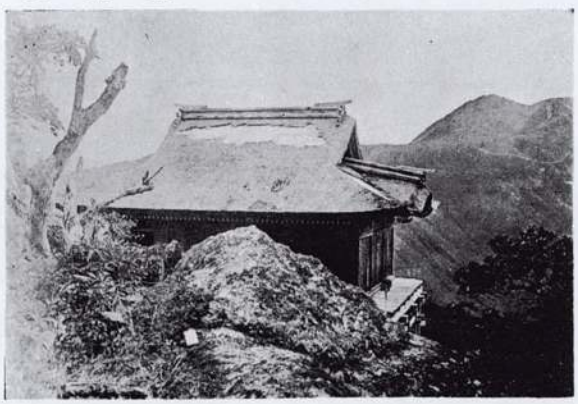
投入堂の外觀

山の古建築

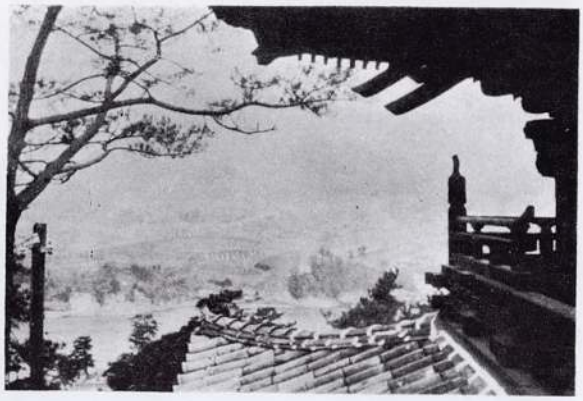
三徳山三佛寺

鳥取縣東伯郡三朝溫泉の奥．海拔3千尺の三德山の中腹にある。天臺宗の行場の1つで．急坂をよぢ．鐵鎖にすがつて岩を上つて行くと數町にして文珠堂がある。岩頭に舞臺を構へて建てられた建築で室町朝代末のもの．更に急坂を上ると地藏堂といふのがある。外觀年代共に文珠堂と同じ．そして同じく危い岩頭に建つてゐる。更に上ると奥の院に至る。納經堂といふ小さな春日造の樣式を持つた堂があり．一部分に平安時代の手法をとどめてゐる。そこから見上げると絕壁に懸つて投入堂が遺られてゐる。恐ろしい斷崖を岩の凸凹に摑り乍ら傳つて行かねばならぬ。平安中期の堂々たる建築で．宇治の平等院鳳凰堂を思はすものがある。人間業を超越した古人の工作に．土地の人は昔し役行者が遣つて神通力で投げ入れたものだと傳へてゐる。

文　珠　堂



向上寺　三重塔

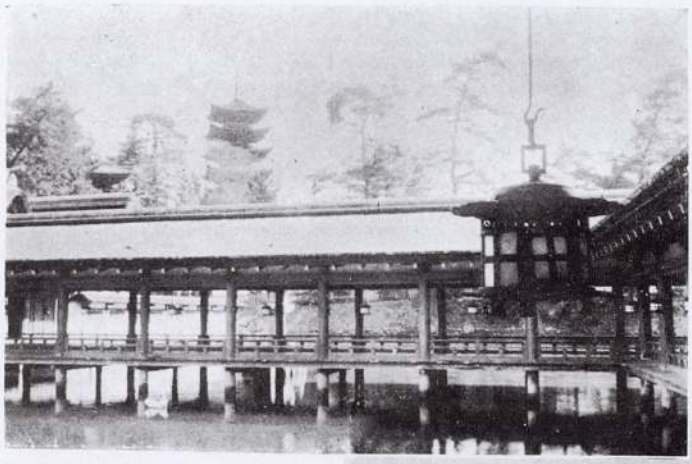


海の古建築

瀬戸田の向上寺

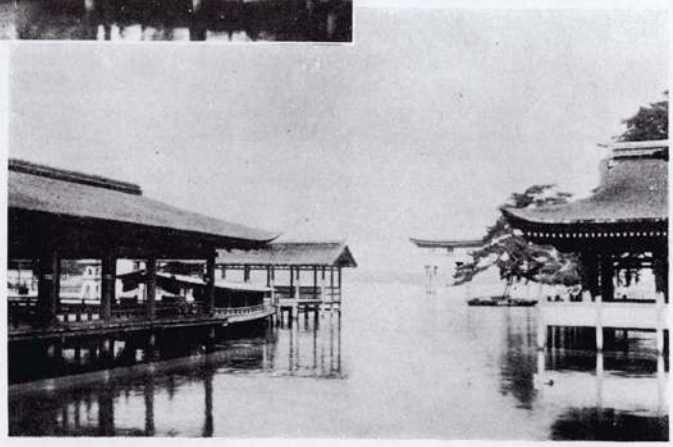
瀬戸内海でも最も島の多い尾の道からの海上・生國島の小さな港の後丘にある向上寺三重塔。

室町初期の建築で・島の美術にふさはしい明るい豊かな裝飾が行はれてゐる。除蟲菊の畠を越して見渡す四方の海と島の風景は實にのどかである。



嚴島神社

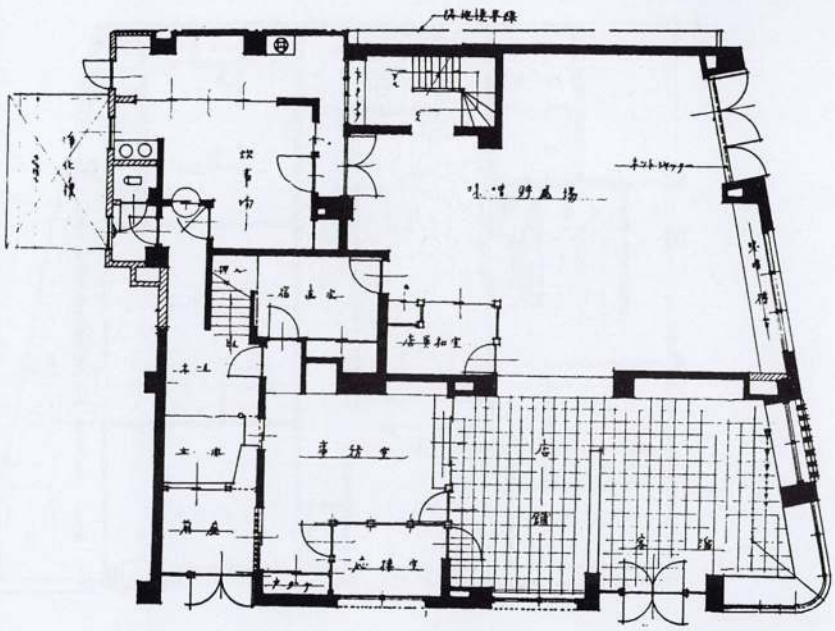
清盛の作つた嚴島神社の社殿は今は平安朝の樣式を形にとどめるのみで・一部鎌倉時代の建物の他は殆ど全部室町時代に毛利元就の改築・鳥居は明治１８年の再造で國寶建造物としては新しい時代のもの・潮が滿ちてくると前後左右に連る建築郡の丹色が浪に映えて美しくゆらぐ。



嚴島神社



西面外觀

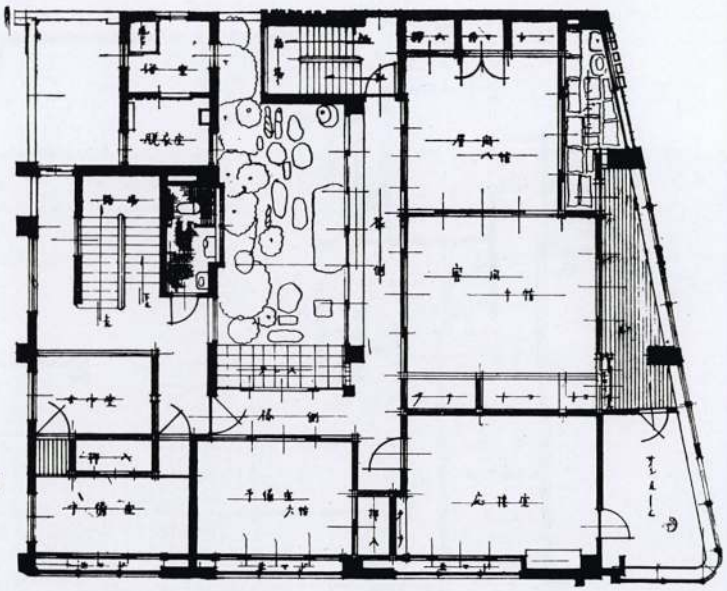


1階平面圖

"米忠味噌本店" 設計・加藤義男氏・施工・木村組



外　　觀

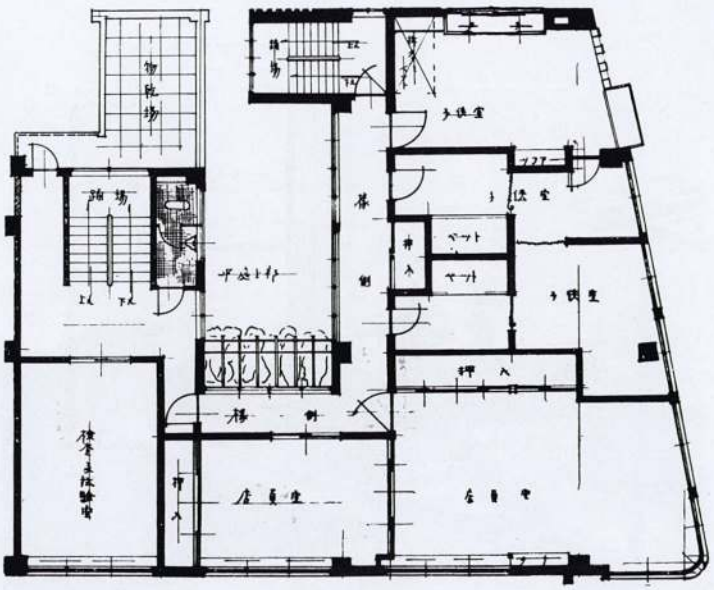


2 階 平 面 圖

111 **4** "米 忠 味 噌 本 店" 設計・加藤義男氏・施工・木 村 組



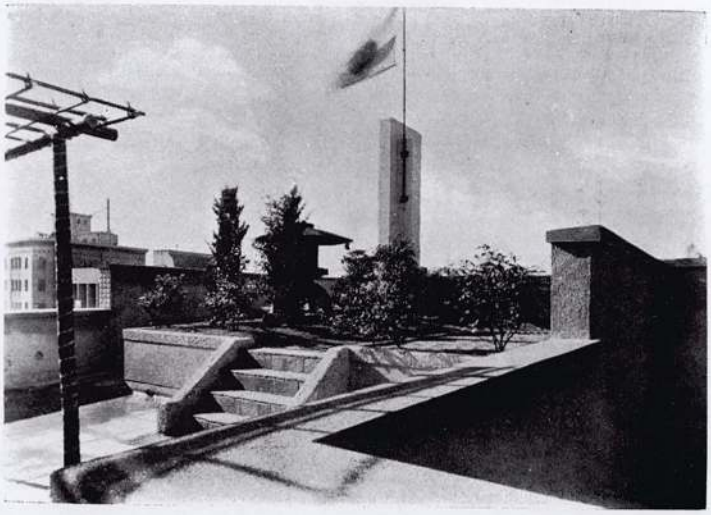
1階内玄關及ホール



3階平面圖

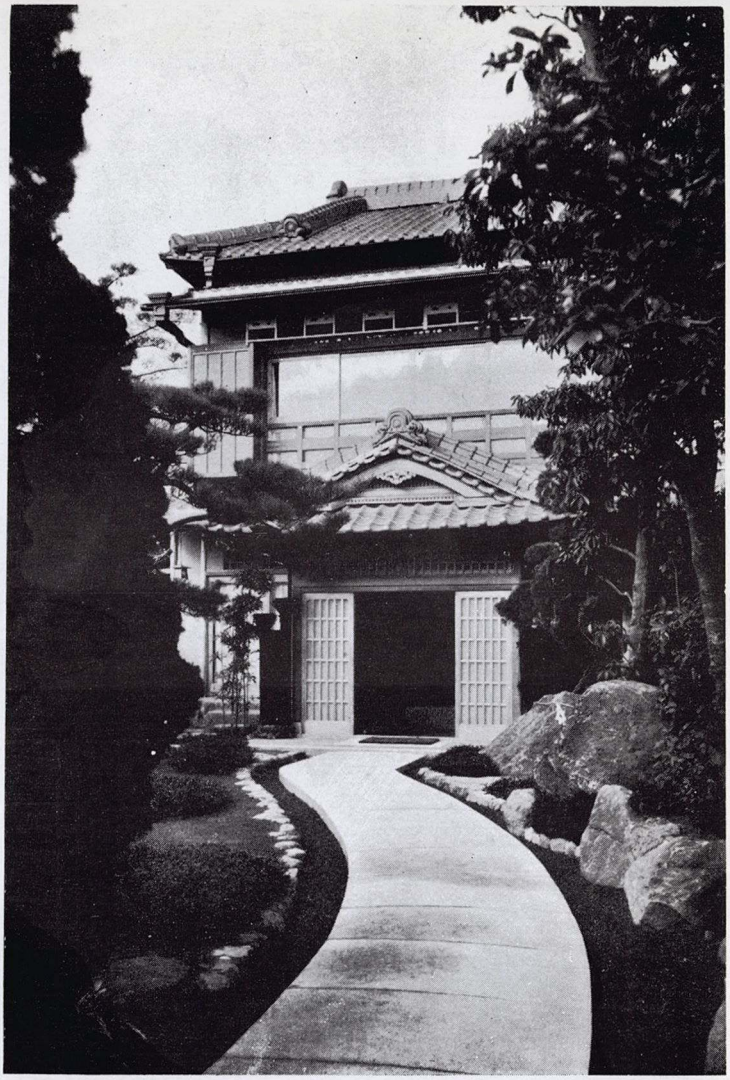


2階應接室

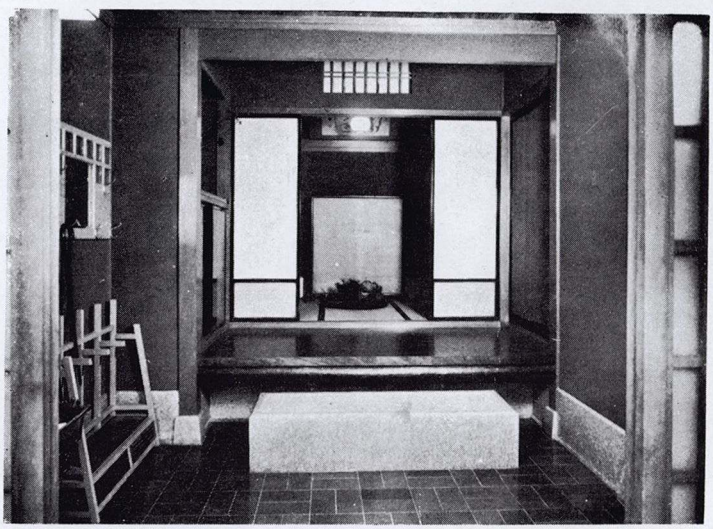


屋上庭園

111 6 "米忠味噌本店" 設計・加藤義男氏・施工・木村組



前庭より玄關を觀る

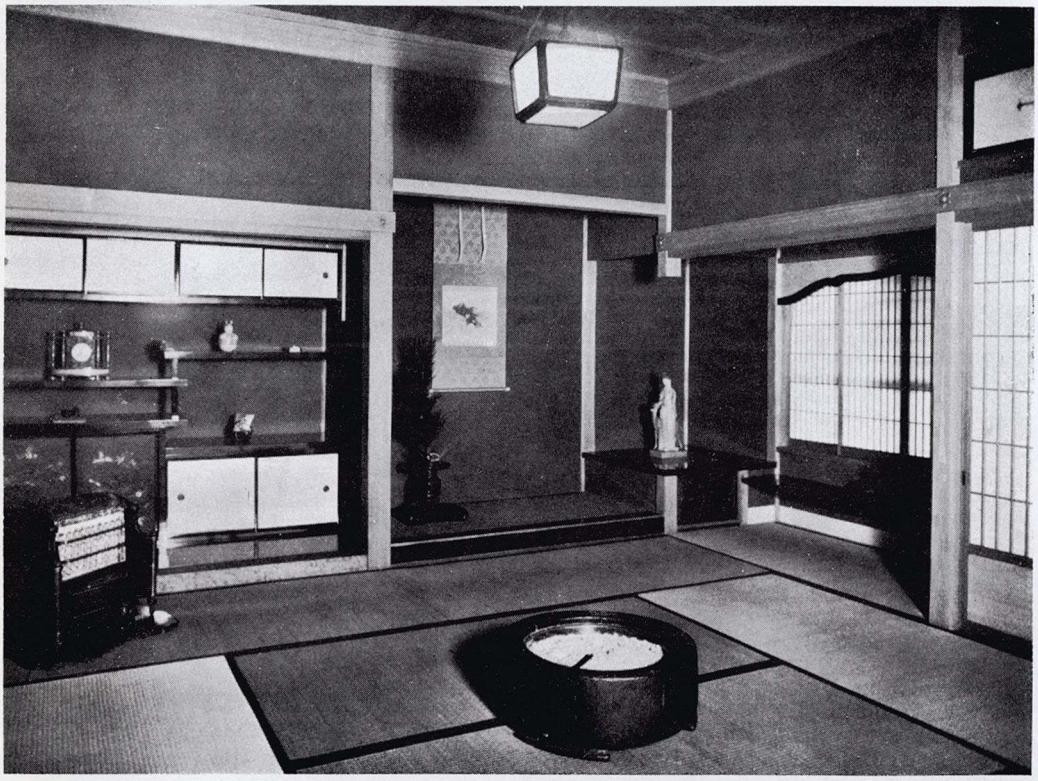


玄　關



茶　　室

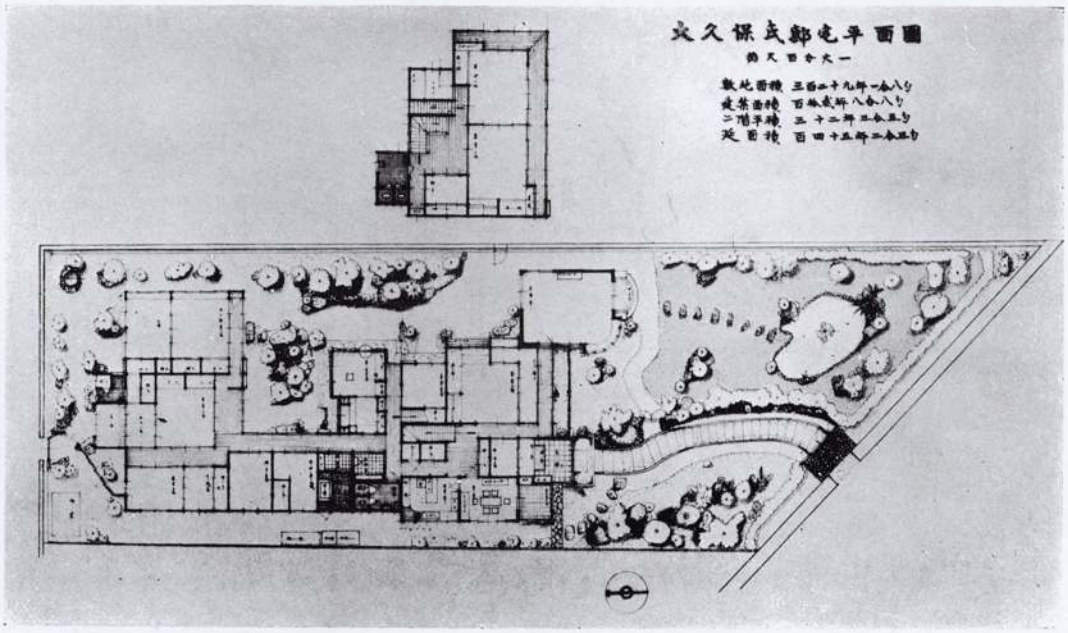
2 階 居 間

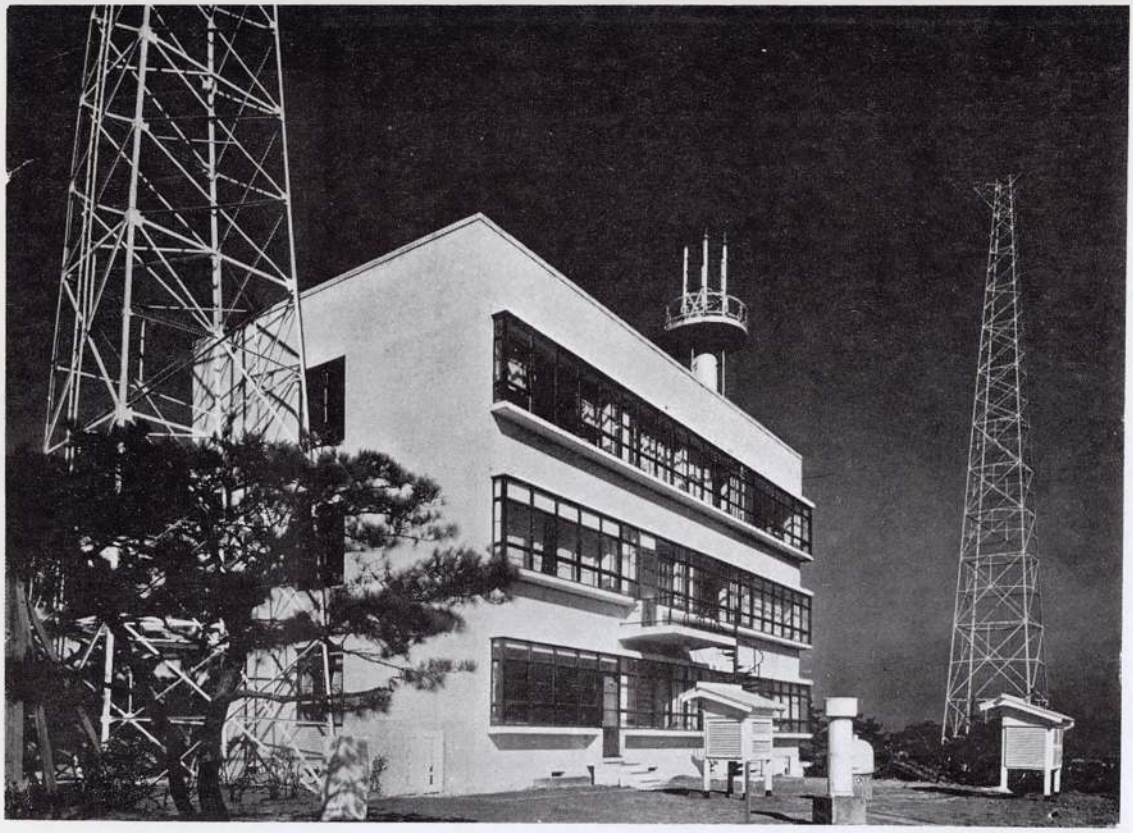


III 8 “大 久 保 氏 邸” （大阪塚口）設計・施工・田中久雄建築事務所



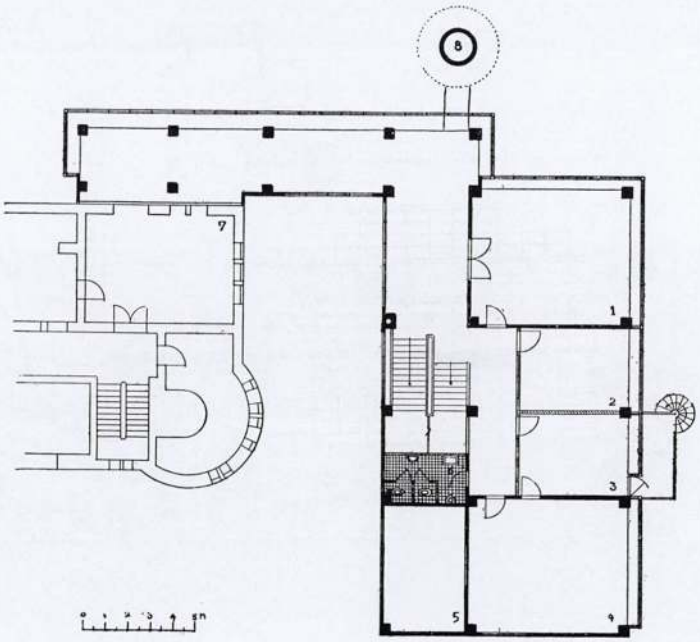
食　堂


大久保氏邸平面圖
敷地面積　三百二十九坪一合八勺
建築面積　百四十八坪八合八勺
二階平積　三十二坪五合五勺
延面積　百四十五坪二合五勺



南　面　外　觀

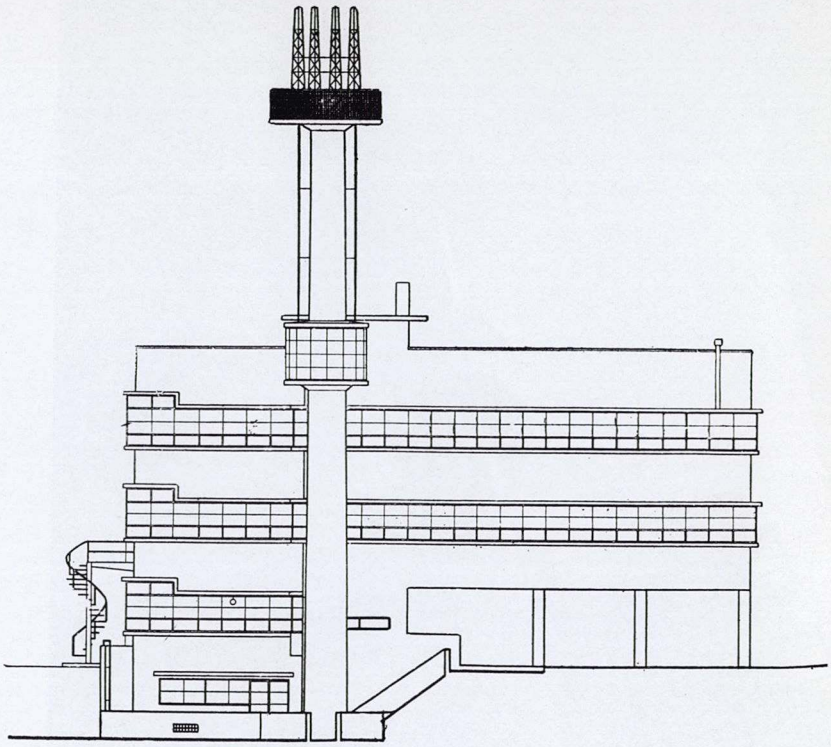
2 階 平 面 圖

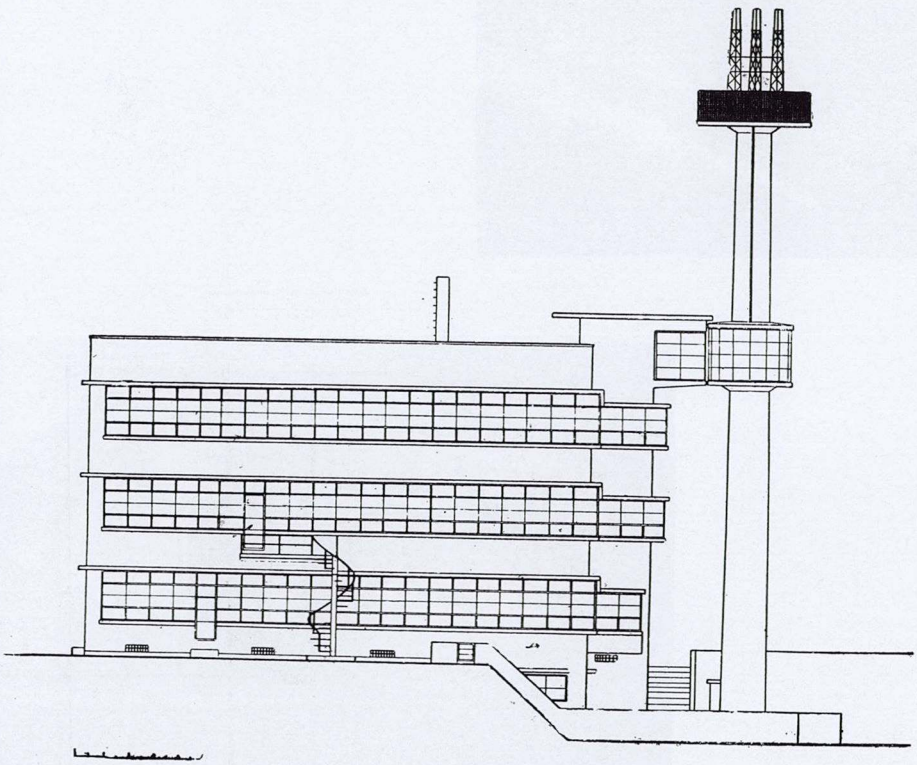


1 檢潮係室
2 應　接　室
3 臺　長　室
4 事　務　室
5 事　務　室
6 便　　所
7 舊事務室
8 觀　測　塔
　下部地震計室

 "神戸海洋氣象臺" 設計・堀口捨巳氏・施工・松　浦　組

東　立　面

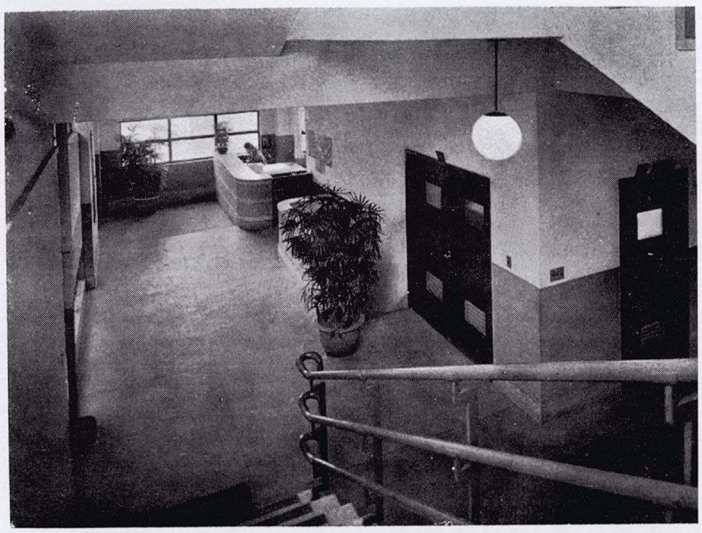




南　立　面



觀測塔と廳舍

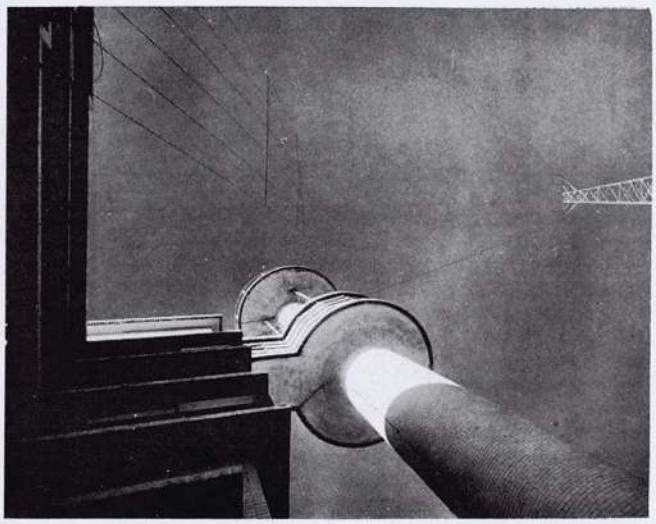


玄關ホール

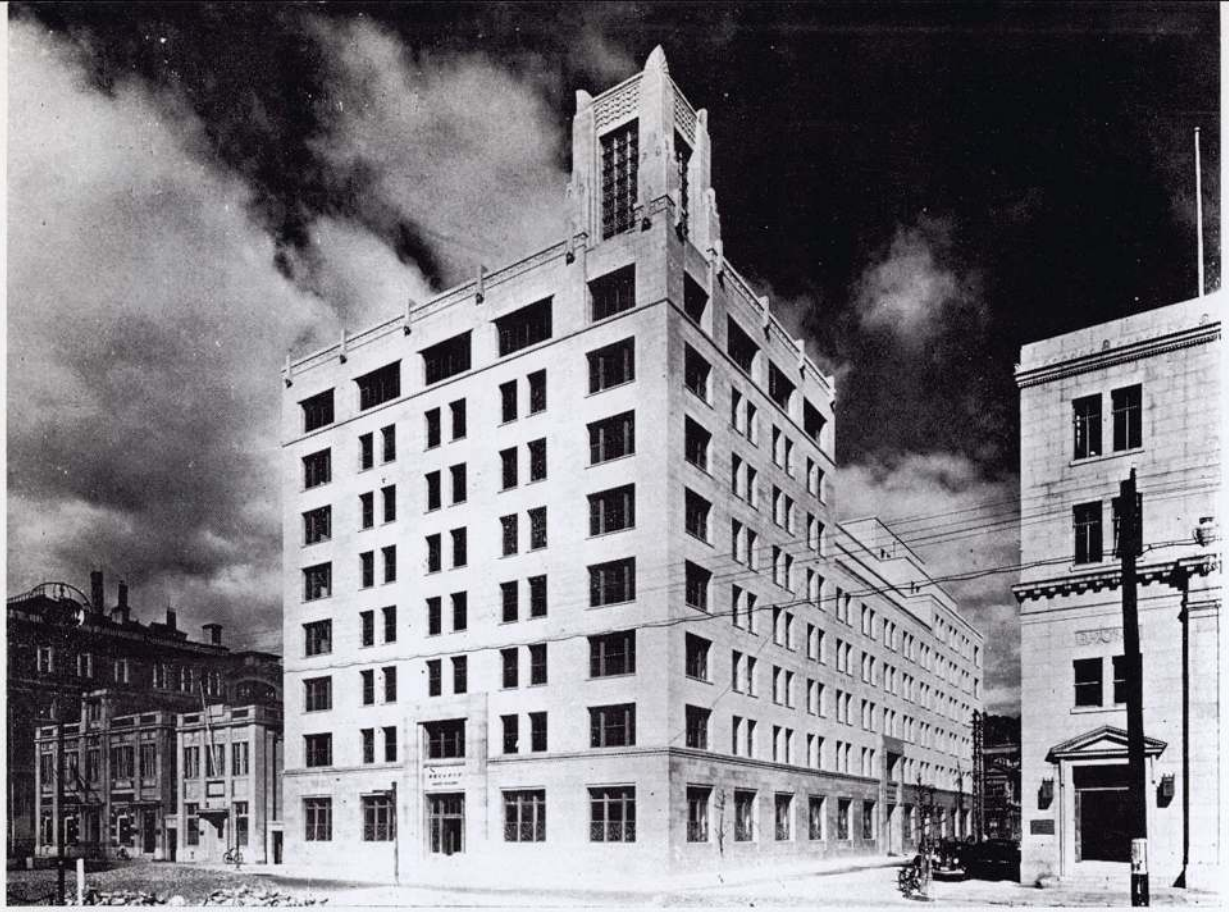
III 12 "神戸海洋氣象臺" 設計・堀口捨巳氏・施工・松浦組

南面外觀の1部



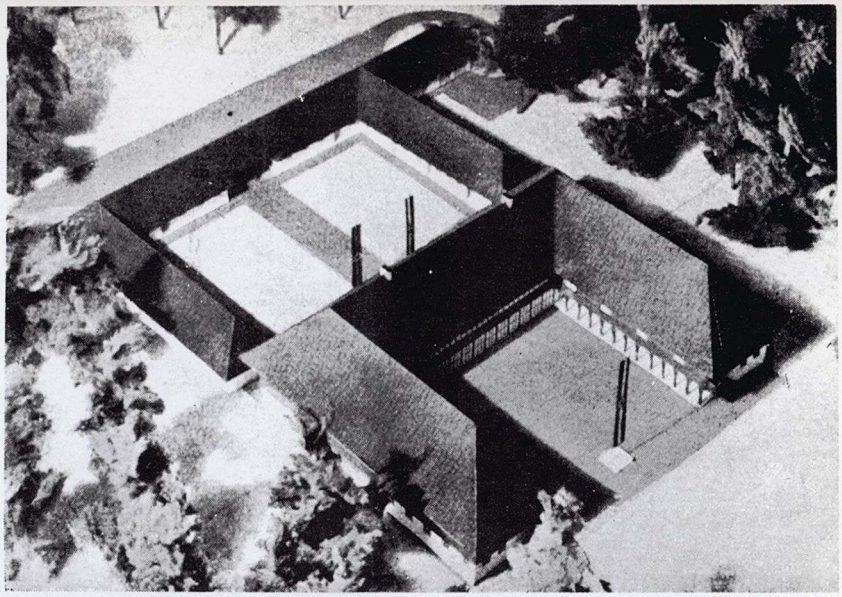


觀　測　塔

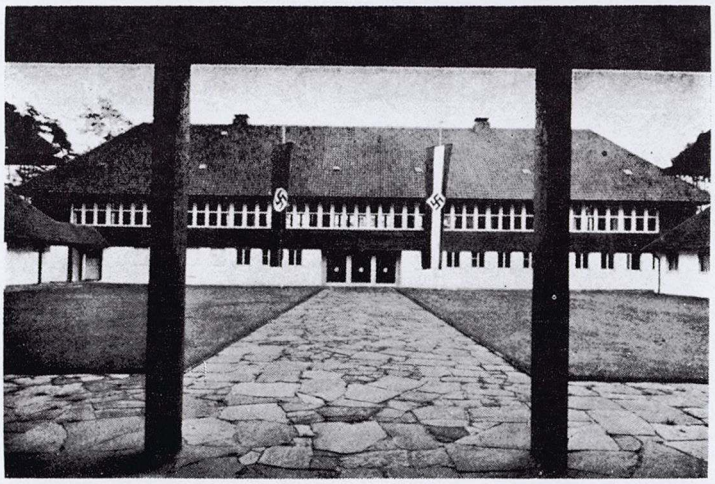


全　　景

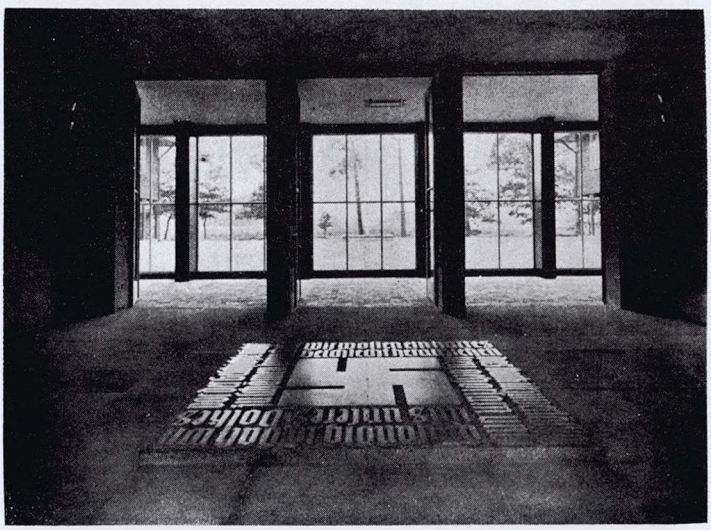
III 14 “神　港　ビ　ル” 設計・木下建築事務所・施工・竹中工務店



鳥瞰模型



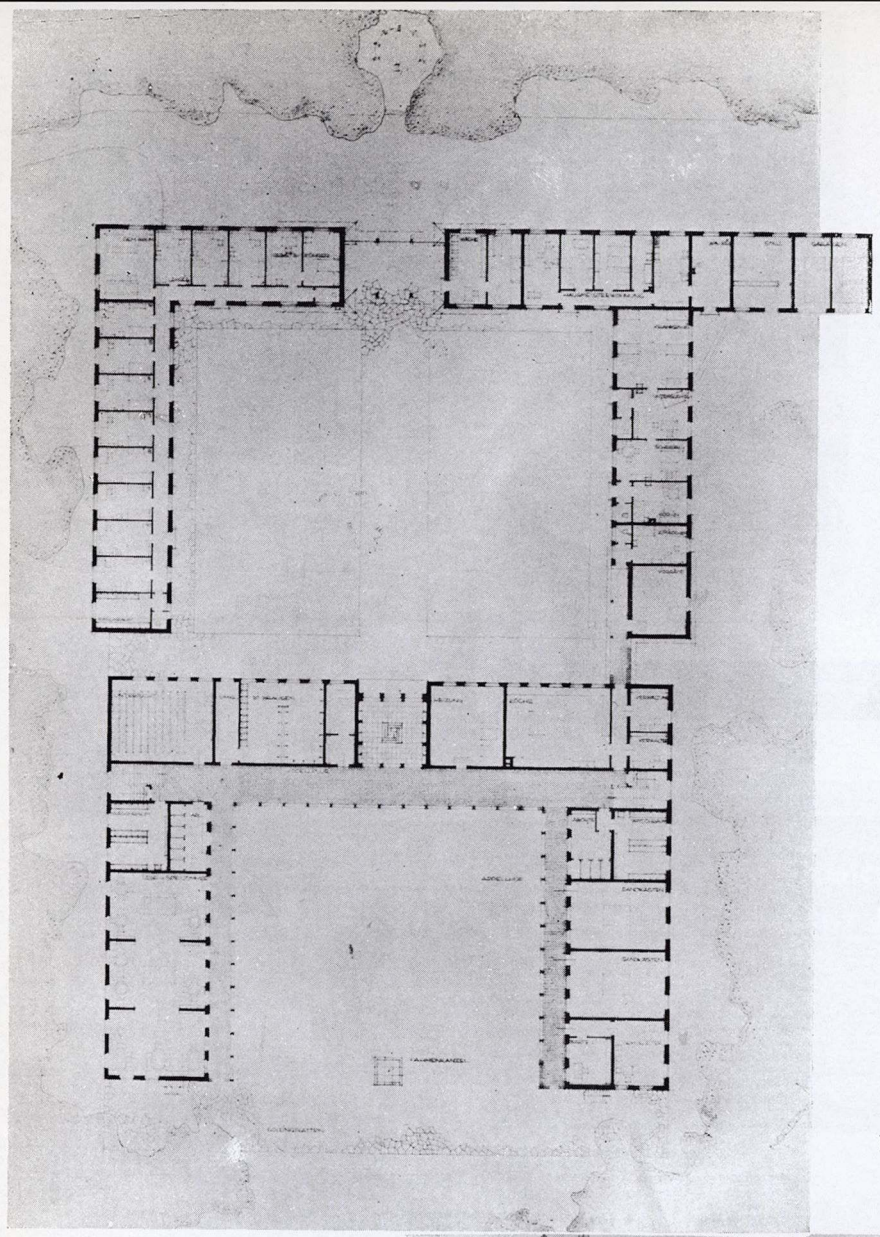
前庭



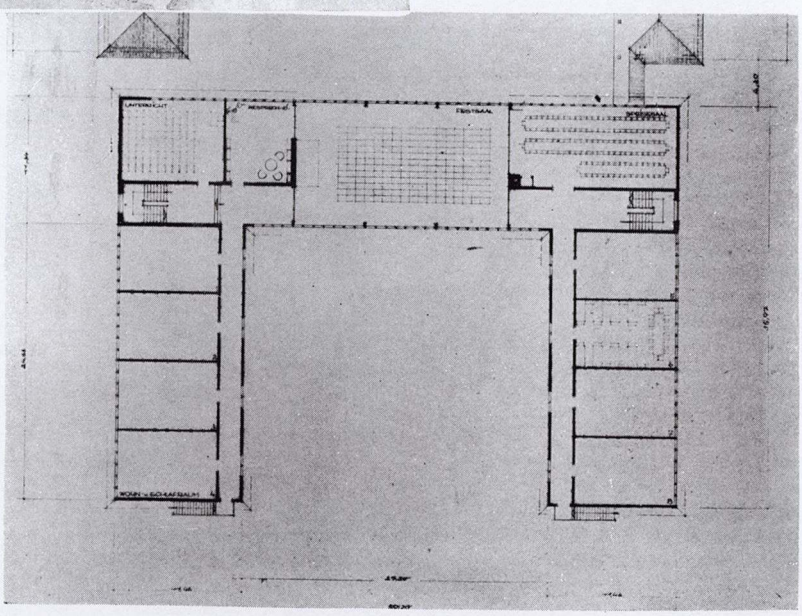
入口廣間

ヒツトラー・ユーゲントの指導者養成所の建築に就いてはしばしば報告されてゐる本建築も亦その1つである。Braunschweigは北方ドイツでも特に地方色の豊かな農民建築様式をもつてゐる所であるが．この建築も郷土的な建築様式を主潮として設計された。單に趣味上の様式選擇ではなくて．例の民族主義的建築統制の1つの表はれであり．「懸賞募集に絶縁状をたゝきつけてFra Furt の建築に感謝の挨拶とした」結果の所産と言つて良い。屋根．窓の形態は勿論．中庭式の平面配置まで全くBraunschweig の農民建築風なと作者に言ふ。

（Baukunst, Jan., 1939より）



1階平面圖



2階平面圖

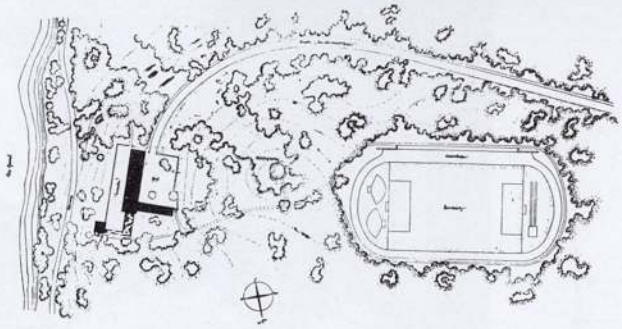
III 16 （ドイツ）北方獨逸 Braunschweig の地方指導者養成所 建築家 Haus Reichow

ヒツトラー・ユーゲンドの建物は獨逸建築界の問題になつて居るがこゝに掲げたのはベルリン近くのハーベルに建つものでやゝ高級に屬する。プランもやゝゆとりがあり材料も多少吟味してある。第1圖はその西側姿. 第2. 第3圖はプランである。

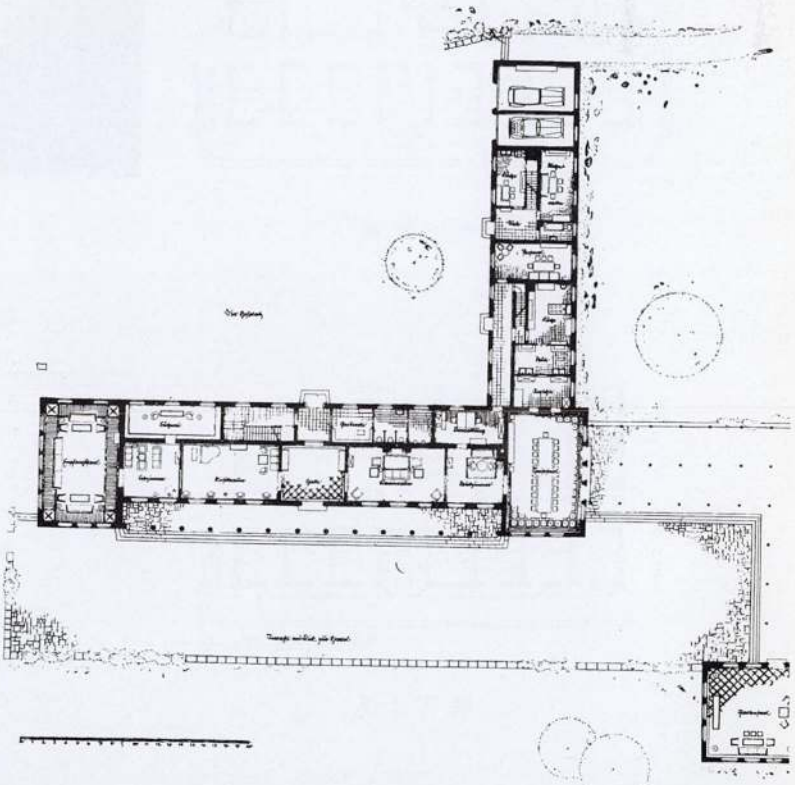
(Bauformen, Jan., 1939より)



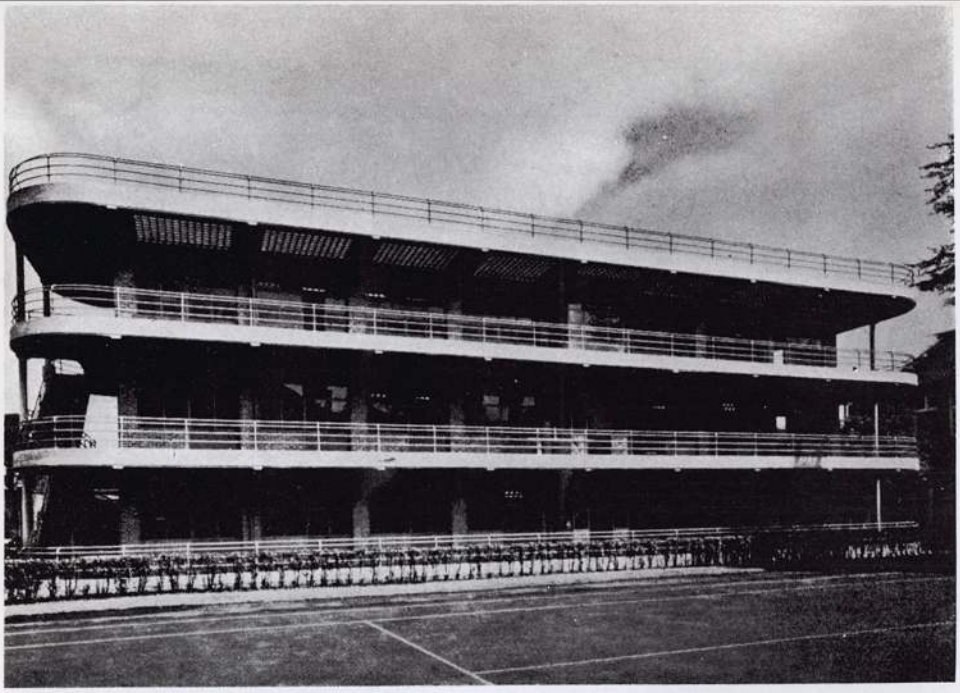
外　觀



配置圖



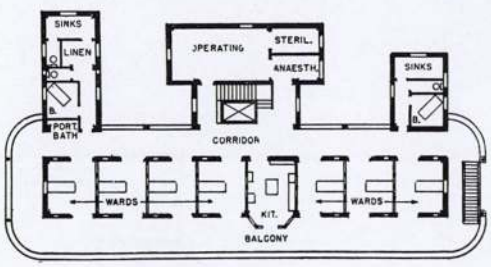
平面圖



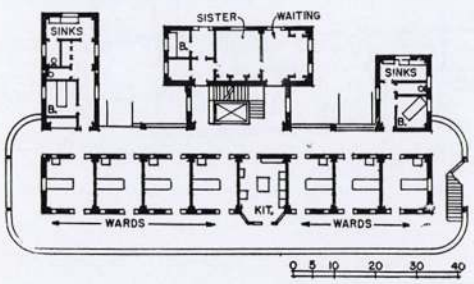
外　觀



露　臺



2 階 平 面 圖



1 階 平 面 圖

この隔離病室では，傳染病豫防の完璧を期する爲に，建物内の換氣を自然換氣に傳ることにして3階建の各病室の前には9尺のバルコニーをその後方及び兩翼端にも巾廣い開放した通路を設けて出來るだけ自然に接近せしめた。

それに，在來の病院に屢々見られる甲室から乙室への傳染現象を防ぐ爲に，病室以外の各室には概ね扉がなく此又直接外氣に接してゐるのである

各病室の間仕切はガラス壁で出來てゐて，看護婦は中央の1室にあつて，患者に充分注意する事が出來る樣になつてゐる。

（Aechitectural Record, Jan.,1939より）

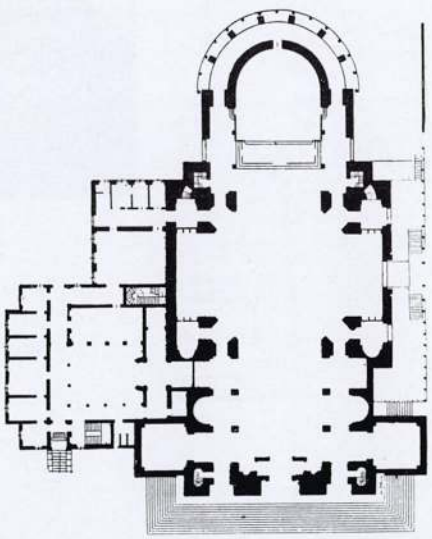


外　觀

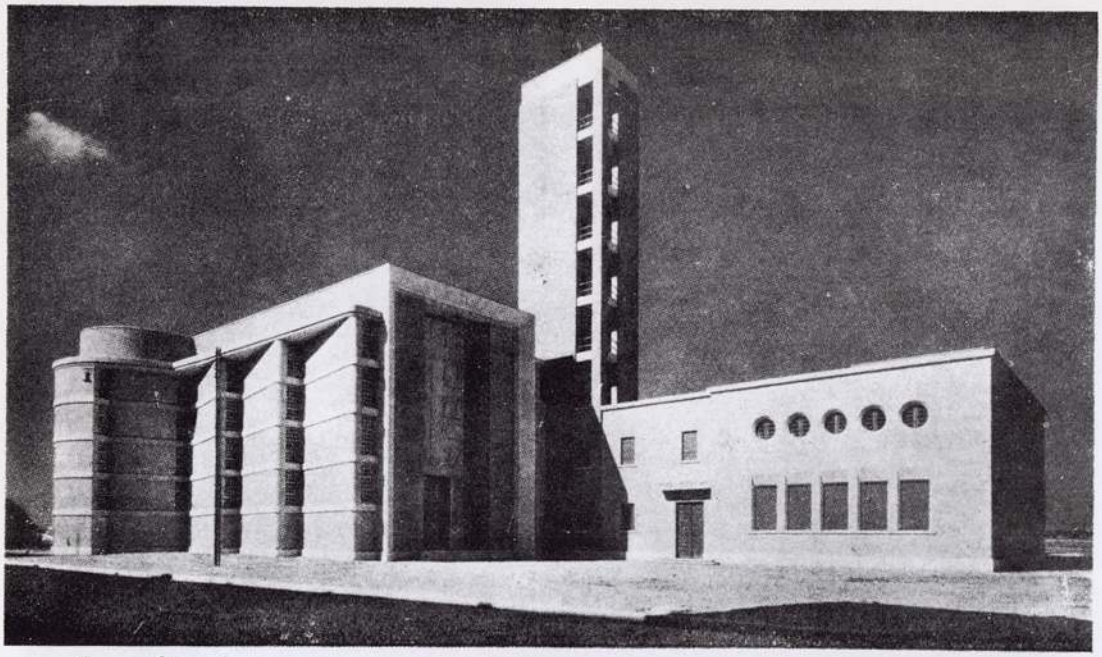


内 部 祭 壇

左圖はローマに於ける新大教會堂建築。建築家 Marcello Piacentini。Achilli Fun の壁畫のある祭壇を示す。床は赤色斑岩。壁面は暗赤色臺座は磨きのトラバーチン。祭壇は綠色大理石。合唱所の手摺は鍍金してある。(Zentralblatt, Nov., 1938より)

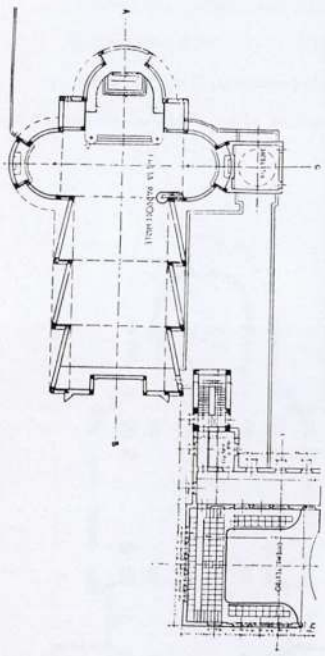


平 面 圖



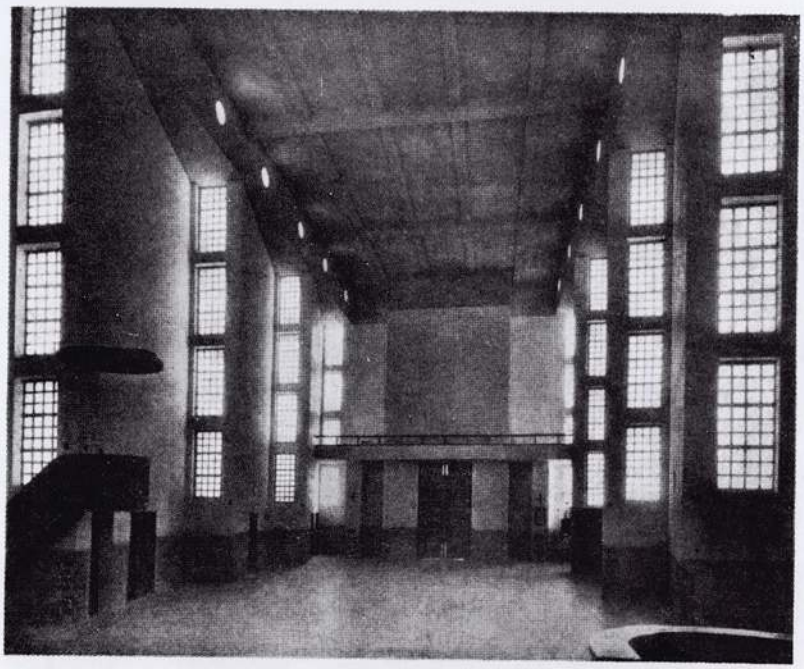
外　　觀

左は教會堂で．右に接續してゐるのは映畵館であつて．吾々には奇拔に思はれる組合せである。



Grundriß der Kirche und des angrenzenden Lichtspielhauses. M. 1:800.

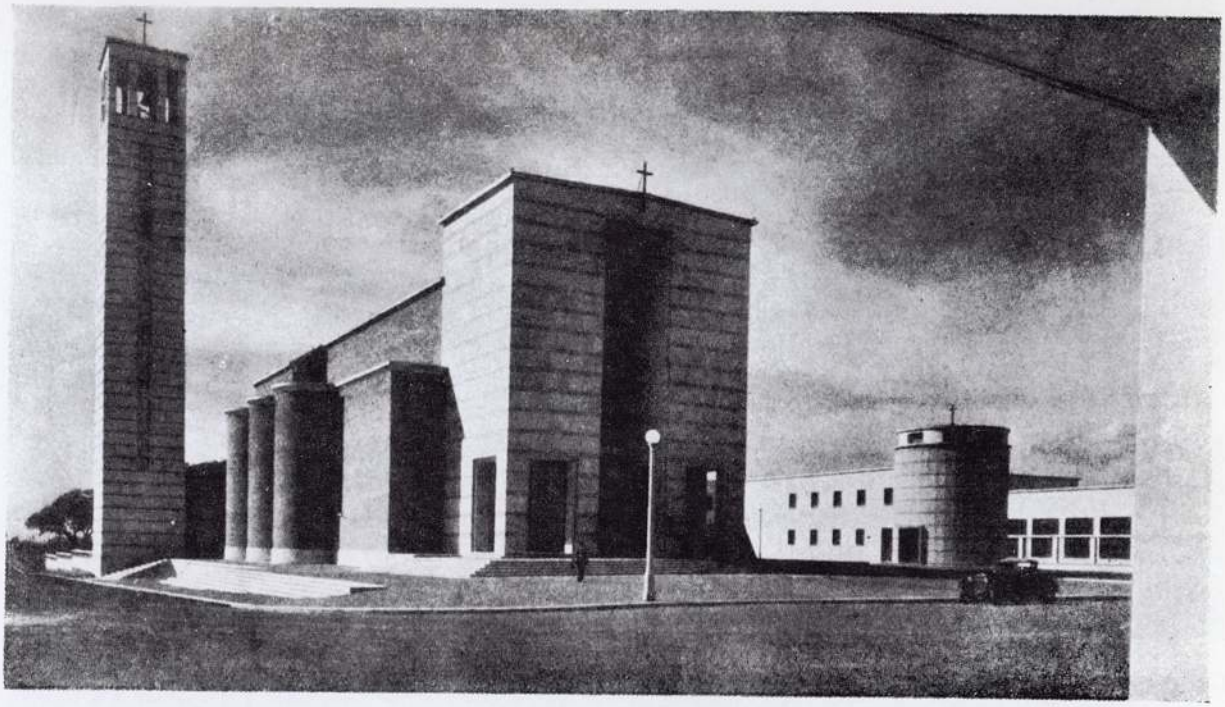
平　面　圖



內　　部

本堂の祭壇から見たところである。光線が前方から射入するやうに考へられてゐるので．祭壇を禮拜する人は側面からの光線に妨げられることなく眼を向けることが出來る。祭壇と外壁間の室には．オルガンと合唱者が置される。教會堂と塔の主體は鐵筋コンクリート造である。塔の鐘は上下に配置されてゐる外裝は黃色である。

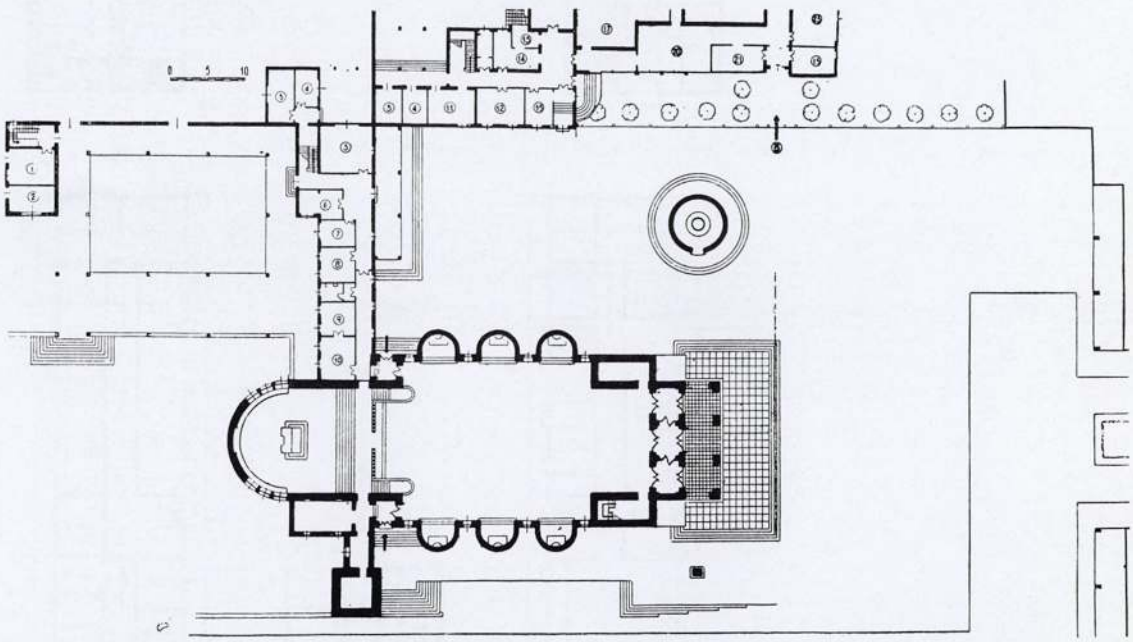
（Zentralblatt, Nov., 1938より）



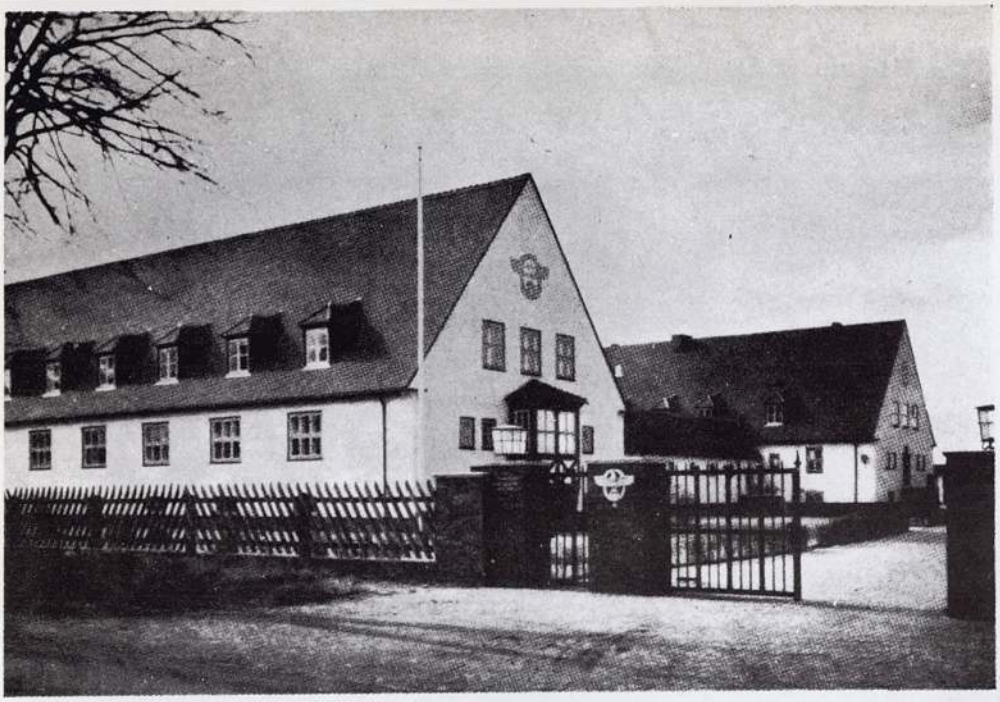
外　觀

サバウデアは新しく建設せられたポンテニー（Pontini）の第2番目の都市である。教會堂は國會議事堂を始め其他の公共建築物の櫛比してゐる革命の廣場に通ずる大通りの目拔の地點に建つて居る。教會堂の左には46mの塔があり．右には圓形の洗禮堂がある。その後方には所屬の僧院が見える。塔と玄關の建物にはトラバーチンが二色に使ひ別けられてゐる。本堂及禮拜堂は煉瓦造。玄關の壁龕には Ferruccio Ferrazzi の作になるモザイク畵があり．その抛物線的なモザイクの曲面は試みとしては誠に高く評價され得るものであつて．その力强いモザイクの擴大感は看る人に對して效果的である。

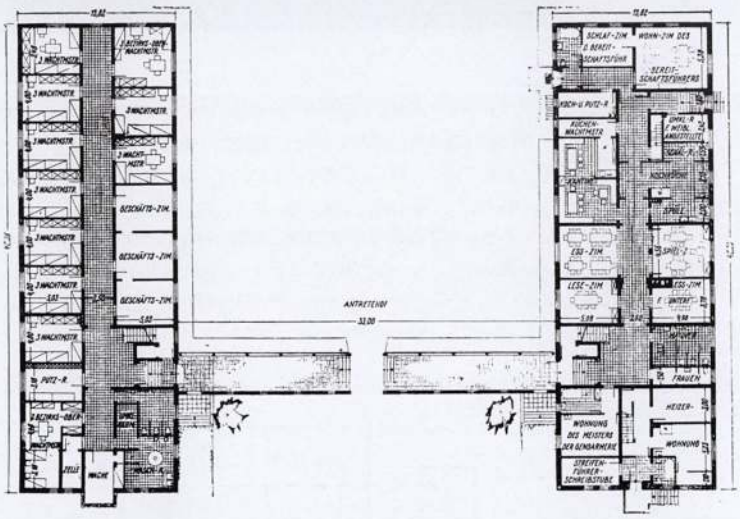
（Zentalblatt, Nov., 1938より）



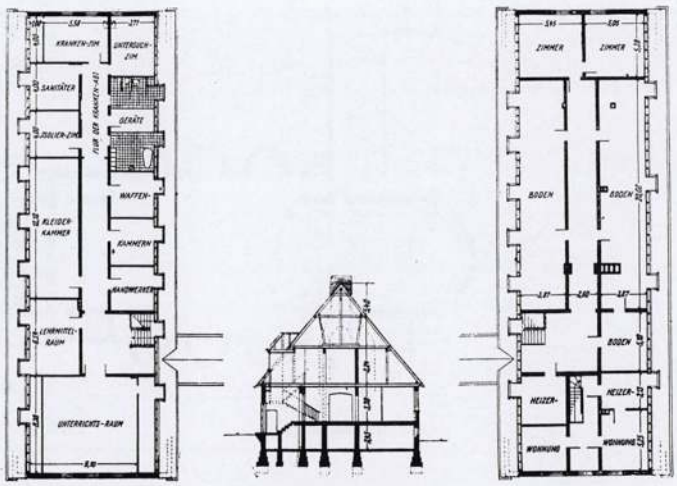
平　面　圖



正門から宿舎及農舎を望む

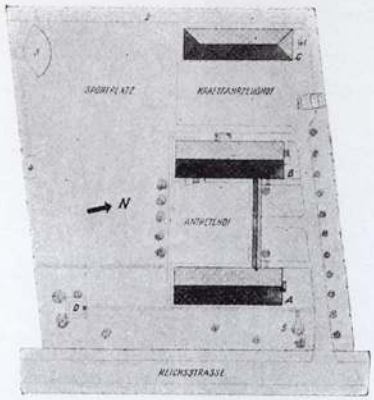


1 階 平 面 圖



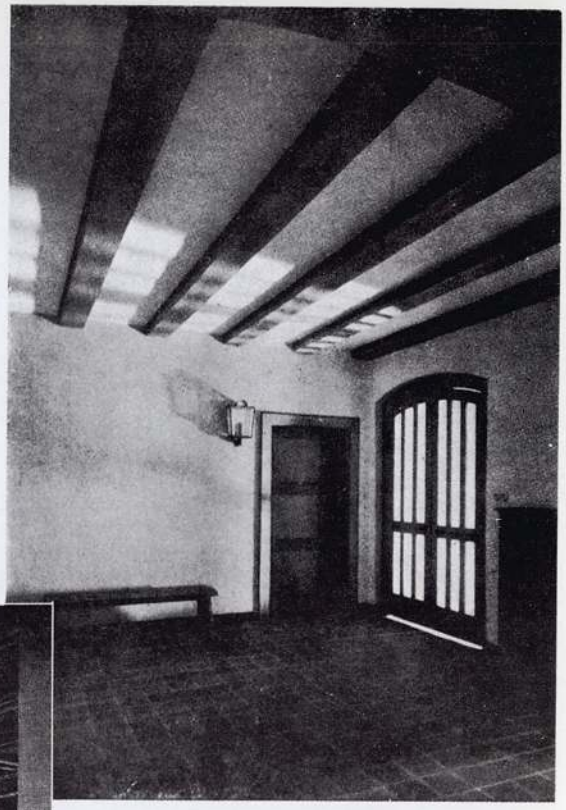
農 舎 斷 面 圖　　2 階 平 面 圖

III 22　（ドイツ）Greifswald の自動車憲兵隊宿舎

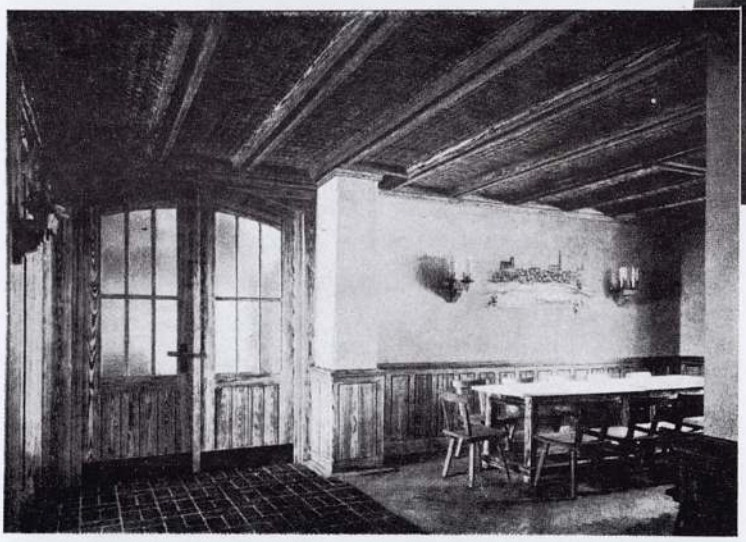


配 置 圖

A宿舍　B農舍　C車庫及工場
1自動車給油所2．100M道路
3高跳場　4幅跳場
5掲旗柱



農舍の階段室



農舍の食堂

壁板は松の燒板．天井は煮沸處理した柳製のマット。

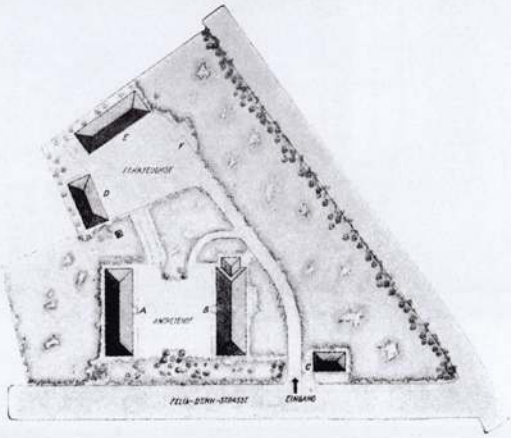


酒　保

腰掛には．制服附屬金具を保護する爲に獨特の老案になる箱り掛りが設けられてゐる。
（Zentralblatt, Dez, 1938より）

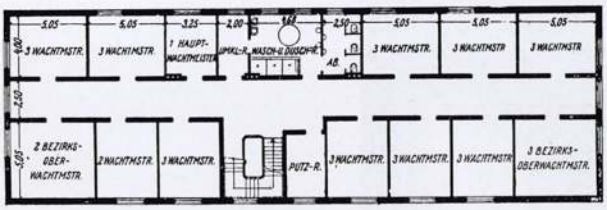


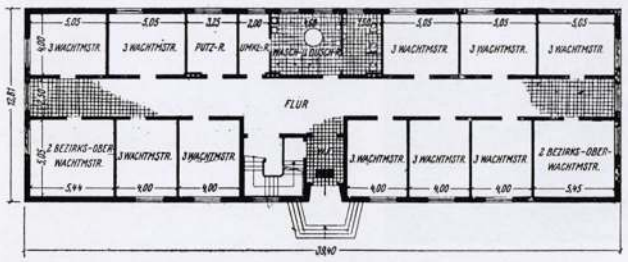
集合場から宿舎を望む



配置圖

A 宿舎　B 農舎
C 廚舎　D 工場
E 車庫　F 給油所



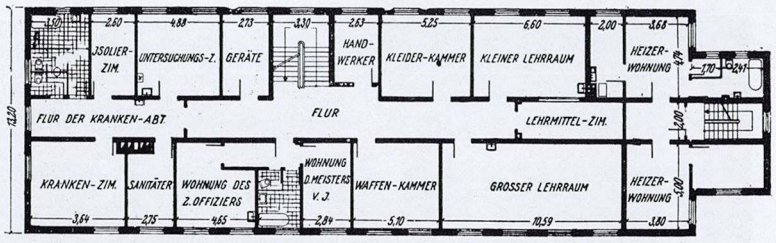


1.2 階平面圖

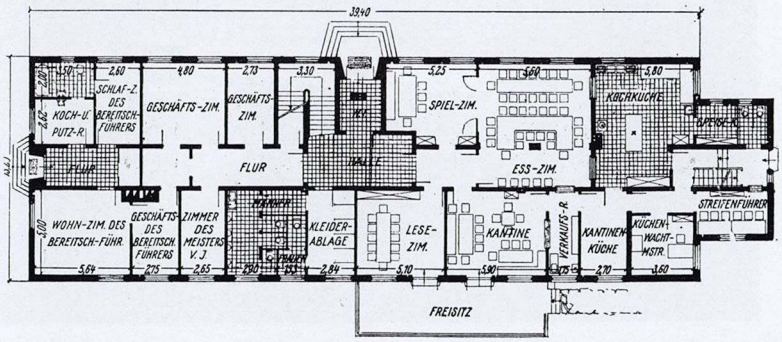
III 24（ドイツ）Altdam の自動車憲兵隊宿舎



農舎内にある作業
指導員住宅の入口



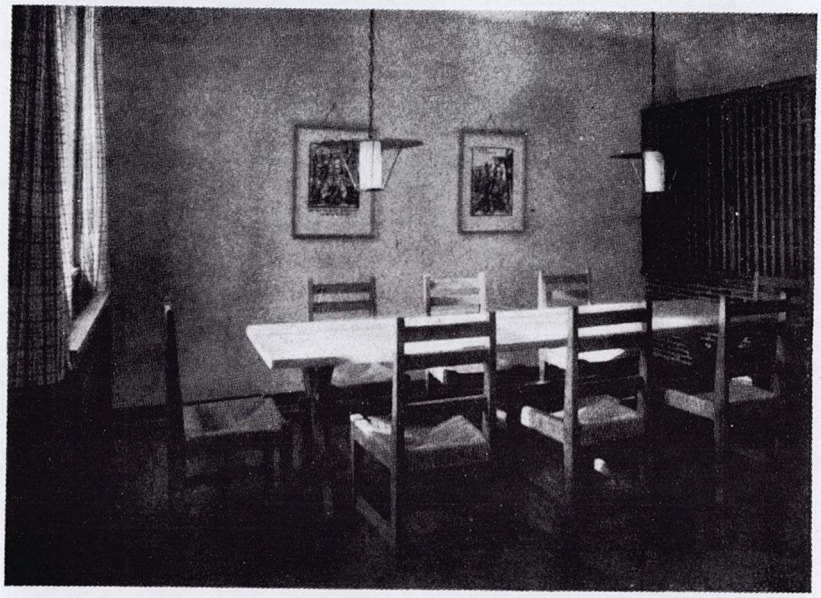
2 階 平 面 圖



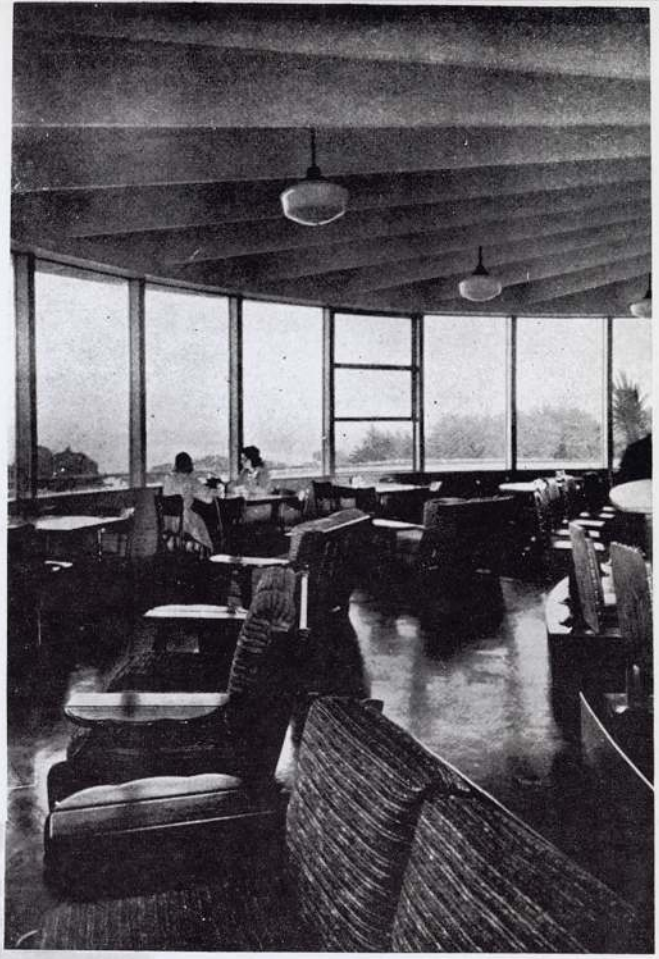
1 階 平 面 圖



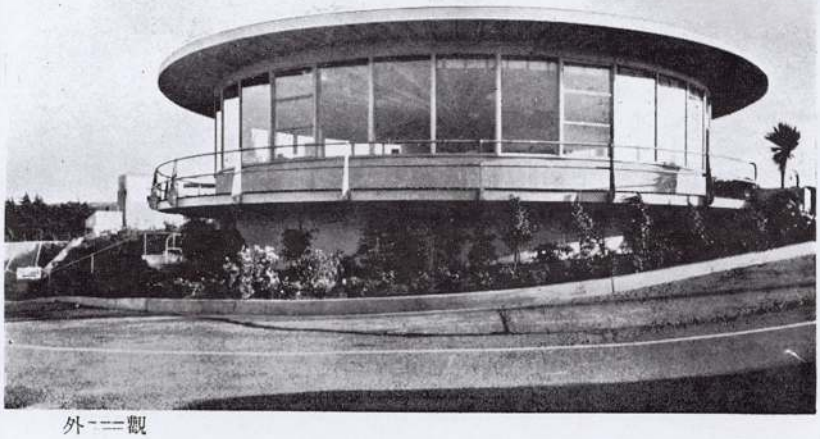
農舎の1階にある食堂



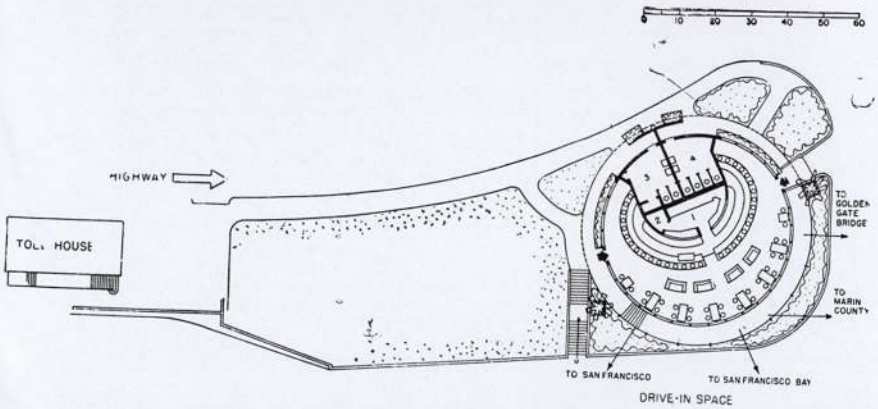
酒　保



内　部



外ー二觀



このレストランはサンフランシスコのゴールデンゲート橋を渡る人達が愉快に憩へる様に建てられたもので．殊に日曜日など橋を散歩する人達によつて非常によく賑はつてゐる。建物は圓形にしてゴーデンゲイド・サンフランシスコ灣及びその町と３方面の展望を盡く自由に得られる様に大きなガラス窓がとられて食卓もそれに沿ふて配置されてゐる。

（Architectural Record, Jan., 1939より）

ヨーギヨー
シリカセメント

特異性能

耐　火＝攝氏八〇〇度以上の赤熱から冷水に投じて龜裂せず
防　火＝地下室、地下道に使用して防水効果絶對顯著なり
耐　鹹＝岸壁「ケイソン」等海水工事に浸蝕なく強力增加す
低　熱＝堰堤其他「マツスコンクリート」に使用して發熱せず
耐　蝕＝硫酸等の酸類及鹽類溶液中にても蝕損せず安全なり
鏝　展＝壁面に塗つて普通セメントに比し五割の鏝展なり



大阪窯業セメント株式會社

會報



名譽の戰死者

普通贊助員

工兵軍曹　**鹽崎政雄氏**

明治36年8月16日生る
大正10年3月　和歌山縣立工業學校建築科卒業
大正12年12月　高槻工兵隊入營
大正13年　工兵伍長任官
大正13年7月　退營後大阪市西區京町堀上通3丁目横田工務所勤務
大正13年6月　本協會普通贊助員に入會
昭和13年6月　應召
昭和13年10月　○○方面に於て戰死

常務會（第3回）

時　2月6日午後5時30分—7時10分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　片岡會長　中澤副會長
監事　松本監事　山脇監事
常務　桐本主記　黒田主記
伴野主記　三浦主記
藪中主記　久保田主計
松井主計　龜井編輯

議事
1. 評議員會開催に關する件
2. 剩餘金處分に關する件
3. 2月例會に關する件
4. 滿洲の土木建築に關する講演と映畫の夕開催の件
5. 竹中式潛函工法映畫觀覽の件
6. 市街地建築物法令改訂出版の件
7. 敎化委員會より大工資格檢定試驗制度に關する特別委員會設置方の件
8. 同委員會より臨時委員依囑方要求の件
9. 都市武裝促進委員會よりの希望に關する件
10. 同委員會より委員依囑方要求の件
11. 大分工業學校より「建築と社會」寄贈方依賴の件
12. 土木工業協會より會誌交換方依賴の件
13. 給仕辭職願出並採用の件
14. 會員詮衡

報告
1. 委員長、幹事、幹事長決定報告
2. 1月例會報告
3. 13年度決算並會計檢查報告
4. 出征、入營者報告
5. 南京、上海防空空爆擊調查報告書寄贈受の件

陳列場幹事會（第2回）

時　2月9日午後6時30分—7時30分
所　陳列場別室
出席者　幹事長　中西
幹事　伊東、小川

協議事項
1. 幹事增員依囑方の件
1. 建築材料展覽會に關し材料委員會と協議の件

材料委員會（第2回）

時　2月9日午後7時—9時
所　陳列場別室
出席者　委員長　松久保
幹事　木野山、道田
委員　秋田、楠瀨、島田

協議事項

1. 建築材料展覽會開催に關し陳列場幹事會と打合せを行ふ
1. 委員增員依囑に關する件

都市計畫委員會（第2回）

時　2月9日午後7時―8時20分
所　倶樂部室
出席者　委員長　鳥井
幹　事　中井
委　員　伊藤、小宮、菅、稗田、森口

協議事項

1. 本年度研究事項に關する件

建築新工法の講演と映畫の會

時　2月10日午後6時30分―8時30分
所　大阪朝日新聞社3階廣間
出席者　約 400名

1. 午後6時30分伴野常務開會の挨拶を述べ講演者大內氏を紹介す
1. 大內氏は下記演題により40分間に亘り熱心に講演せらる
1. 竹中式潛函工法に就て
株式會社竹中工務店潛函部長大內二男氏
1. 午後7時10分講演終了夫れより質疑應答に入り出席會員中よりの質問に對し夫々大內氏より應答あり
1. 午後7時30分映寫に移り下記映畫上映す
1. 新興建築日本
1. 朝日世界ニュース
1. 角力の妙技
1. 日本民謠集
1. 午後8時30分伴野常務より講演者並竹中工務店に對し謝辭を述べ一同拍手を以て之に和し盛會裡に散會す

法制小委員會（第2回）

時　2月10日午後6時30分―9時
所　陳列場別室
出席者　委員長　玉置
幹　事　松井
委　員　田中、平野、村田

協議事項

1. 市街地建築物法令改訂第9版原稿作成の件

陳列場幹事會 材料委員會 聯合會（第1回）

時　2月16日午後6時50分―9時40分
所　倶樂部室
出席者　陳列場幹事長　中西
幹　事　伊東、小川、黑田、小林
材料　委員長　松久保
幹　事　木野山、道田
委　員　秋田、楠瀨、島田

協議事項

1. 時局建築展覽會開催に關する具體案に付協議す

評　議　員　會

1. 昭和14年2月17日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 出席者下記の通、評議員28名、監事1名
伊藤　和夫、　飯田　賢次、　石井　春雄
石川　寬三、　石川純一郎、　岩尾　保衞
小笹　德藏、　大下順三郎、　岡本松太郎
加納　眞一、　片岡　安、　龜井幸次郎
桐本　楠雅、　久保田種吉、　黑澤　研
小林　清、　鈴木金太郎、　中澤誠一郎
中島　喜平、　中西　六郎、　伴野　眞三
福知　秀夫、　松井清之助、　三浦　茂
道田泰治郎、　矢田　鐵藏、　藪中　一夏
米倉　威夫　以上評議員
山脇友三郎　以上監事
1. 午後6時10分會長理事片岡安氏議長となり只今出席者23名にして定款第24條に依り評議員定員43名の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げて開會を宣し直に議事に入る

議案第1號　理事1名補缺選擧に關する件

理事副會長竹腰健造君此度都合により辭任申出ありたるを以て定款第17條第19條及第20條により補缺選擧を行ふ旨を述べ右3ケ條に付定款抜萃朗讀す、次で選擧方法に付議場に諮りたる處評議員久保田種吉君起立前例により詮衡委員5名を擧げて詮衡を一任し尙詮衡委員の人選は議長に一任したしとの動議あり、議長より只今久保田君より動議あり如何ですかと贊否を問ふ贊成異議なしの聲あり
議長は夫れでは詮衡委員制とし委員は一任さ

れましたので私より御指名申上げますとて

伴野　貞三君、三浦　茂君

大下順三郎君、桐本　楠雅君

黒澤　研君

を指名し以上五名の方にお願ひ致しますから直に別室にて御詮衡願ひますと述べ詮衡委員は別室に入り詮衡に着手す

議案第2號　昭和13年度收支決算に關する件

議案第3號　昭和13年度剩餘金處分に關する件

議長より右2案を1括して松井主計常務より說明致しますと述べ

松井主計は決算並に剩餘金處分案につき別表により詳細に說明をなす

次で山脇監事起立只今主計より說明ありたる昭和13年度收支決算につき夫々査閲せる處總て合法的に整理されある旨を證明す

次て議長より右2案に付質問なきやを問ひ異議なし異議なしの聲あり夫れでは右2案共御承認のことと認めますと告ぐ、此時詮衡委員詮衡を終りたる旨を議長に報告し其氏名を手交す

1. 次で議長より只今詮衡委員より詮衡の結果を提示されましたとて下記の通發表す

理事　副會長　坂　　靜　雄君

是で竹腰健造君辭任の後任として坂靜雄君が當選されましたから早速夫々手續きを致します、一同拍手

1. 夫れより議長は本評議員會議事錄の代表署名者に下記の2君を指名し其承諾を得たり

鈴木金太郎君

中西六郎君

1. 次で議長より本日の評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す、時に午後6時40分

會員委員會（第2回）

時　　2月18日正午―午後2時

所　　陳列場別室

出席者　委員長　鈴木

幹事　松井

委員　池田、大下、景山、鈴木(忠)、富士岡、藪中、米倉

協議事項

1. 新入會員勸誘方法に關し打合す
1. 委員增員方の件

常務會（第4回）

時　　2月20日午後4時30分―5時20分

所　　大阪軍人會館貴賓室

出席者　理事　片岡會長

監事　山脇監事

常務　伴野　主記、三浦　主記

藪中　主記、久保田主計

松井　主計、新名　編輯

中西陳列場幹事會幹事長

松久保材料委員會委員長

議事

1, 3月例會に關する件
2, 材料委員會並陳列場幹事會より展覽會開催方要求の件
3. 陳列場幹事會より幹事依囑方要求の件
4. 材料委員會より委員依囑方要求の件
5. 敎化委員會より臨時委員依囑方要求の件
6. 給仕辭職願出並採用の件
7. 會員詮衡

報告

1. 1月分會計報告
2. 建築新工法の講演と映畵の會終了報告
3, 理工團體懇談會に出席の件

二月例會（滿洲建築事情講演と映畵の會）

時　　2月20日午後6時30分―9時

所　　大阪軍人會館

出席者　約 450名

1, 午後6時30分龜井常務司會の下に開會を告げ下記順序により各講師並に演題を夫々紹介す

1. 開會の辭

日本建築協會々長　工學博士　片岡　安氏

1, 滿洲建築界の事情に就て

滿洲國營繕需品局長　工學博士　笠原敏郎氏

1. 滿洲國政府關係營繕に就て

滿洲國營繕需品局營繕處長　桑原英治氏

1. 閉會の辭

日本技術協會關西支部長　工學博士　坂本助太郎氏

1. 午後8時より下記映畵を映寫

1. 伸び行く國都（滿洲國）
1. 夏の哈爾賓

1. 午後9時散中常務閉會の旨を告げ散會す
1. 本日は生憎雨天にて聽衆の入場氣遣はれたるも熱心なる聽衆約 450名に及び盛會であつた

設備委員會（第2回）

時　2月21日午後6時30分— 8時20分
所　倶樂部室
出席者　委員長　岩尾
幹　事　篠原
委　員　石井、大久保、大原
協議事項
1. 防毒設備に關する講演會開催の件
1. 臨時委員依囑方の件

會員動靜

入會者

會員

安藤　繁夫君	和歌山縣伊都郡見好村大字三谷（大阪鐵道局工務部建築課）
加藤　悦雄君	西成區津守町501（あめりか屋）
高阪　辰夫君	府下北河内郡三郷村高瀬93（あめりか屋）
菅原　徹郎君	神戸市林田區6番町2ノ35ノ1（神戸市役所經理部建築課）
長谷保太郎君	神戸市灘區永平町1ノ40（大阪鐵道局）
古家　旬君	北區北扇町57（合資會社日本建築工藝社）

地方會員

石川　學君	普通贊助員より轉格
熊田　忠次君	滿洲國三江省佳木斯（省公居官房經理科營繕處）

特別贊助員

竹林　勝吉君	東淀川區中津本通3ノ102（三英電機製作所）

普通贊助員

青木　秀雄君	北區大深町（大阪鐵道局工務部建築課）
赤松　美三君	南區鰻谷東之町8（住友電線製作所）
乾　亮三君	奈良縣生駒郡生駒町大字谷田721（大阪鐵道局工務部建築課）
臼井　正三君	廣島縣江田島海軍兵學校清水組出張所
上野　信三君	府下南河内郡南八下村大字野尻487（大阪鐵道局工務部建築課）
岡本　博吉君	京都市左京區新堺町通仁王門南入和國町（同上）
太古　正治君	神戸市林田區細田町2ノ120（同上）
土橋　彰君	東成區片江町184（同上）
中川　秀夫君	奈良縣生駒郡富郷村大字興留648（同上）
西　楠吉君	尼崎市次屋ノ子後野2ノ6（同上）
葉賀　敏雄君	大津市膳所錦町新堀（同上）
前川　長年君	府下三島郡吹田町西ノ奥1.054（同上）
宮本　重夫君	兵庫縣武庫郡瓦木村上瓦木字宮前374（同上）
山下源太郎君	旭區南島町737（古塚正治建築事務所）
渡邊　嘉君	天王寺區國分町（大室ゴム店）

退會者

會員

傳谷一四二君

地方會員

三島　剛君

特別贊助員

中西　長次君

普通贊助員

石井　淳嗣君、小出　博君、谷脇　清泉君
森田　充宏君、玉田　明正君、鹽田　武一君

轉居轉勤

會員

渡邊　久雄君	岡山市國富町255
宮崎　巖君	新京祝町3ノ9
森本　義雄君	京都市右京區松室庄田町4
麻野　俊定君	府下中河内郡八尾町中之町
山手　研吾君	福岡市新家町21（清水組九州支店）
吉田　正彦君	愛媛縣新居濱市山田住友社宅
市岡　末廣君	旭區南島町884ノ4
菅　陸二君	東淀川區三津屋南通1ノ66
杉　喜代一君	東區高津9番丁11
井手　正雄君	北區扇町市水道部廳舍
紺谷　昌亮君	浪速區立葉町1.302
平原　國雄君	同　紺谷昌亮方
武田　雅男君	戸畑市小芝町3ノ1.382
住野　一義君	旭區鴫野町52
大江　武夫君	京都市東山區松原通東山線西入上ル　三葉荘内
岡部　巖君	布施市菱屋西4ノ63

今西　太一君　戸畑市東天籟寺町35

地方會員

吉村　幾藏君　長崎市興善町3
伊藤　鑑一君　住吉區晴明通2ノ46
北村　禎庸君　西淀川區福町218
和田　盛郎君　神戸市灘區櫻口町3ノ14
杉浦　巴君　山口市上羽坂(山口縣廳營繕課)
高橋　壽男君　住吉區阪南町東3ノ20　佐藤新四郎方
仰木　藤七君　漢口交通路35號　清水組出張所

特別賛助員

永井　喜市君　此花區吉野町3ノ92(株式會社淀川鐵工所)
吉川　春義君　北區都島北通2ノ159
三島圓四郎君　兵庫縣武庫郡甲子園口188　(富士スレート大阪工場)

普通賛助員

淺井　泰君　兵庫縣武庫郡住吉村八甲田735
七海　實君　兵庫縣明石郡林崎村字和阪
富坂　昇君　北區都島中通4ノ9
鈴木秀次郎君　東京市日本橋區蠣殻町4ノ6(中ノ橋アパート新館53號)
谷村　定雄君　吳市東鹽屋町71　道原八十一方
森田常一郎君　東京市豊島區巢鴨町3ノ5
西崎　富男君　岡山市森下町61
田村　幸一君　東京市四谷區南伊賀町52
龜尾萬太郎君　旭區森小路町5ノ109東洋ハウス
福島　豪郎君　神戸市兵庫區永澤町1ノ120(山森工務店内)
主計　一雄君　住吉區住吉町1.078

改　姓

會　員

大橋　俊定君　(舊姓麻野)

死　亡

會　員

小山助太郎君　昭和14年2月16日逝去

普通賛助員

立木　誠造君　昭和13年12月3日逝去

(謹んで哀悼の意を表す)

本號執筆者紹介

(五十音順)

石川儀有	大阪市防護課
伊東五郎	內務技師・計畫局
岩尾保衛	岩尾工務店主
大熊喜邦	工學博士・錦鷄間祇候
太田喜二郎	畫家
加藤善吉	堺市技師・技術課
龜井幸次郎	大阪府警察部建築課・技師
瀧澤眞弓	神戸高等工業學校教授
棚橋諒	工學博士・京都帝國大學工學部助教授・本協會常務
永野貞次	兵庫縣警察部消防課
奈良幸次郎	大阪市防護課
平野眞三	市政調査會研究員
平野彌助	株式會社清水組
藤原義一	姫路市技師
富士岡重一	大阪市經理部營繕課長
堀口甚吉	大阪府立西野田職工學校建築科長・本協會常務
宮田秀穗	大阪市技師・防護課
モトノ・セイゴ	京都高等工藝學校教授
森口清	大阪府警察部建築課

3　月　號

編輯後記

○本號は豫告の如く「役員の雜誌」から「會員の雜誌」へを目指して、種々と間口を擴げた目論見の結果、〝會員の聲が何處にあるかを窺知することが第1條件であらねばならぬ〟。と云ふ結論に達したのである。

○此の要求から試みられたのが〝紫烟室〟と云ふのである。此處では、會員でありさへすれば何んな放談でもなし得ると云ふことに一應したのである。だから今後は此の會員の聲が、此の「建・社」を指導して行くものでありたいと希望して居る。だから會員たるものせいぜい此の欄の利用を試みられ、雜誌をして諸君のものたらしめたいと願つてゐる。

○此の行き方に即應する方法の一つとして市街地物法の改正を機會に、內務省から改正の要旨を、そして協會としましては關係各方面の有志を招き座談會を催し、會員各位の直接的な此の問題の理解に資することにした。そして此處に豫期以上のものを發表し得たのを欣快とする。

○其の他に大熊先生からの俗說吊天井、平野眞三さんからの美觀審査委員會とその運用に就ては、全くの拾ひ物で、此の新しい行き方の動向を示唆し得るものと誇示するに足るものと思ふ

○また同一テーマとして〝建築と色彩〟の欄には瀧澤さんの〝古典建築の色杉〟と云ふ力作ものから、富士岡さん、太田さん、モトノさん及藤原さん等のエキスパートによるそれぞれの論說も特徵のあるもので是非一讀を推勵したいものばかりである。

○紫烟では、加藤さん、岩尾さん、堀口さん及平野（彌）さん等の顏振も出揃ひ次號の顏振が期待される譯である。

○又宮田さん他2名による木造家屋の改修方法試案も、時局ものとして勵めたいものである。

○さて新しい目論見はやつて見たものゝ思ふ樣には具體化出來ず、御期待の萬分の1も滿し得なかつたと思ふが、會員の聲に從つて出來得るかぎり改善に努力する積りである。

（龜井幸次郎）

建築と社會

第22輯　第3號

毎月1回1日發行　定價　1册　50錢（郵稅3錢）
12册　6圓（〃36錢）
昭和14年2月25日印刷　昭和14年3月1日發行

發行・編輯
印刷人　小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	½頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5,00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

“建築と社會”第22輯第3號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……14
　　淺野スレート株式會社……17
　　阿部鐵工所……31
エ　榮進社……28
　　英進商會……9
　　荏原製作所……35
オ　大阪窯業セメント株式會社……中揷
　　大阪伊丹商店……27
　　大阪組立コンクリート製作所……34
　　大野製作所……表紙 4
　　奥村重兵衛商店……26
カ　河津裝飾店……24
キ　桐田商會……21
ク　久保商店……22
ケ　建盛商會……8
コ　後藤商店……24
サ　佐久間工業株式會社……20
　　坂田ベンチレーター製作所……8
ス　須賀商會……29
セ　政正合資會社……11
　　清交社……1
タ　田島應用化工株式會社……36
　　大洋組……5
　　大成商會……34
　　田中昌司商店……11
　　田村商會……33
チ　チヨーホー商會……13
ト　東京電氣株式會社……23
　　東洋リノリユーム株式會社……2
　　巴　商　會……30
　　東洋陶器株式會社……32
ナ　南滿鑛業建材合資會社……18
　　內外土木建築材料合資會社……27
ニ　日本建築紙工株式會社……9
　　日本放熱器商會大阪支店……15
　　日本陶纖社……3
　　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　　日東物產株式會社……16
　　西原衞生工業所……12
　　西孫南店建築金物部……7
ノ　野澤幸三郎商店……25
ハ　汎建製作所……18
マ　松井商店……13
　　松下電器株式會社コンヂット部……4
ミ　三井物產株式會社……10
ヤ　矢橋大理石商店……7
ヨ　横河橋梁製作所……19
　　米本商店……22
ラ　ライトラバー工業合資會社……6